

小松市内遺跡発掘調査報告書 X

矢田借屋古墳群

島 遺 跡

吉竹 C 遺跡

2014. 3

石川県小松市教育委員会

例 言

1. 本書は、石川県小松市内において小松市教育委員会
が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 試掘調査・発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、
文化庁補助金を受けて実施した。
3. 対象となった埋蔵文化財、並びに調査地・調査原因・
調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

【矢田借屋古墳群】(平成 22 年度)

[調 査 地] 石川県小松市月津町
[調査原因] 個人農地造成
[調査面積] 1,140m²
[発掘調査] 2010. 4.26 ~ 2010. 8. 4
[調査担当] 宮田 明

【島遺跡】(平成 23 年度)

[調 査 地] 石川県小松市島町
[調査原因] 個人住宅建設
[試掘調査] 2005.11.22
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 310m²
[調査期間] 2011. 9. 1 ~ 2011.10. 8
[調査担当] 宮田 明

【吉竹 C 遺跡】(平成 23 年度)

[調 査 地] 石川県小松市吉竹町
[調査原因] 工場建設
[試掘調査] 2011. 7.28
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 617m²
[調査期間] 2011.10. 3 ~ 2011.11. 2
[調査担当] 宮田 明

4. 発掘調査は、臨時作業員を雇用して実施した。
5. 出土品整理並びに実測・製図は、臨時作業員を雇用
して、平成 25 年度に実施した。
6. 遺構の実測及び写真撮影は、各発掘調査担当者が行
い、遺物の写真撮影は、各執筆担当者が行った。
7. 本書の執筆は各担当者を目次に付記し、編集は宮田
が担当した。
8. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべ
て小松市教育委員会で一括保管している。

凡 例

1. 本書に示す座標は平面直角座標 VII 系、高度は標高
(T.P.) で表示し、世界測地系 (測地成果 2000) に準
拠している。
2. 本書に示す方位は、特に断りが無い限り、座標北で
ある。
3. 本書に示す土色は、マンセル表色系に準拠している。
4. 本文中で「飛鳥時代」は古代の範疇で扱っているが、
報告書抄録では、時代名称は原則として『石川県遺跡
地図』の区分に準拠し、「古墳時代」としている。
5. 土器の実測図で正中線上に表示したマークは、▼が
反転復元、▽が反転復元と調整の描画を示す。
6. 本文中の用語及び年代比定等は次の編年に準拠し
た。出典は各章末に挙げ、ここでは略記とする。
田嶋 (1988) 古代編年軸の設定, 北陸古代土器研
田辺 (1981) 須恵器大成
西 (1986) 土器様式の成立とその背景
望月 (2008) 南加賀地域の平安後期土器群に関する編
年の考察

目 次

I 位置と環境	1
II 矢田借屋古墳群発掘調査	13
III 島遺跡発掘調査	39
IV 吉竹 C 遺跡発掘調査	45
写真図版 1 ~ 6 報告書抄録	

第 I 章 位置と環境

第 1 節 地理的環境

(1) 市勢と沿革

小松市は石川県南部に位置し、東西約 20km、南北約 30km に跨る市域は面積 371.13km² を測る。南は大日山（1368m）で福井県勝山市と境し、ここより約 5km 北に位置する鈴ヶ岳（1174m）を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約 11 万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣 7 町村を合併して昭和 15 年市制施行、その後 2 次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

(2) 加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地（加越山地）は新第三紀火砕流堆積物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約 20m 程度あるが、平均的には 5～10m 程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地、南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿田が広がっていたが、現在は今江潟の全域、柴山潟の約 3 分の 2 が干拓され、湿田や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・滓上川等を合わせて国府台地をめぐりながら西に向きを変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図 2 は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。

(3) 梯川と梯川デルタ

梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川デルタはこれより下流には形成されず、河道は手取川デルタとの境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返さ



図 1 小松市の位置

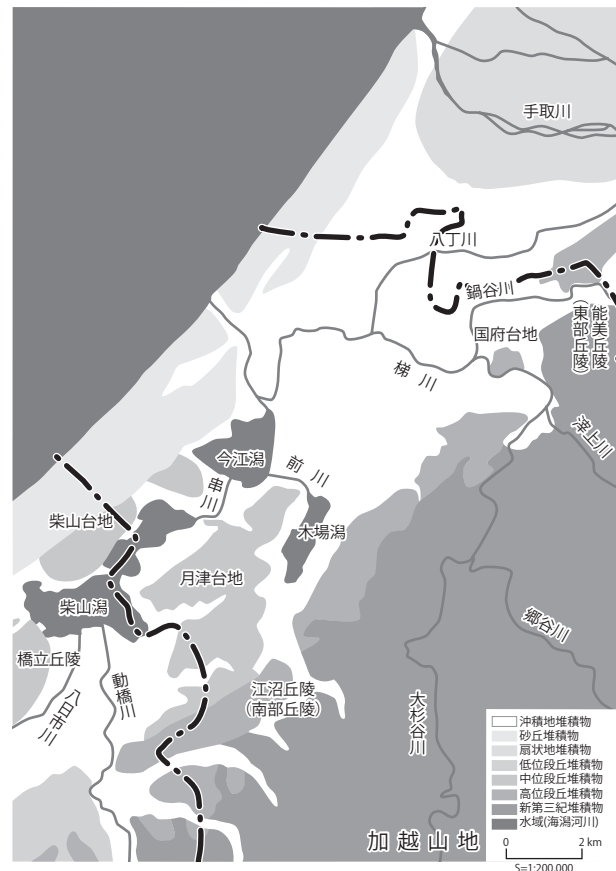


図 2 小松市の地形

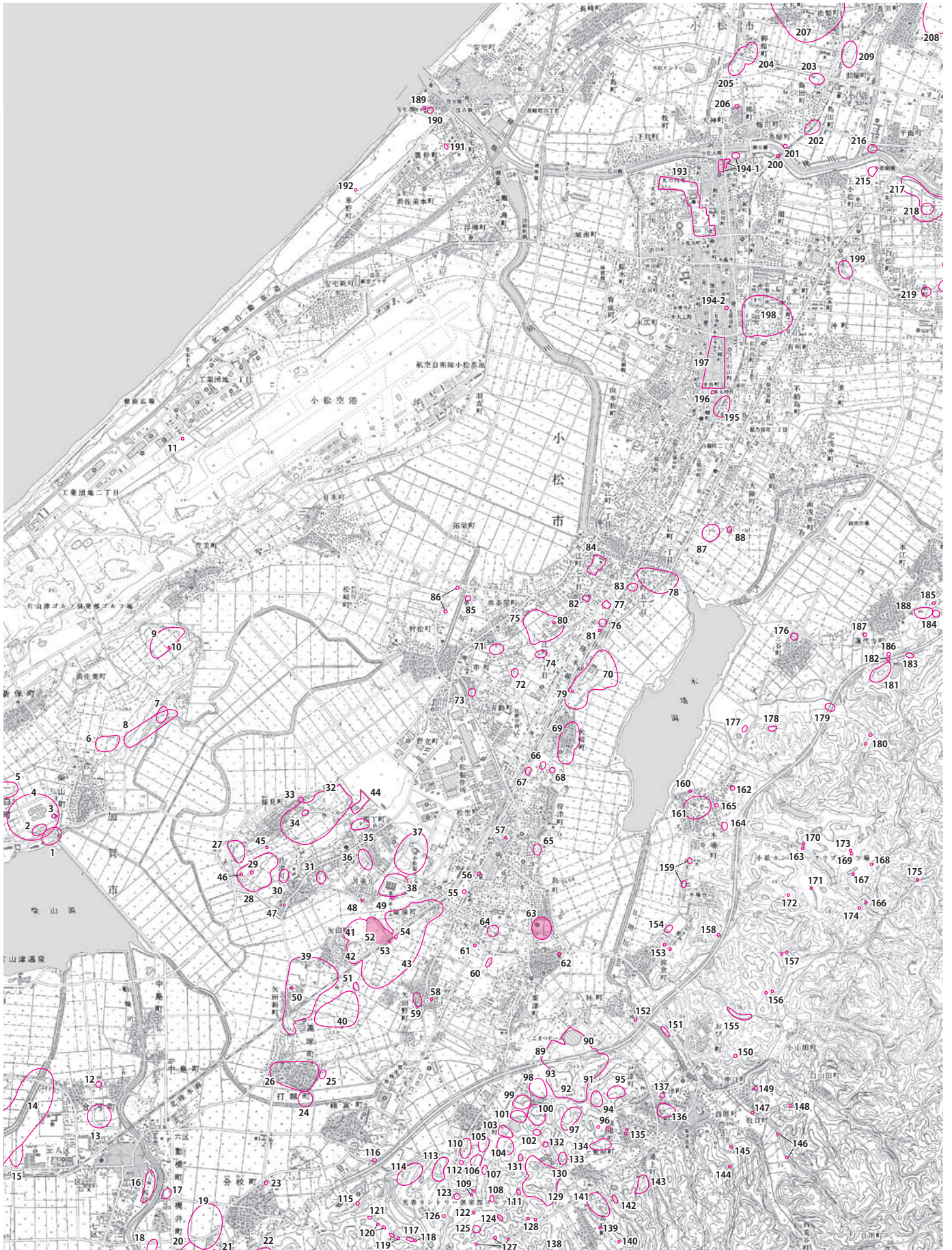
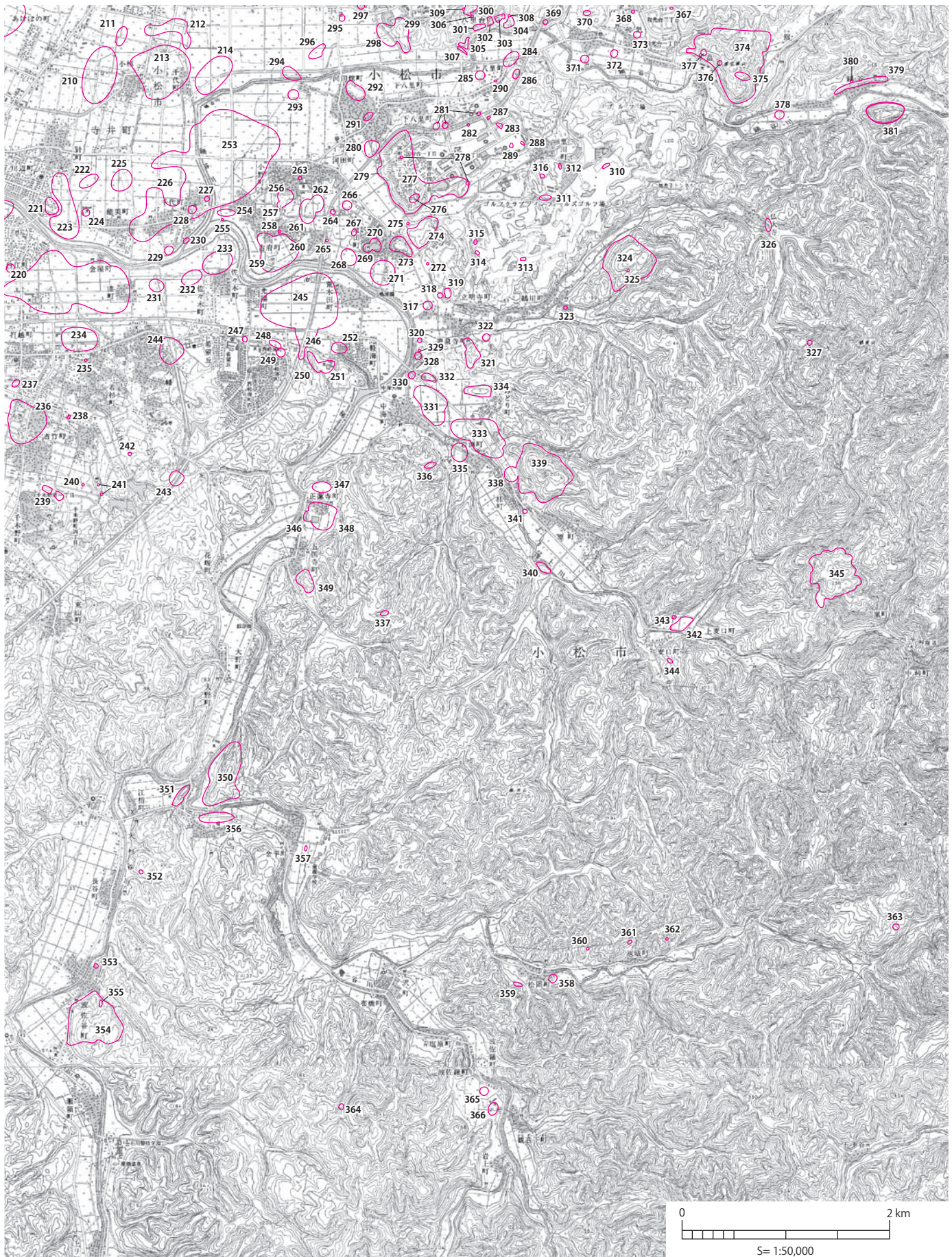


図3 遺跡分布図



れてきた。明治44年～大正12年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川デルタとは、事実上、梯川と今江潟・木場潟を結んだ領域を指している。図2に表示はないが、この領域には明治20年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貫流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、デルタを形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治32年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第2節 歴史的環境

(1) 旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡(276)や八里向山A～F遺跡(300～305)など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷A～D遺跡や宮竹うっしょやまA・B遺跡(いずれも図郭外)など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念仏林遺跡(37)が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一事例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

(2) 弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡(198)が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに収斂する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂遺跡(図郭外)、大長野A遺跡(210)、漆町遺跡(220)、荒木田遺跡(245)のように、^{たかんどう}広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡(276)や八里向山A遺跡(300)で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

(3) 古墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山5・6号墳、秋常山1号墳、和田山5号墳(いずれも図郭外)を擁する能美古墳群が手取川河道域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群(277)や下開発茶白山古墳群(図郭外)など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在しないいずれかのみ構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代オオキダ遺跡(226)で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では白のほぞ古墳(44)や御幸塚古墳(82)などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を伴う。矢田借屋古墳群(52)のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

(4) 古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6世紀以降8世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7世紀代の月津台地では、額見町遺跡(32)の発掘調査以降、矢田野遺跡(43)、薬師遺跡(70)でL字形カマドを設えた竪穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、木場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群の趨勢との相関性において注目される。

梯川デルタ地域に目を転じると、8世紀、在郷の財氏^{たから}関連遺跡とされる佐々木遺跡(231)が異彩を放つほかは、概ね盛期が9世紀後半～10世紀前半になる傾向が知られている。墨書土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図3には中宮八院(319、322、331、338、347、348、349、352)を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺跡^{きよみずでら}(243)、八里向山B遺跡(301)、里川E遺跡(314)が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、目下調査中の松谷寺跡(349)では、8世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷廃寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6世紀前半には二ツ梨東山古窯跡(105)で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群(100)、二ツ梨殿様池古窯跡群(101)で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10世紀中頃まで操業が続く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7世紀前半に八里向山J遺跡(地蔵谷古窯跡：309)で須恵器生産を開始し、同後半代には湯屋古窯跡群(図郭外)に操業の拠点を移動する。8世紀前半には和気古窯跡群(図郭外)へさらに移動し、9世紀前半まで窯を移動しながら操業が続き、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和気地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯1基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的にも供給的にも両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、現在までに知られる最古の例として、蓮代寺ガッシュウタン遺跡(183)で製鉄に伴うと見られる製炭窯が7世紀後半～未ないし8世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で荘園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡(いずれも図郭外)が律令期に成立した東大寺領幡生荘に比定されている。また、白江梯川遺跡(218)、漆町遺跡(220)は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江荘に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡(218)は、『能美郡誌』によれば、従前の白江念仏寺塔遺跡(漆町遺跡：220)周辺が推定地の一つに上がっていたが、『石川県遺跡地図』に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事実を勘案すれば、現在までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

(5) 中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一向一揆にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例は極めて乏しい。岩渕城跡(339)、岩倉城跡(345)、波佐谷城跡(354)など、縄張図が作成されている事例はあるが、いずれも、城郭としての構造が判然としない。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、甕を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12世紀末までには二ツ梨奥谷1号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に14世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（図郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

(6) 近世～現代

1640（寛永17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（194）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町に考古学のメスが入りつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（264）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では19世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（235）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（186）、小野窯（263）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括り而言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または荘園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

表1 遺跡地名表

No	名 称	種 別	時 代	備 考
1	柴山水底貝塚	貝塚	縄文	
2	柴山中世墓	その他の墓	中世	
3	柴山神社遺跡	散布地	不詳	
4	柴山城跡	城館跡	中世	
5	一白A遺跡	散布地	古墳～古代	
6	柴山貝塚	貝塚・集落跡 集落跡	縄文 古代	加賀市指定史跡
7	柴山水底遺跡	貝塚	弥生	柴山山村遺跡A地点に所在する貝塚
8	柴山山村遺跡（A地点） 柴山山村遺跡（B地点）	集落跡	弥生 古代～中世	柴山貝塚に隣接する地点
9	山の上遺跡	散布地	縄文	
10	佐美経塚	経塚	不詳	
11	日末経塚	経塚	不詳	
12	合河遺跡	散布地	不詳	
13	動橋遺跡	散布地	古代（平安）	
14	猫橋遺跡	散布地 集落跡	縄文 弥生～中世	
15	都もどり地蔵遺跡	散布地	古代	
16	動橋堡跡	堡塁跡	中世（室町）	
17	梶井衛生センター遺跡	散布地	古代	
18	梶井遺跡	散布地	古代	
19	分校A遺跡	散布地	古墳	
20	分校B遺跡	散布地	古代（平安）	
21	分校山王古墳群	古墳	古墳	円墳2
22	分校カマ山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分校高山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	打越A遺跡	散布地	縄文	
25	打越B遺跡	散布地	弥生	
26	打越城跡	城館跡	中世（安土桃山）	
27	額見町西遺跡	集落跡	弥生～中世	
28	茶臼山A遺跡 茶臼山B遺跡	散布地 散布地	不詳 縄文	
29	茶臼山祭祀遺跡	その他（祭祀）	古代（奈良）	

No	名 称	種 別	時 代	備 考
30	月津オカ遺跡	散布地	古墳・中世	
31	月津A遺跡	散布地	古代(奈良)	
32	額見町遺跡	散布地 集落跡	縄文 古墳～中世	
33	額見神社前A遺跡	散布地	古墳	額見町遺跡の一部
34	額見神社前B遺跡	散布地	縄文	額見町遺跡の一部
35	串町遺跡	散布地	縄文・不詳	
36	月津新遺跡	散布地	縄文・古代	
37	念仏林遺跡	集落跡	縄文	
38	念仏林南遺跡	集落跡	弥生～古墳	
39	矢田新遺跡	集落跡	古代(奈良)	
40	刀何理遺跡	散布地 集落跡	縄文 古代～中世	
41	矢田A遺跡	散布地	縄文	
42	矢田B遺跡	散布地	古墳	矢田野遺跡の一部
43	矢田野遺跡	集落跡	古墳～古代	
44	白のほぞ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	茶白山古墳	古墳	古墳	円墳、2段築成
47	興宗寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仏塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仏林古墳	古墳	古墳	円墳、木芯粘土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳、切石横穴式石室、家形石棺
51	狐森塚古墳	古墳	古墳	円墳又は前方後円墳
52	矢田借屋古墳群	古墳	古墳	円墳14、前方後円墳3、不明1、木芯粘土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳3、前方後円墳1
55	矢田野エジリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	養輪塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	符津石山古墳	古墳	古墳	円墳、切石横穴式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳、切石横穴式石室
59	矢田野神社前遺跡	散布地	古代(平安)	
60	下粟津A横穴群	横穴墓	不詳	横穴7～8
61	島経塚	経塚	不詳	
62	下粟津B横穴群	横穴墓	不詳	横穴2
63	島遺跡	集落跡	弥生～中世	
64	島B遺跡	散布地	古代	
65	島C遺跡	散布地	古墳	方墳?
66	符津A遺跡	散布地	縄文	
67	符津B遺跡	散布地	縄文	
68	符津C遺跡	集落跡	古墳	
69	矢崎宮の下遺跡	集落跡	縄文～中世	
70	薬師遺跡	集落跡	古墳～古代	
71	串カンノヤマA遺跡	散布地	古代(奈良)	
72	串カンノヤマB遺跡	散布地	古墳	
73	串カンノヤマC遺跡	散布地	古墳	
74	今江向ノ山遺跡	散布地	弥生	
75	狐山遺跡	集落跡	古墳	
76	土百遺跡	散布地	縄文	
77	今江五丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳	
78	五郎座貝塚	貝塚	縄文	
79	矢崎B古墳	古墳	古墳	
80	狐山古墳	古墳	古墳	
81	土百古墳	古墳	古墳	
82	御幸塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳、小松市指定史跡
83	今江横穴群	横穴墓	不詳	横穴4
84	御幸塚城跡	城館跡	中世	主郭と曲輪の一部
85	串古窯跡	生産遺跡	中世末	製陶
86	日末瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	煙瓦窯
87	大領遺跡	散布地	古代	
88	浅井殿古暇場	その他の墓	中世末	県指定史跡
89	林超勝寺跡	社寺跡	不詳	
90	林遺跡(林タカヤマ古窯跡群)	生産遺跡	古墳	須恵器窯3、南加賀古窯跡北群
90	林遺跡(林オオカミダニ古窯跡群)	生産遺跡	古墳	須恵器窯2、土師器坑1、南加賀古窯跡北群
90	林遺跡(林製鉄跡)	生産遺跡	古代	製鉄炉2、製炭窯4、鍛冶炉2、鋳型坑2
91	戸津5・12号窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯2、南加賀古窯跡北群
91	戸津シンブザワ製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	製鉄炉4、製炭窯3
92	戸津古窯跡群	生産遺跡	古代、中世(鎌倉)	須恵器窯36(瓦陶兼窯5)、土師器坑19、製炭窯2、加賀窯1、南加賀古窯跡北群
93	戸津六字ヶ丘古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯7、製炭窯1、南加賀古窯跡北群
94	戸津1号窯跡	生産遺跡	古代(平安)	製炭窯
94	戸津ワクダニ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、製炭窯1
95	戸津ショウウガダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯1、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
96	戸津2号窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
96	戸津アノヤマ古窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
97	戸津オオタニ遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯2、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
98	ニツ梨一貫山古窯跡群	生産遺跡	古代	須恵器窯12、土師器坑28、製鉄炉1、製炭窯2、南加賀古窯跡北群
99	ニツ梨豆岡山古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代	須恵器窯4
100	ニツ梨豆岡向山古窯跡群	生産遺跡	古墳～古代	須恵器窯12(埴陶兼窯2、瓦陶兼窯2)、南加賀古窯跡北群
101	ニツ梨殿様池古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代(平安)	須恵器窯(埴陶器兼窯)3、土師器坑3、南加賀古窯跡北群
102	ニツ梨グミノキハラ古窯跡群	生産遺跡	古代	土師器坑4、須恵器窯、南加賀古窯跡北群
103	ニツ梨丸山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯3、南加賀古窯跡北群
104	ニツ梨峠山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯8、南加賀古窯跡北群
105	ニツ梨東山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯5、南加賀古窯跡北群
106	ニツ梨脇釜遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯1、製鉄1、製炭窯1、南加賀古窯跡北群
107	ニツ梨横川遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯1、製鉄1、南加賀古窯跡北群

No	名 称	種 別	時 代	備 考
108	二ツ梨奥谷古窯跡群	生産遺跡	古代(平安末)	須惠器窯2、加賀窯1、南加賀古窯跡北群
109	二ツ梨奥谷1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
110	二ツ梨釜谷古窯跡群	生産遺跡	古代	須惠器窯6(瓦陶兼窯1)、南加賀古窯跡北群
111	二ツ梨カセイデ古窯跡群	生産遺跡	不詳	須惠器窯2、南加賀古窯跡北群
112	矢田野向山古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須惠器窯6、南加賀古窯跡北群
113	矢田野長尾山遺跡	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須惠器窯4、加賀窯2、製鉄3、南加賀古窯跡北群
114	箱宮ドウガヤチ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須惠器窯6、加賀窯2、南加賀古窯跡北群
115	箱宮A遺跡	散布地	中世	
116	箱宮B遺跡	散布地	中世	
117	小天王谷1～2号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯2
118	小天王谷1号製鉄跡(天王山1号製鉄跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉
119	小天王谷2～3号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
120	大久保谷1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
121	大久保谷古窯跡	生産遺跡	不詳	
122	那谷1号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯
123	矢田野カナクソダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄3
124	矢田野1～2号横穴	横穴墓	不詳	
125	那谷1～5号横穴	横穴墓	不詳	
126	那谷6号横穴	横穴墓	不詳	
127	那谷中山谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉3
128	上荒屋ユルイデン製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
129	上荒屋ジャモンダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須惠器窯4、製鉄3、南加賀古窯跡北群
130	上荒屋サンマイダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須惠器窯4～5、製鉄2、横穴1、地下式坑1、南加賀古窯跡北群
131	上荒屋サンマイダニヤマ古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代(奈良)	須惠器窯4、南加賀古窯跡北群
132	上荒屋キダシ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須惠器窯2、南加賀古窯跡北群
133	上荒屋トリダニ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須惠器窯1、加賀窯1、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
134	上荒屋オジヤマヤマ古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯4、製鉄炉1
135	戸津1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
136	戸津本蓮寺跡	社寺跡	中世(室町)	
137	戸津八幡神社前遺跡	散布地	古代～中世	
138	上荒屋那谷口遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1
139	馬場ニカヤマ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須惠器窯1、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
140	馬場タニヤマ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1
141	上荒屋ホウジョウヤマ遺跡	生産遺跡、社寺跡、墳墓	古代(平安)～中世	須惠器窯5、製鉄炉2、墳墓、南加賀古窯跡北群
142	上荒屋ハカタン古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯2
143	湯上谷古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯10、製鉄炉2
144	西原フルヤシキ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西原ムカイヤマカナクソ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
146	牧口キドラ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
147	牧口中世墓跡	墳墓	中世(鎌倉)	牧師塚比定地
148	白山田ドヤマ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉複数
149	井口神社製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	井口エンドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	井口遺跡	散布地	不詳	
152	林八幡神社経塚	経塚	中世(鎌倉)	
153	津波倉ホツジ遺跡	横穴墓	中世(室町末)	地下式坑6、2基調査
154	大谷山貝塚	貝塚	縄文	
155	小山田コガダニ遺跡	散布地	不詳	鉾澤散布地
156	小山田スギトギ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
157	小山田オクサダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
158	津波倉ハクマイダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、製炭窯複数
159	木場古墳群	古墳	古墳	円墳4
160	木場古墳	古墳	古墳	地元で池田城跡とされる
161	池田城跡	城館跡	不詳	
162	木場温泉遺跡	散布地	縄文	
163	木場A遺跡(木場遺跡H地区)	生産遺跡	古代(奈良)	製鉄炉1、製炭窯2
164	木場B遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
165	木場C遺跡	散布地	弥生	
166	木場遺跡A地区(1号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製炭窯3、鉾澤散布地
167	木場遺跡B地区(2号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄炉2、製炭窯2
168	木場遺跡C地区(3号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
169	木場遺跡D地区(4号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、製炭窯1
170	木場遺跡E地区(5号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
171	木場遺跡F地区(6号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
172	木場遺跡G地区(7号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉
173	木場遺跡D地区(8号遺跡)	横穴墓	不詳	横穴1
174	大曲遺跡	散布地	不詳	鉾澤散布地
175	長谷醬油屋の山遺跡	散布地	不詳	鉾澤散布地
176	三谷遺跡	散布地	縄文	
177	三谷B遺跡	散布地	弥生～古墳	
178	三谷トガ谷遺跡	不詳	不詳	墳丘又は塚
179	三谷大谷遺跡	集落跡	古代～中世	
180	三谷大谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、鉾澤散布地
181	蓮台寺城跡	城館跡	不詳	小規模な若跡か
182	蓮代寺ムコンヤマ製鉄跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	製鉄炉1、製炭窯1
183	蓮代寺ガッシュウタン遺跡	生産遺跡	古墳	製炭窯3、鉾澤散布地
184	蓮代寺A遺跡	散布地	不詳	鉾澤散布地
185	本江古窯跡	生産遺跡	近世	製陶
186	蓮代寺窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「蓮代寺窯」
187	蓮代寺瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	煙瓦窯
188	蓮台寺跡	社寺跡	中世	渋川氏菩提寺「蓮台寺」比定地
189	安宅関跡	その他	不詳	県指定史跡
190	安宅住吉神社遺跡	散布地	不詳	
191	安宅中世墓群	その他の墓	中世(室町)	
192	安宅大塚古墳	不詳	不詳	積石塚とも墳丘の昔石とも、現存せず
193	小松城跡	城館跡	近世	本丸・二ノ丸・三ノ丸の一部、本丸櫓台は小松市指定史跡
194-1	大川遺跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・肥町の町屋跡

No	名 称	種 別	時 代	備 考
194-2	東町遺跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・東町の町屋跡
195	幸町遺跡	生産遺跡	中世(室町)	鍛冶
196	多太神社境内遺跡	散布地	中世(室町)	埋納銭出土地
197	本折城跡	城館跡		本折氏居館跡伝承地の一
198	八日市地方遺跡	散布地	縄文・中世	
		集落跡	弥生	環壕集落
199	上小松遺跡	散布地	古代(平安)	
200	梯川鉄橋遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された左岸側包蔵地
201	梯川鉄橋B遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された右岸側包蔵地
202	島田A遺跡	散布地	古墳～古代	
203	島田B遺跡	散布地	古墳	
204	御館遺跡	城館跡	中世(室町)	
205	銭畑遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	一向一揆・蛭川新七郎重親居館伝承地
206	梯遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	
207	松梨遺跡	散布地	縄文～弥生・中世	
		集落跡	古墳～古代	
208	長田遺跡	散布地	弥生～古墳	
209	長田南遺跡	散布地	弥生・古代(平安)	
		集落跡	中世(室町)	
210	大長野A遺跡	集落跡	弥生～中世	
211	大長野B遺跡	散布地	不詳	
212	牛島宮の島遺跡	集落跡	古代(平安)	
213	千代デジロ遺跡	集落跡	弥生～中世	
214	牛島ウハシ遺跡	集落跡	縄文～中世	
215	平面梯川遺跡	集落跡	弥生	梯川に分断された左岸側包蔵地
216	平面梯川B遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された右岸側包蔵地
217	白江梯川遺跡	集落跡	弥生・中世	
218	白江堡跡	城館跡	中世(室町)	白江新助景盛居館伝承
219	白江遺跡	散布地	古墳～中世	漆町遺跡の一部
220	漆町遺跡	集落跡	弥生～中世	
221	一針遺跡	散布地	縄文	
222	一針B遺跡	集落跡	弥生～古墳	
223	一針C遺跡	集落跡	弥生～古墳	
224	定地坊跡	社寺跡	中世(室町)	
225	千代・能美遺跡	集落跡	古墳～中世	
226	千代オオキダ遺跡	散布地	縄文～弥生	
		集落跡	弥生～中世	
		古墳	古墳	方墳6
227	千代小野町遺跡	散布地	古墳	
228	千代城跡	城館跡	中世(室町)	
229	千代本村遺跡	散布地	古墳	
230	横地遺跡	散布地	縄文	
231	佐々木遺跡	集落跡	古代	財氏居宅跡(奈良)
232	佐々木ノテウラ遺跡	集落跡	弥生～中世	
233	佐々木アサバタケ遺跡	集落跡	弥生～中世	
234	打越遺跡	散布地	古代	
235	若杉窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「若杉窯」、連房式登窯
236	吉竹遺跡	集落跡	弥生～中世	
237	吉竹B遺跡(吉竹遺跡19地区)	散布地	古墳	旧河道の痕跡
238	吉竹C遺跡	集落跡	弥生～中世	
	千木野遺跡	散布地	縄文	
239	千木野(A)遺跡	古墳	古墳	方墳8
	千木野(B)遺跡	集落跡	古墳	
240	幡生1号墳	古墳	古墳	所在不詳、現存するのは現代残土の山
241	釜谷古墳・釜谷2号墳	古墳	古墳	切石積横穴式石室
242	若杉オソボ山1号窯跡	生産遺跡	古墳	須惠器窯
243	浄水寺跡	社寺跡	古代～中世	創建は加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
		散布地	縄文	
244	八幡遺跡	集落跡	弥生～古墳・古代(奈良)・中世(鎌倉)	
		その他の墓	古代(平安)	土坑墓
	八幡古墳群	古墳	古墳	円墳8、本芯粘土室
	八幡若杉窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「八幡若杉窯」、八幡6号墳を削平して築いた連房式登窯
245	荒木田遺跡	集落跡	古墳～中世	
246	軽海西芳寺遺跡	集落跡	縄文～中世	
247	大谷口遺跡	散布地	弥生	
248	軽海遺跡	散布地	弥生～中世	
249	亀山遺跡	生産遺跡	古墳	玉作
250	軽海中世墓群	その他の墓	中世(室町)	集石墓9
251	軽海庵寺	社寺跡	古代(平安)	大興寺伝承地
252	西芳寺遺跡	社寺跡	古代(平安)	西芳寺伝承地
253	古府しのまち遺跡	集落跡	弥生～古代	
254	古府遺跡	集落跡	古代(平安)	
255	古府フンド遺跡	散布地	古代(平安)	
256	十九堂山遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国分寺推定地
257	十九堂山中世墓群	その他の墓	中世(室町)	
258	古府横穴	不詳	不詳	
259	古府シマ遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
260	南野台遺跡	散布地	縄文	
261	小野遺跡	集落跡	古代(平安)	加賀国府推定地の一隅
262	小野スギノキ遺跡	集落跡	古代(平安)	加賀国府推定地の一隅
263	小野窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「小野窯」
264	前田利常公灰塚	その他の墓	近世	前田利常公が茶毘に付された地とされる
265	埴田の虫塚	その他	近世末	害虫の菩提供養と駆除方法を記した石柱、小松市指定史跡
266	埴田ミヤケノ遺跡	散布地	不詳	

No	名 称	種 別	時 代	備 考
267	埴田ミヤタン遺跡	散布地	不詳	
268	埴田ウラムキ遺跡	散布地	古代～中世	
269	埴田フルカフ遺跡	散布地	古墳	
270	宮谷寺屋敷遺跡	散布地	縄文・中世(室町)	
271	埴田遺跡	散布地	古代	
272	埴田塚	不詳	不詳	
273	埴田後山古墳群	古墳	古墳	円墳9、木棺直葬、木芯粘土室
274	埴田山古墳群	古墳	古墳	円墳12、方墳4
275	御音提所古墳	古墳	古墳	円墳
276	河田山遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落、河田山10～12号墳が重複
		その他の墓	古代(奈良)	火葬墓、河田山1号墳の西側に所在
277	河田山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳2、前方後方墳2、円墳22、方墳34、不明1、木棺直葬、木芯粘土室、切石積横穴式石室
	河田横穴	横穴墓	不詳	地下式坑、河田山54号墳の南に開口
278	河田山1号窯跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河田山支群、河田山60号墳の北西斜面に所在
	河田山古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河田山支群
279	河田B遺跡	散布地	縄文・古代(奈良)	
280	河田C遺跡	散布地	不詳	
281	下八里横穴群	横穴墓	不詳	地下式坑6、横穴1、不明1、3地点で計8基
282	穴場横穴群	横穴墓	不詳	横穴2基
283	上八里横穴群	横穴墓	中世(室町)	横穴11基
284	上八里中世墓跡	その他の墓	中世(室町)	
285	上八里A遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
286	上八里B遺跡	散布地	古代(奈良)	
287	上八里C遺跡	横穴墓	古墳	横穴2基
288	上八里D遺跡	散布地	古代(奈良)	
289	上八里1号窯跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河田山支群
290	上八里2号窯跡	生産遺跡	不詳	地下式窯、能美古窯跡南群 八里・河田山支群
291	谷内横穴	不詳	不詳	
292	河田館遺跡	散布地	縄文・中世	
293	下出地割遺跡	散布地	不詳	
294	佐野A遺跡	散布地	弥生	
295	佐野B遺跡	散布地	古墳	
296	佐野八反田遺跡	散布地	古代	
297	狭野神社前遺跡	散布地	古代(平安)	
298	河田向山D遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
299	河田向山古墳群	古墳	古墳	円墳7
300	八里向山A遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落
301	八里向山B遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		社寺跡	古代(奈良)	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
		散布地	旧石器～縄文・古代(奈良)	
302	八里向山C遺跡	集落跡	弥生	
		古墳	古墳	前方後方墳1、木棺直葬
		散布地	旧石器～縄文	
303	八里向山D遺跡	集落跡	弥生～古墳	
		古墳	古墳	方墳2、木棺直葬
		散布地	旧石器～縄文	
304	八里向山E遺跡	古墳	古墳	方墳1
		集落跡	古代	
		散布地	縄文	
305	八里向山F遺跡	古墳	古墳	円墳10、木棺直葬
		その他の墓・横穴墓	中世(室町)	集石墓1、横穴3
		散布地	弥生・古代(平安)	
306	八里向山G遺跡	散布地	弥生・古代(平安)	
307	八里向山H遺跡	その他の墓	中世(鎌倉)	集石墓群、96基調査
308	八里向山I遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・泉台支群
309	八里向山J遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・泉台支群
310	里川A遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯2、製炭坑約20
311	里川B遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
312	里川C遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
313	里川D遺跡	散布地	縄文	
314	里川E遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
315	里川F遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
316	里川G遺跡	散布地	不詳	
317	遊泉寺・クボタA遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
318	遊泉寺・クボタB遺跡	散布地	古代(平安)～中世	社寺(降明寺)又は城館伝承地
319	立明寺古窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯(瓦陶兼窯)
319	立明寺古墳	古墳	古墳	古代墳墓の可能性も
	降明寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院、複数ある伝承地の一
320	遊泉寺遺跡	散布地	縄文	
321	宮の奥墳墓群	その他の墓	(平安)	墳墓4、3基調査、2号墓は鎌倉時代に経塚に利用された?
322	涌泉寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院、複数ある伝承地の一
323	常徳寺跡	社寺跡	中世(室町)	一向一揆・宇川常徳の居宅跡とも
324	鶴川堡跡	城館跡	不詳	一向一揆・宇川常徳の詰城伝承地
325	鶴川横穴	不詳	不詳	地下式坑?
326	仏大寺仏陀寺跡	社寺跡	中世	
327	仏大寺とうの池古墳	古墳	古墳	
328	仏生寺跡	社寺跡	中世	
329	仏生寺塚	経塚	中世	
330	ブッシュウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳2、木芯粘土室
331	中海B遺跡	集落跡	古墳～中世	
	(伝)長寛寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院、地名伝承のみ
332	中海C遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
333	中海遺跡・岩淵遺跡	散布地	縄文	
	岩淵上野遺跡	散布地	旧石器	

No	名 称	種 別	時 代	備 考
334	長寛寺中世墓跡	その他の墓	中世	
335	赤穂谷口遺跡	散布地	縄文	
336	松の木谷横穴群	不詳	不詳	存在自体が不明、5基開口とされる
337	赤穂谷スギノキ谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴9、地下式坑4
338	善興寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
339	岩瀨城跡	城館跡	中世	
340	仏ヶ原城跡	城館跡	中世	
341	仏御前屋敷跡・仏御前墓	その他の墓	古代(平安)	小松市指定史跡
342	麦口遺跡	散布地	縄文	
343	麦口中世墓跡	その他の墓	中世	
344	下麦口横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
345	岩倉城跡	城館跡	中世(室町)	
346	椎の木山遺跡	散布地	縄文	
347	昌隆寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
348	護国寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
349	松谷庵寺 松谷寺跡	社寺跡 社寺跡	古代(奈良)	8世紀前半に遡る古代山林寺院
350	平野坐跡	城館跡	不詳	中宮八院
351	江指城跡(山神山砦跡)	城館跡	中世(室町)	一向一揆・平野某詰城伝承地
352	蓮花寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
353	波佐谷遺跡	散布地	中世(室町)	
354	波佐谷城跡 (伝)波佐谷松岡寺跡	城館跡 社寺跡	中世(室町)	一向一揆・宇津呂丹波守詰城伝承地
355	波佐谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴13、地下式坑5
356	六橋遺跡	集落跡	縄文	
357	麻島尾谷遺跡	散布地	縄文	
358	松岡寺跡	社寺跡	中世(室町)	
359	火灯山横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
360	こたい谷横穴	横穴墓	不詳	横穴1
361	穴山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
362	池城経塚	経塚	中世(室町)	
363	曾山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
364	布橋遺跡	散布地	縄文	
365	寺ノ腰遺跡	散布地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
366	観音下城跡	城館跡	不詳	
367	和気後山谷奥遺跡	生産遺跡	古代(平安)	土師器焼成坑、能美古窯跡南群 後山谷支群
368	和気後山谷2号窯跡	生産遺跡	古代(奈良末~平安)	須恵器窯、能美古窯跡南群 後山谷支群
369	和気下和気古窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯、能美古窯跡南群
370	和気近世窯跡	生産遺跡	近世	
371	和気矢口A遺跡	散布地	縄文	
372	和気公文屋遺跡	城館跡	不詳	
373	和気中和気古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群 後山谷支群
374	虚空蔵城跡	城館跡	中世	
375	虚空蔵山横穴群	横穴墓	不詳	
376	寺島古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群
377	寺島業師坂古墳	古墳	古墳	
378	鍋谷社跡	社寺跡	不詳	
379	鍋谷中世墓群	その他の墓	中世	
380	鍋谷横穴	横穴墓	不詳	
381	鍋谷坐跡	城館跡	不詳	

参考文献

- イ 石川県教育委員会(1992) 石川県遺跡地図
- 石川県立埋蔵文化財センター(1986) 漆町遺跡 I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 漆町遺跡 II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 辰口西部遺跡群 I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 白江梯川遺跡 I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡 III, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡 IV, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 白江梯川遺跡 II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 蓮代寺地区遺跡 I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1990) 小松市高堂遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1993) 能美丘陵東遺跡群 I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1995) 石川県小松市荒木田遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1997) 能美丘陵東遺跡群 II, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1998) 能美丘陵東遺跡群 III, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群 IV, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群 V, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 辰口町上徳山谷山西谷窯跡, 石川県能美市

- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2002) 加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡
 (財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群
 (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1993) 小松市林遺跡
 (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1998) 石川県小松市八幡遺跡 I
 石川考古学研究会 (1988) 石川県城館跡分布調査報告
- ウ 上野 與一 (1965) 考古篇, 小松市史 4. 風土・民俗篇, 小松市教育委員会, 石川県
- 力 軽海用水誌編纂委員会 (1996) 軽海用水誌, 小松東部土地改良区, p75-77. p201-221., 石川県
- コ 小松市教育委員会 (1988) 念仏林遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (1990) 湯上谷古窯跡, 石川県
 小松市教育委員会 (1990) ニツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡, 石川県
 小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳, 石川県
 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
 小松市教育委員会 (2003) 八日市地方遺跡 I, 石川県
 小松市教育委員会 (2004) 佐々木遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群, 石川県
 小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I. ニツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II. 矢田借屋古墳群, 石川県
 小松市教育委員会 (2006) 千代オオキダ遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2006) 小野遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2006) 額見町遺跡 I, 石川県
 小松市教育委員会 (2007) 小松市内遺跡発掘調査報告書 III. 薬師遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2007) 額見町遺跡 II, 石川県
 小松市教育委員会 (2008) 額見町遺跡 III, 石川県
 小松市教育委員会 (2009) 額見町遺跡 IV, 石川県
 小松市教育委員会 (2010) 額見町遺跡 V, 石川県
 小松市教育委員会 (2011) 小松市内遺跡発掘調査報告書 VII. 矢崎宮の下遺跡・薬師遺跡 V 次, 石川県
 小松市史編纂委員会 (2001) 新修小松市史 3. 九谷焼と小松瓦, 小松市, 石川県
 小松市史編纂委員会 (2002) 新修小松市史 4. 国府と荘園, 小松市, 石川県
- ク 辰口町教育委員会 (1982) 辰口町下開発茶白山古墳群, 石川県能美市
 辰口町教育委員会 (1985) 辰口町湯屋古窯跡, 石川県能美市
 辰口町教育委員会 (2001) 辰口町湯屋古窯跡 III, 石川県能美市
 辰口町教育委員会 (2004) 下開発茶白山古墳群 II, 石川県能美市
 辰口町教育委員会 (2005) 和気後山谷窯跡群, 石川県能美市
- ケ 寺井町教育委員会 (1997) 加賀能美古墳群, 石川県能美市
- ヘ 日置 謙 (1923) 石川県能美郡誌, 能美郡役所, p366-375. p642. p823. p1268-1269. p1342-1343., 石川県
 日置 謙 (1925) 石川県江沼郡誌, 江沼郡役所, p679., 石川県
- ホ 北陸中世土器研究会 編 (1997) 中・近世の北陸, 桂書房, p193-208.

第Ⅱ章 矢田借屋古墳群発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 既往の調査

矢田借屋古墳群の調査史は古く、昭和25年8月、石川考古学研究会幹事だった上野與一氏の指導の下で小松高校地歴クラブが実施した2号墳及び4号墳の調査が嚆矢となる(第1次調査)。所在地は当時「矢田町ム11番地借屋」、「借屋塚」(日置1925)と呼ばれていた4号墳を含め、周辺に8基の古墳が確認されており、調査の結果、当時近隣に所在する念仏林古墳の調査で発見されたばかりだった粘土室を主体部に有する古墳として注目された。その後、周辺の農道補修工事等によって破壊の危機に直面し、昭和30年に工事の影響で墳丘の一部が損壊していた7号墳が、昭和36年には8号墳が調査された(第2・3次調査)。この区域は、小松市教育委員会(以下、市教委)が平成12年度に宅地造成計画を原因として詳細分布調査を実施したが、1～8号墳はこの時点で確認することはできず、これらとは別に12号墳と15号墳を確認した。なお、この時の造成計画は後に中止となった。

今調査に係る区域は月津町地内で「向借屋」と通称されていた。こちらは平成10年度に個人住宅建設の計画が持ち上がったときに市教委の試掘調査によって古墳の周溝を確認したことにより、緊急に発掘調査を実施(通算第4次調査とする)、9～12号墳として報告した。

上述した平成12年度の詳細分布調査をはじめとして、当時鬱蒼とした山林の状態だった当該地周辺は開発計画が複数あった模様で、平成13年度にも4筆分について市教委が発掘調査を実施(通算第5次調査とする)、確認した古墳は都合17基となった。

当該地は最終的に県営ほ場整備事業の一環で造成され、(財)石川県埋蔵文化財センターが道路予定地について発掘調査を実施し(古墳群の調査としては通算第6次)、この際に18基目の古墳の周溝が確認された。

(2) 調査に至る経緯

通算第7次となる今調査地は、平成10年度の通算第4次調査によって一部調査された区域にあたり、県営ほ場整備では埋蔵文化財保存のために抜根整地できないまま事業完了した。この影響で耕作ができない農地となっていたため、地権者4名より発掘調査を依頼された。最初に相談を受けたのは平成21年の秋であったが、未調査区域の面積は1,140㎡に及ぶためすぐには対応できず、次年度、平成22年度の国庫補助事業で予算化して対応することとした。

文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きは地権者4名と個別に進め、平成22年4月7日付けでそれぞれ協定書を交換した。

(3) 調査の方法

調査区は、平成10年度調査を踏襲して「A地区」「B地区」とした。グリッドも同様に踏襲し、A地区は平成10年度調査時の、B地区は平成13年度調査時のものに基づいているが、原点は保存されていないため、図上の近似点(E-6)を現場で設定しているため、既往調査のグリッドとは必ずしも一致しない。グリッドは5m間隔である。

遺構の実測は、着手前に4級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。今調査分については、グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図、ドットマップ及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は50分の1、断面図は20分の1である。

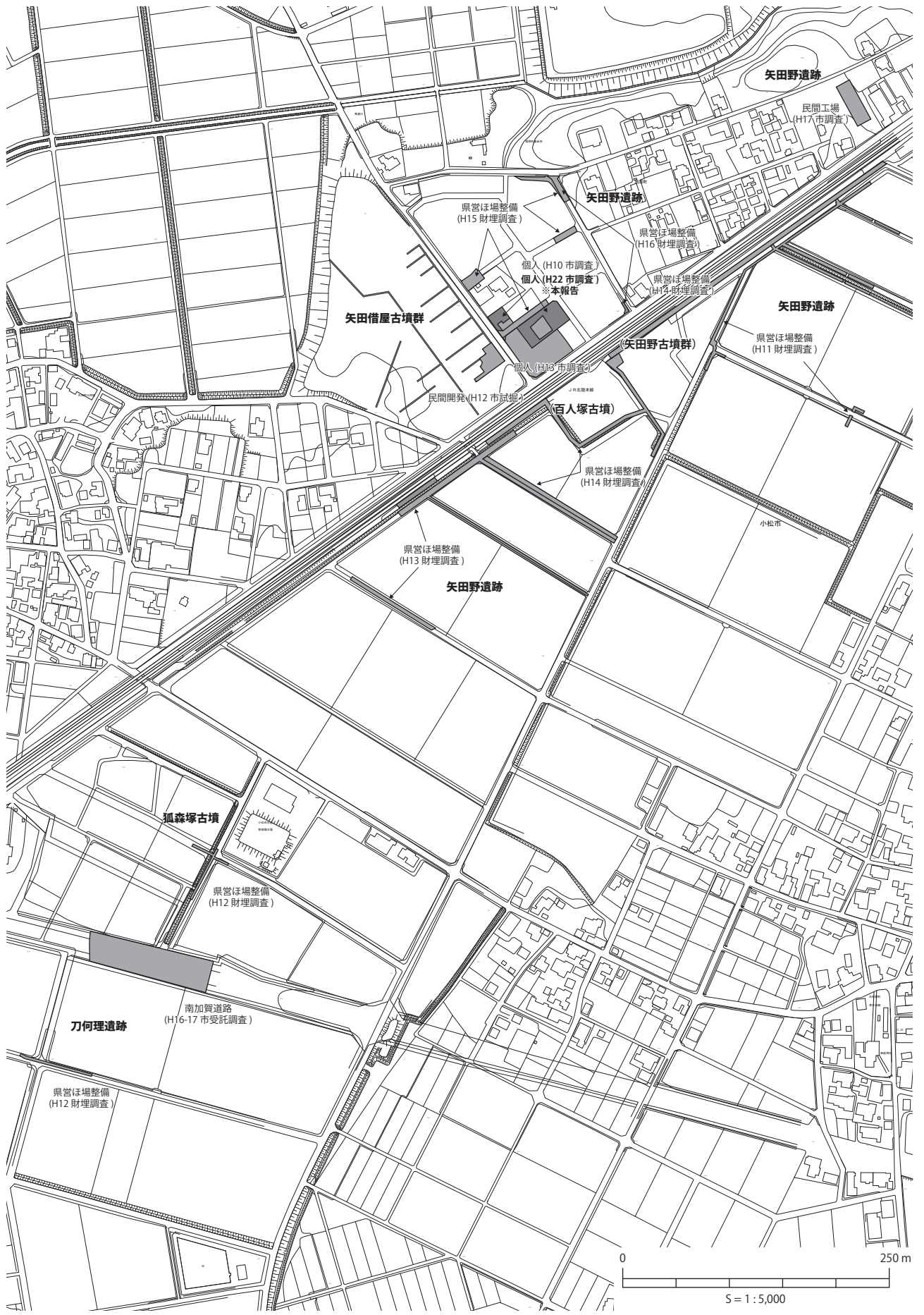


図4 矢田借屋古墳群 調査地の位置 1

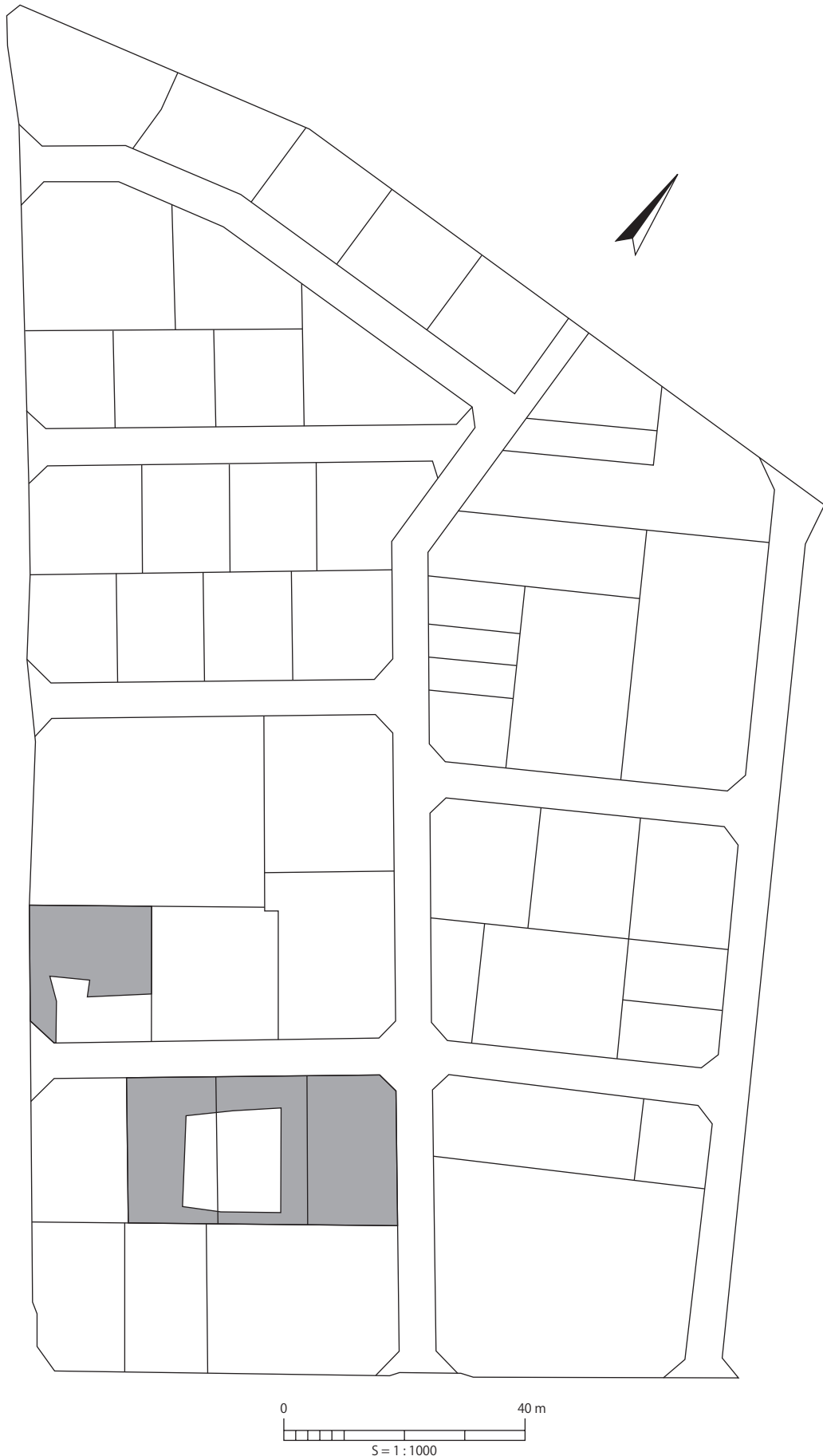


図5 矢田借屋古墳群 調査地の位置 2

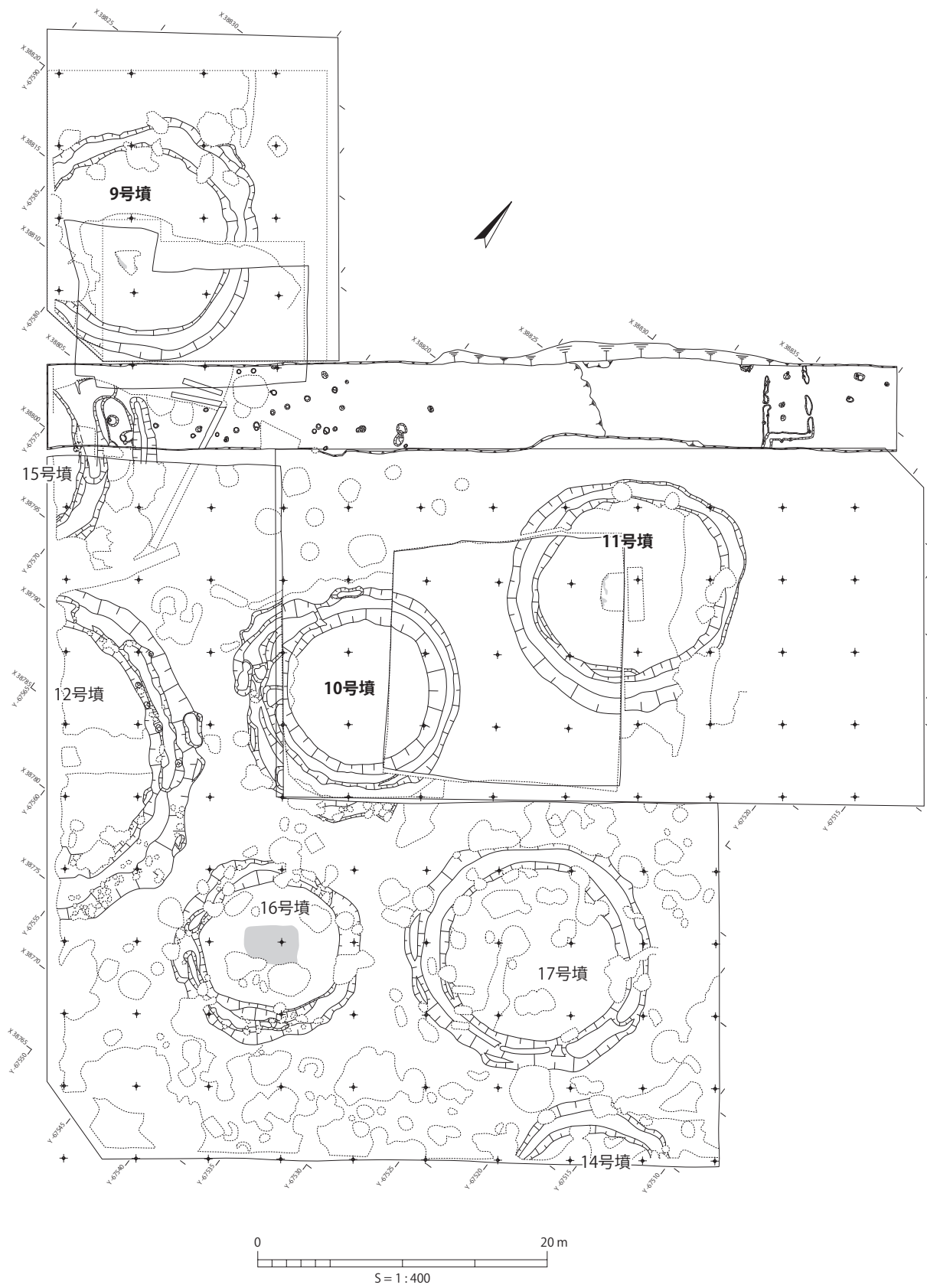


图6 矢田借屋古墳群（通算第4～7次）平面图

(4) 調査の経過

発掘調査は4月26日より着手した。重機により切株を避けながら表土を鋤き取り、グリッドを設定。作業員を入れての本格的な作業は大型連休明けにする。

5月11日にA地区より作業開始。盛土が厚く、この掘削に10日を要した。試掘を省略したことが仇となる。

5月29日に9号墳のプランを確認し、周溝の調査を開始、遺物を検出したところでシートで養生しB地区の作業に移る。

6月5日にB地区の作業開始。10号墳は表土直下にプランが見えていた。11号墳は谷に差し掛かりやや歪なプランだが、谷底まで周溝が確認された。谷に差し掛かる周溝からは、カクランの影響で散見される以外に遺物が出土しなかった。遺物を検出して作業を中断。

7月2日、10号墳から遺物のドットマップ作成開始。実際には座標だけ野帳に記録。10日にすべての作業が終了。完掘写真撮影。

7月15日より平面図作成、7月27日に手配した空中写真撮影まで余裕があるかに思われたが、週末に豪雨に見舞われ、翌週20日から排水と復旧作業を余儀なくされた。しかし大事に至らず、空中写真も予定通り撮影され、その日のうちに撤収作業も完了した。

埋め戻しは8月2日より開始、並行して地元の生産組合の整地作業が行われ、4日に埋め戻しが完了し、現場を引き渡した。

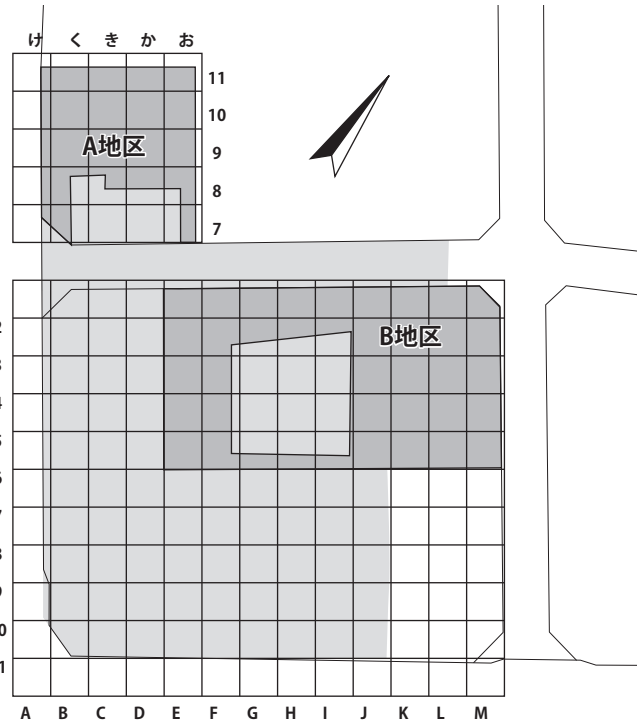


図7 矢田借屋古墳群 グリッド配点図

第2節 遺構と遺物

1 借屋9号墳の調査 (図8～14)

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、墳丘は削平されており、高さは不明。主体部は粘土室(市教委2000)、規模は、周溝下端で測ると、直径13.2～13.5mである。

(2) 周溝 (図8～10)

幅は底面で0.5～1.0m、上面で1.4～2.5mを測る。深さは、上端から底面の深さは0.4～0.5mで、標高差では南側は北側より0.2m低い。数字では掘方が一定に思われるが、見かけ上は周溝の北側は幅広く浅く、南側が幅狭で深く見える。覆土は、下層に地山ブロックを斑状に含み、この上位の黒褐色壤土～埴壤土に遺物を包含する。

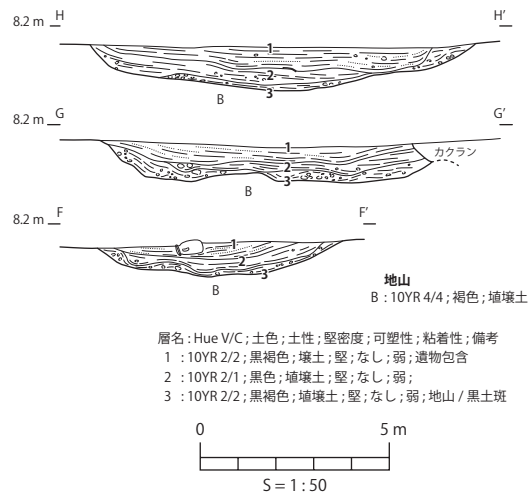


図8 借屋9号墳 周溝断面図

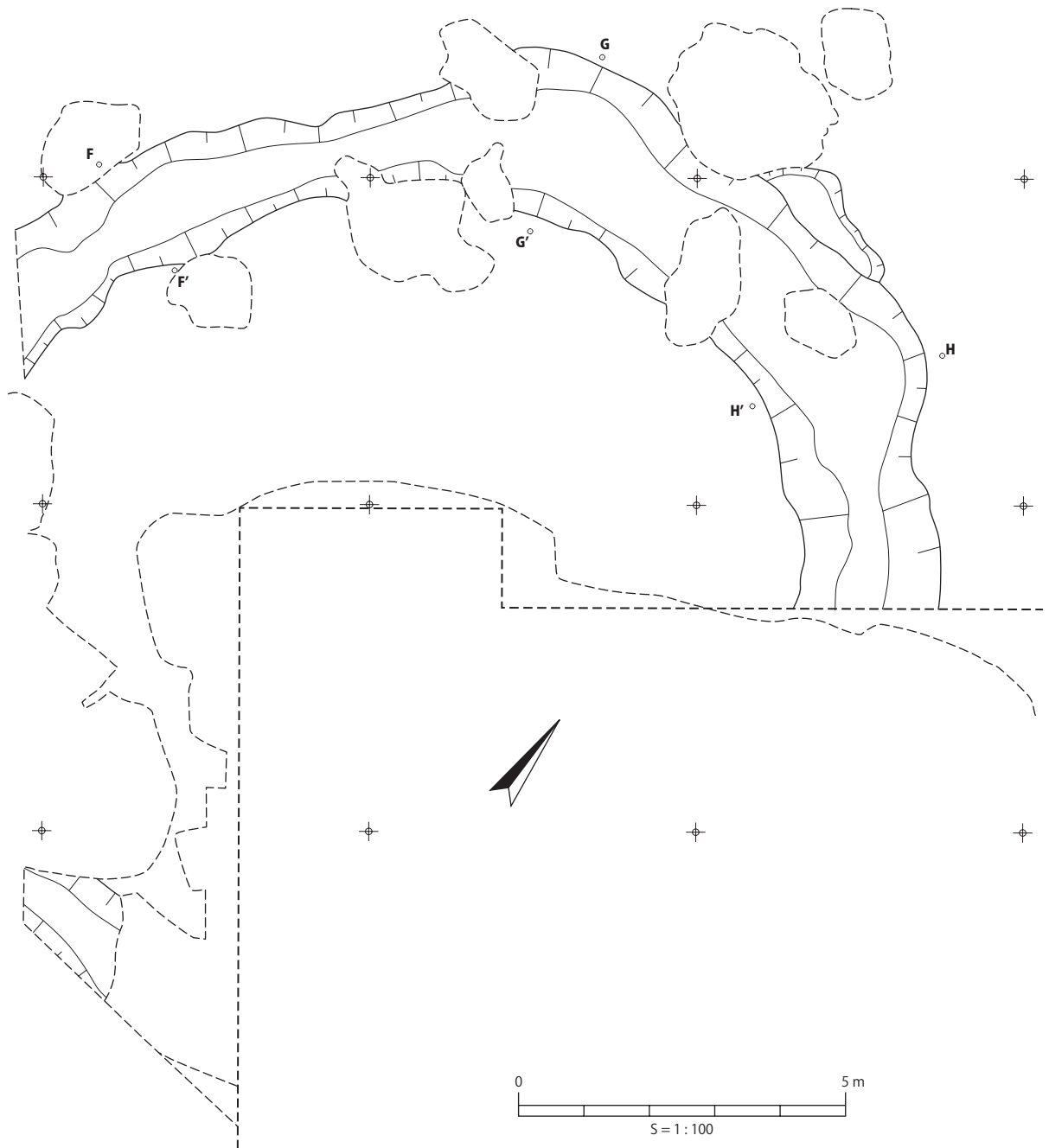


图9 借屋9号填 平面图

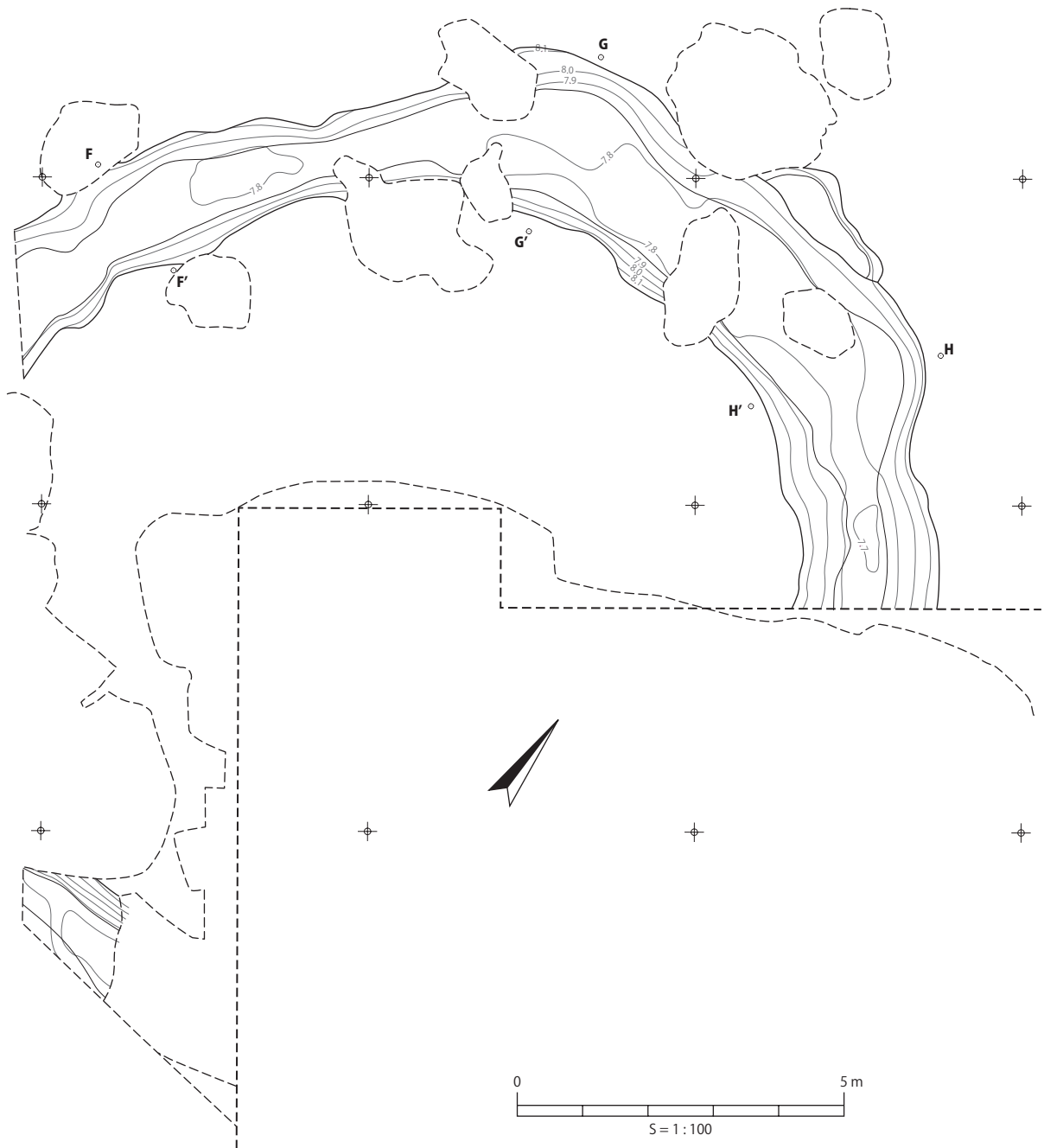


図10 借屋9号墳 周溝コンター

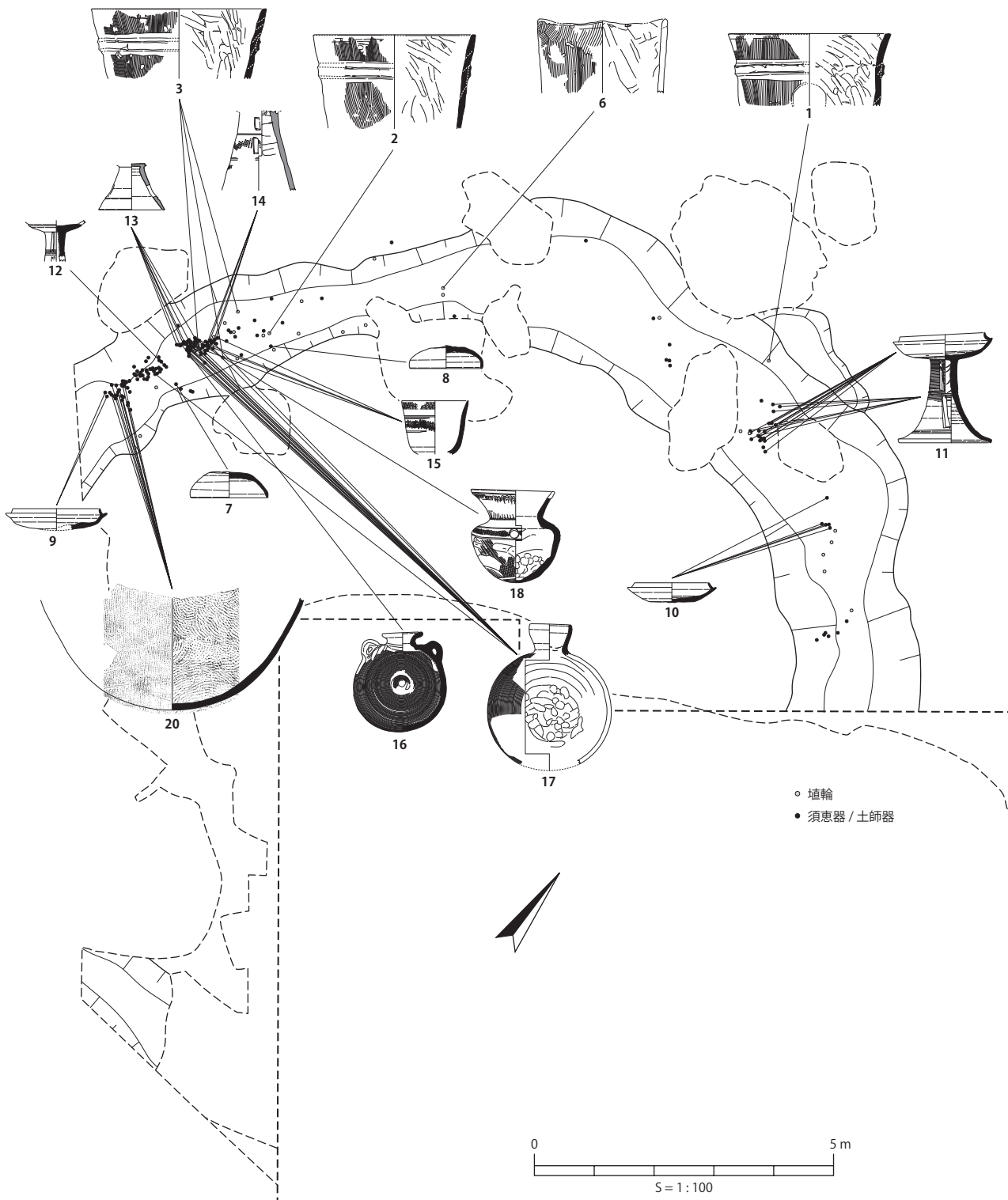


图 11 借屋 9 号墳 周溝遺物分布

(3) 遺物分布状況 (図 11)

遺物は概ね周溝の西と北の 2 カ所で集中する傾向が見える。既報告分では 3 カ所に遺物の集中が確認されており、都合 5 カ所となる。実測図化したものはすべて須恵器であり、西側の集中箇所は、^{はそう} 坏・高坏・提瓶・甗・甕が見いだされ、7・8・16・18 はほぼ完形での出土である。北側の集中箇所では坏と高坏が見いだされ、どちらも破片の状態出土した。埴輪は須恵質と土師質の両者が認められ、出土位置がプロットできなかつた破片も多いが、相対的に万遍なく分布している。

(4) 周溝出土遺物 (図 12 ~ 14)

埴輪 (1 ~ 6)

1 ~ 5 は須恵質の普通円筒埴輪である。1 を除いて、須恵質の埴輪は還元焰焼成が不良であり、胎土は橙~褐色系の酸化色を呈する。口縁端部は丁寧に調整されているが、全体の調整は、内面のナデ痕・指圧痕・接合痕が明瞭に認められるなど粗雑な印象である。なお、透かし窓は復元を考慮したものでなく、直径も正円であることを前提とした復元であり、実測図の取り扱いについて注意されたい。

6 は土師質の普通円筒埴輪である。口縁部を含む接合資料は土師質では本例が唯一であり、須恵質の資料と同様に調整は粗雑で、当該資料の場合は口縁端部の調整も粗雑である。

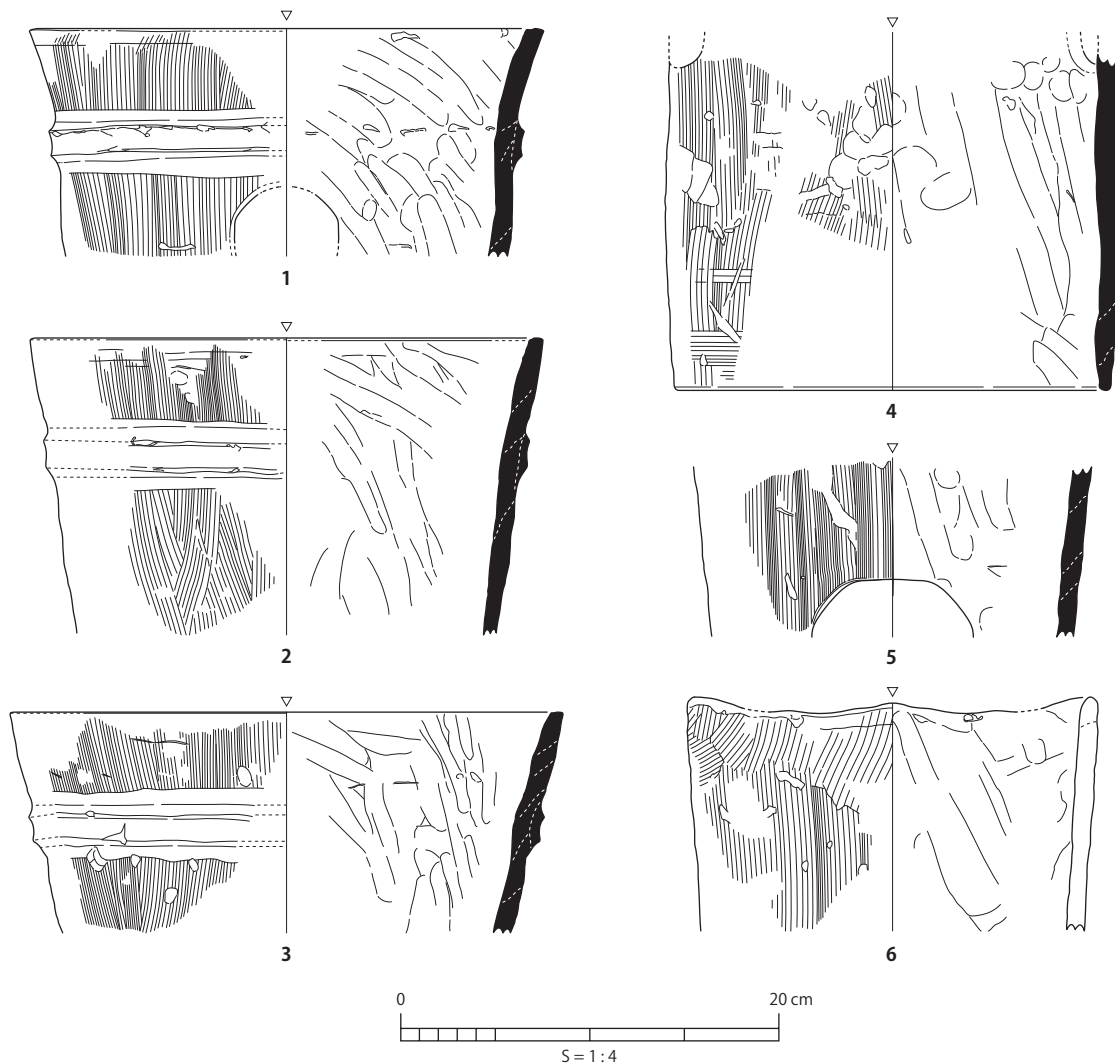


図 12 借屋 9 号墳 出土遺物実測図 1

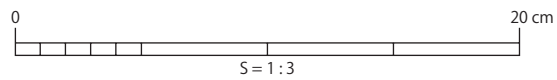
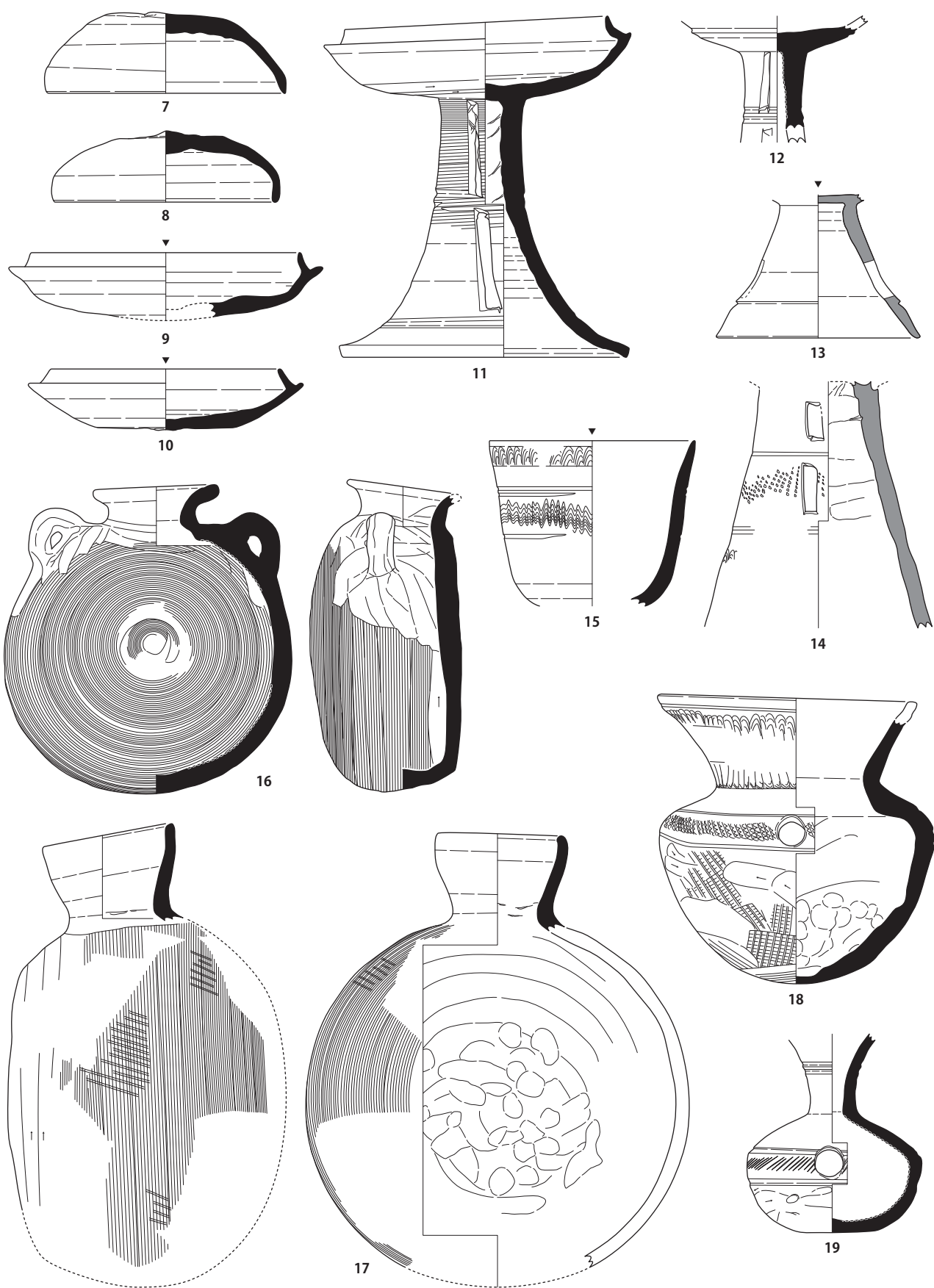


图 13 借屋 9 号填 出土遗物实测图 2

須恵器 (7～20)

7・8は坏H蓋、9・10は坏H身である。

11は有蓋高坏である。坏部は実測の時点では坏H身としていたが、出土位置を確認したところ隣接する脚部と同一個体と考えられ、実際接合することを確認した。

12は無蓋高坏と考えられる。

13・14は高坏脚部である。坏部の形態は不明である。焼成が不完全であり、実測図の断面はグレーで表示した。ただ、14については小型の器台のような器形となる可能性がある。

15は甕の一種と思われる。ただし、類例は管見に入らない。

16は提瓶である。17は耳の部分の破片が確認できず実測図にも示していないが、器形の特徴から同様に提瓶と考えられる。

18・19は甗はそうである。

20は大甕の底部である。

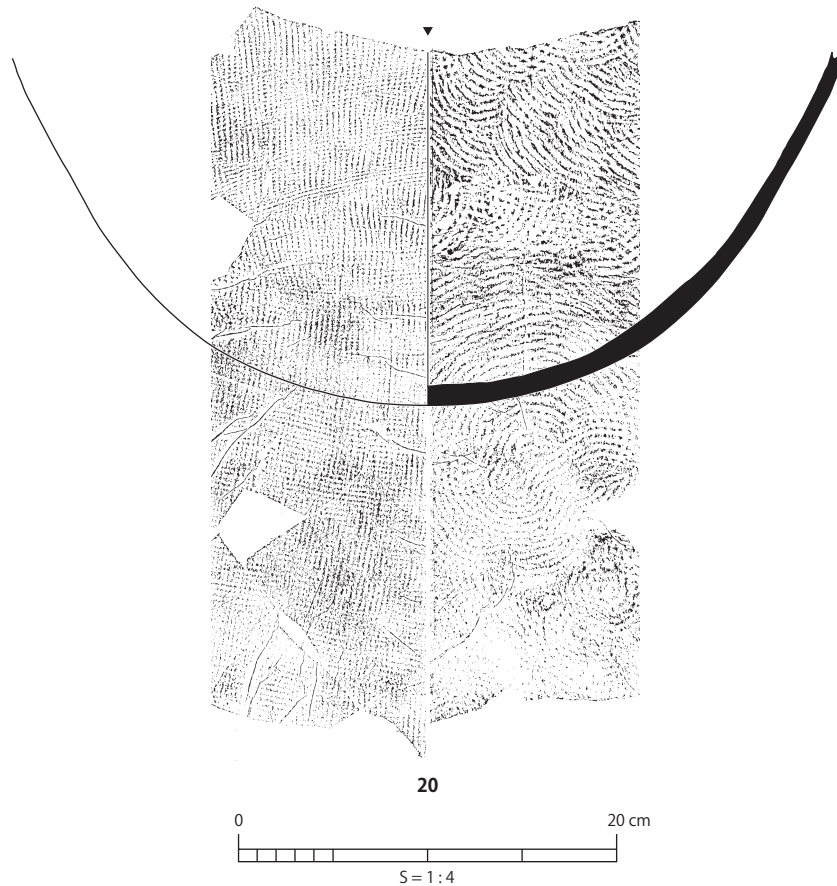


図14 借屋9号墳 出土遺物実測図3

(5) 築造年代

既報告（市教委 2000）で 9 号墳は、周溝出土の坏 H 身の型式を手掛かりに陶邑 TK10 型式期に比定された。これを在地の南加賀古窯跡群の編年に照らすと、調査報告済みの資料に限れば二ツ梨東山 4 号窯の資料が最も類似するといえることになるが、今調査の出土資料についてはむしろ 1 号窯や 5 号窯の資料に類似していると思われ、周溝出土資料は TK43 型式期も範疇に入る。

築造年代という意味では、須恵器の編年観によってすなわち決定されるものでは必ずしもなく、本墳のような粘土室主体部の須恵器にも時期差のある資料が共存するという指摘も複数ある（北野 1983 など）。埴輪を伴う古墳として、あるいは粘土室を主体部に採用する古墳として、これらの属性も総合的に勘案すれば、従来の所見を逸脱するものとはならない。

2 借屋 10 号墳の調査（図 15～20）

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、墳丘は削平されており、高さ及び主体部は不明。規模は、周溝下端で測ると、直径 11.4～11.8m である。

(2) 周溝（図 15～17）

掘方は明瞭ではなく、既往調査分の平面図を合成した図 6 を参照すると、周溝の南半は幅狭で深い掘方の溝の外側に、幅広で浅い掘方の溝を見いだすことができる。図 15 の G-G' 断面図を参照すると、内側の深い溝は 8・9 の覆土であり地山ブロックが頗る富むのが特徴的である。外側の浅い溝は 6・7 の覆土であり、黒褐色壤質土である。周溝出土遺物は後者がほとんどである。

(3) 遺物分布状況（図 18）

遺物は調査時より大甕の胴部片が特に目立っていた。35 と 36 は既報告（市教委 2000 第 19 図 27）の資料と同一個体と思われ、当該資料片は周溝北側に広く分散しており、37 も同一個体となる可能性がある。また周溝南側は、既報告（市教委 2006）によって遺物の分布が僅かなことが指摘されている。

(4) 周溝出土遺物（図 19・20）

須恵器（21～37）

21～23 は坏 H 身である。

24 は^{はそう}礎である。

25 は高坏脚部であり、坏部は既報告分を含めても不明である。

26 は既報告資料（市教委 2006 第 6 図 1）と同型であり、装飾須恵器の装飾部である。器台に載せる器種が該当するのだろうが、直接的に特定できる所見は得られなかった。

27～29 は壺である。

30 は長頸瓶である。

31・32 は横瓶である。

33・34 は器台である。

35～37 は大甕である。

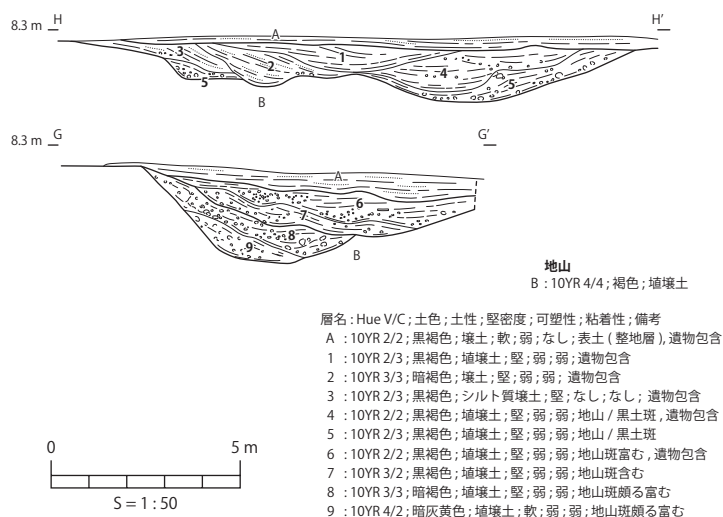


図 15 借屋 10 号墳 周溝断面図

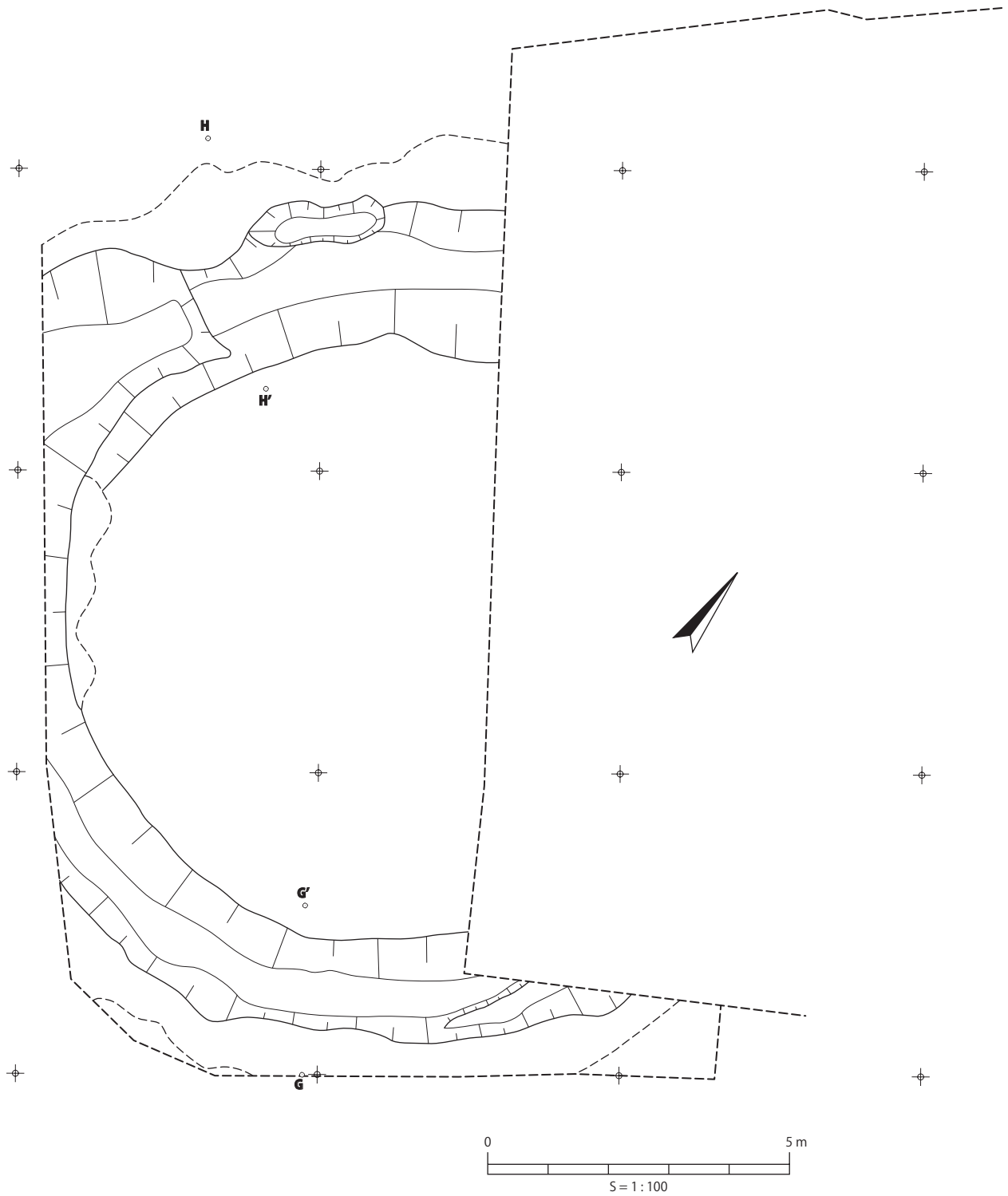


図16 借屋10号墳 平面図

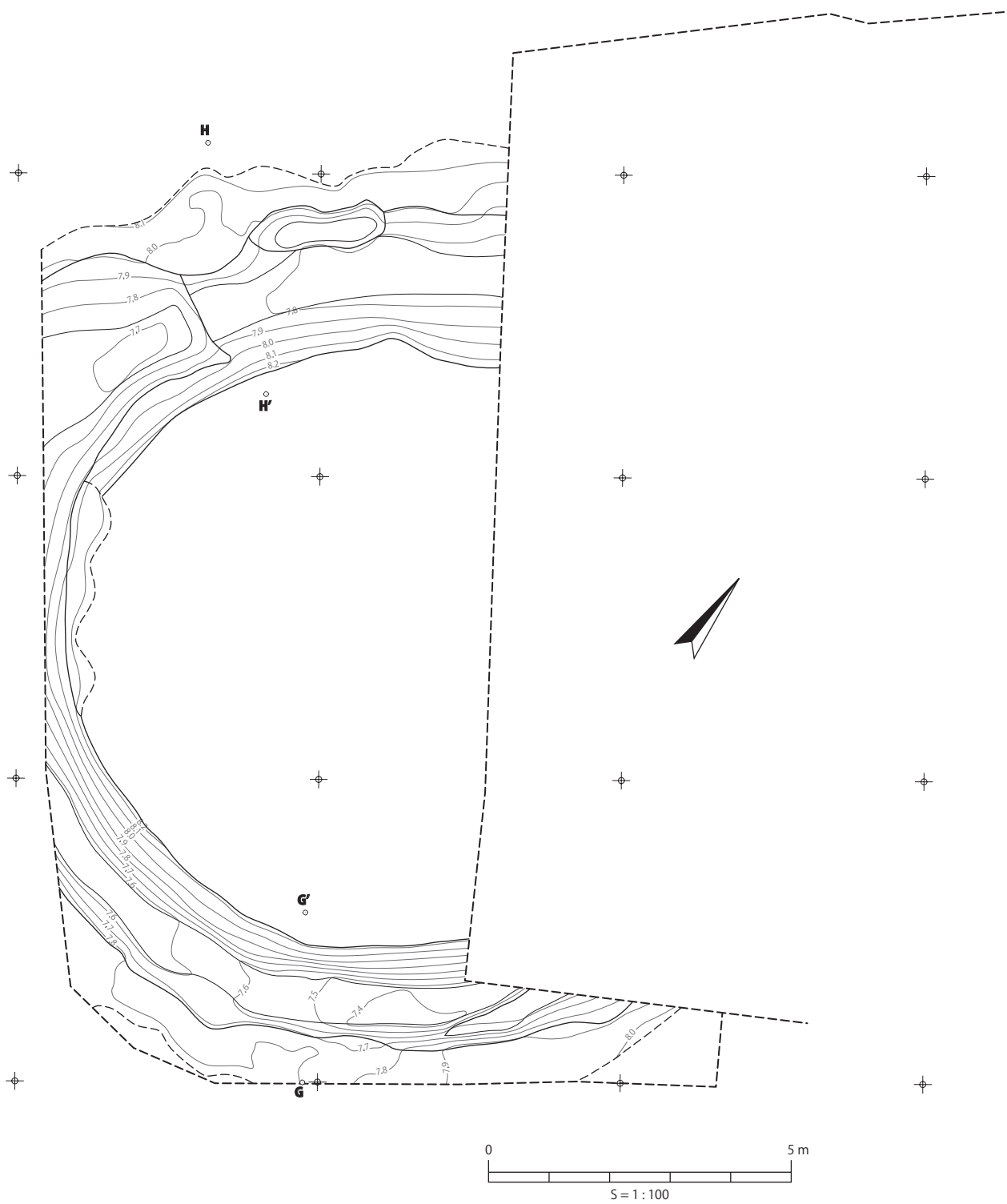


図 17 借屋 10 号墳 周溝コンター

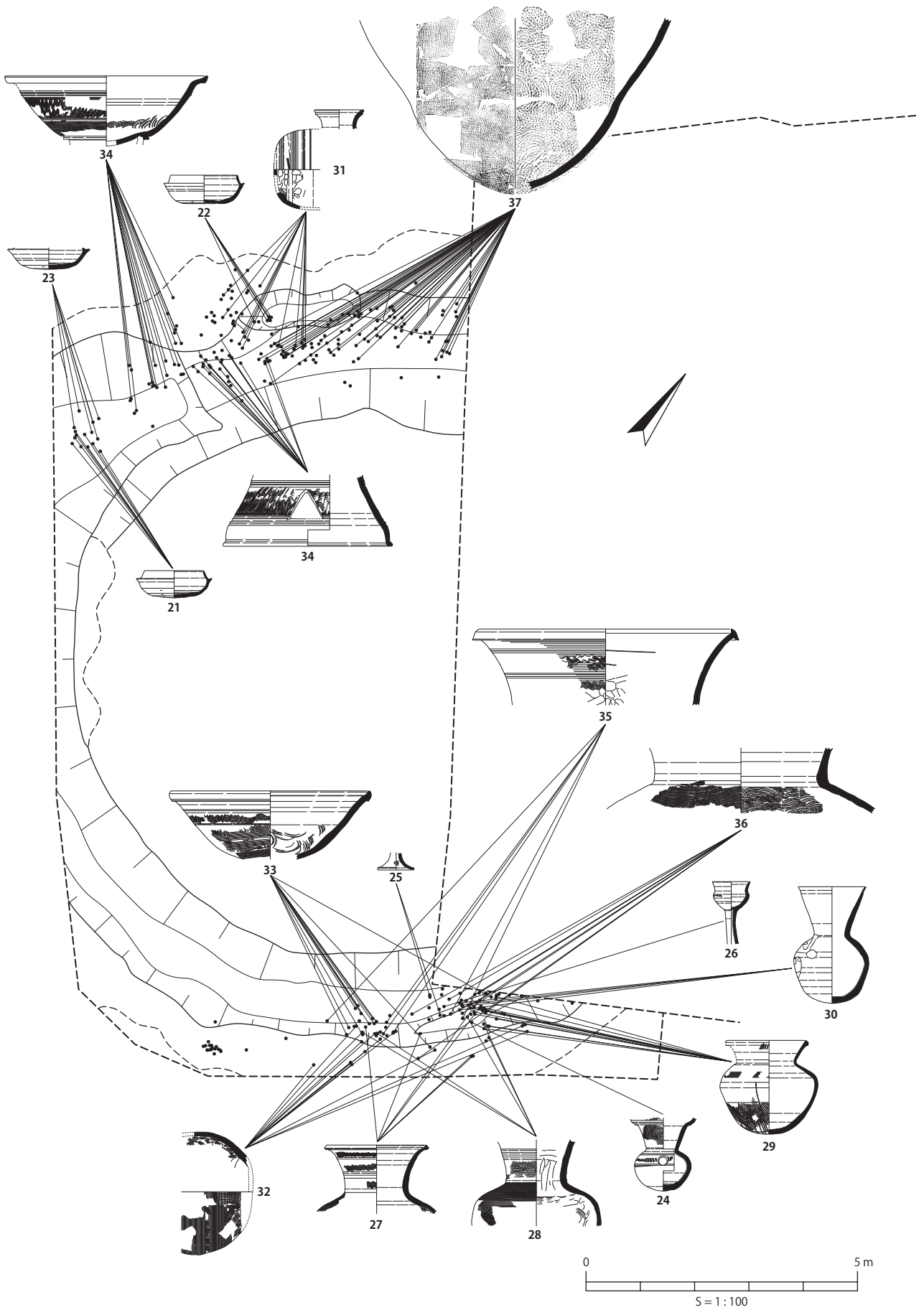


図18 借屋10号墳 周溝遺物分布

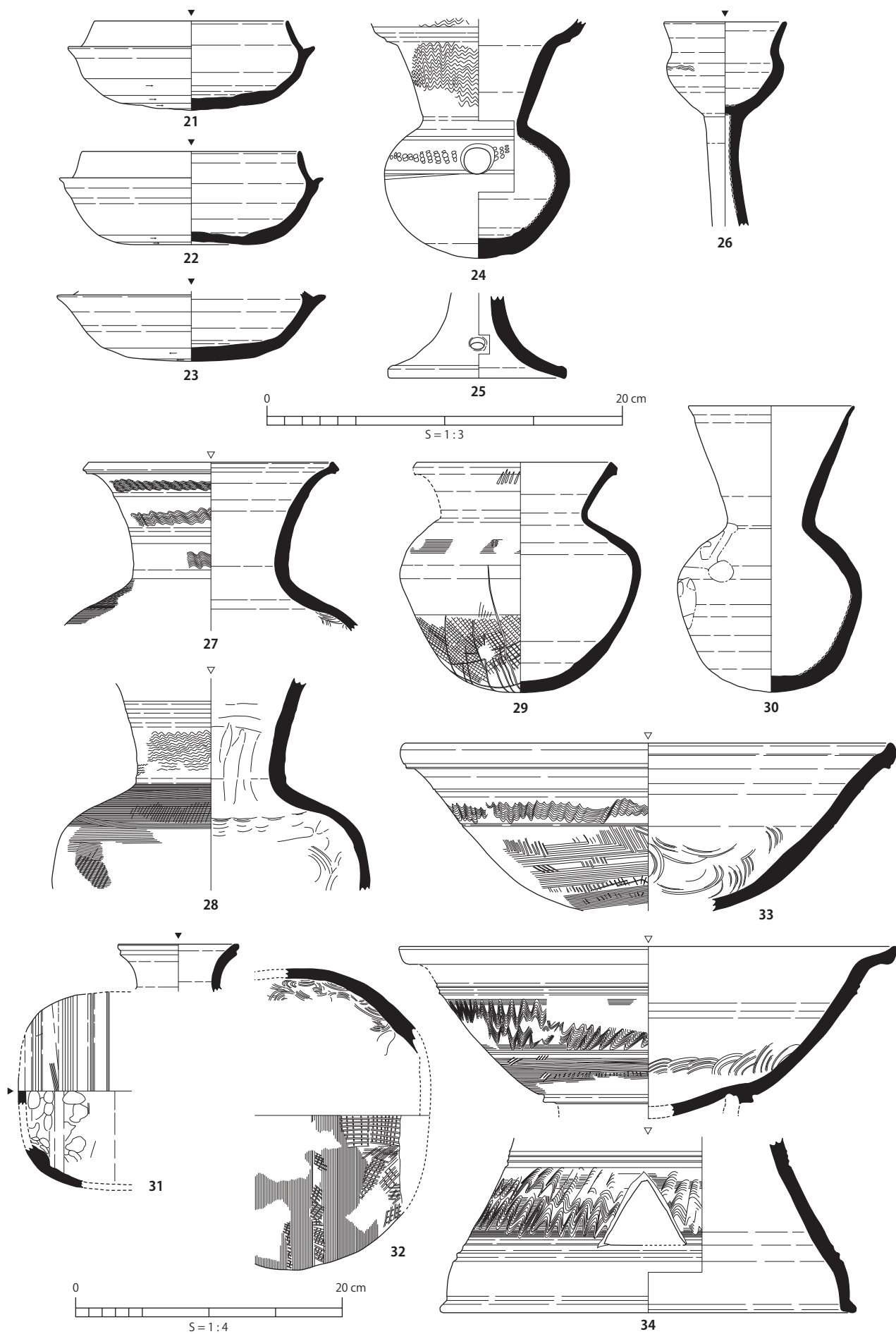


图 19 借屋 10 号 出土 遗物 实测 图 1

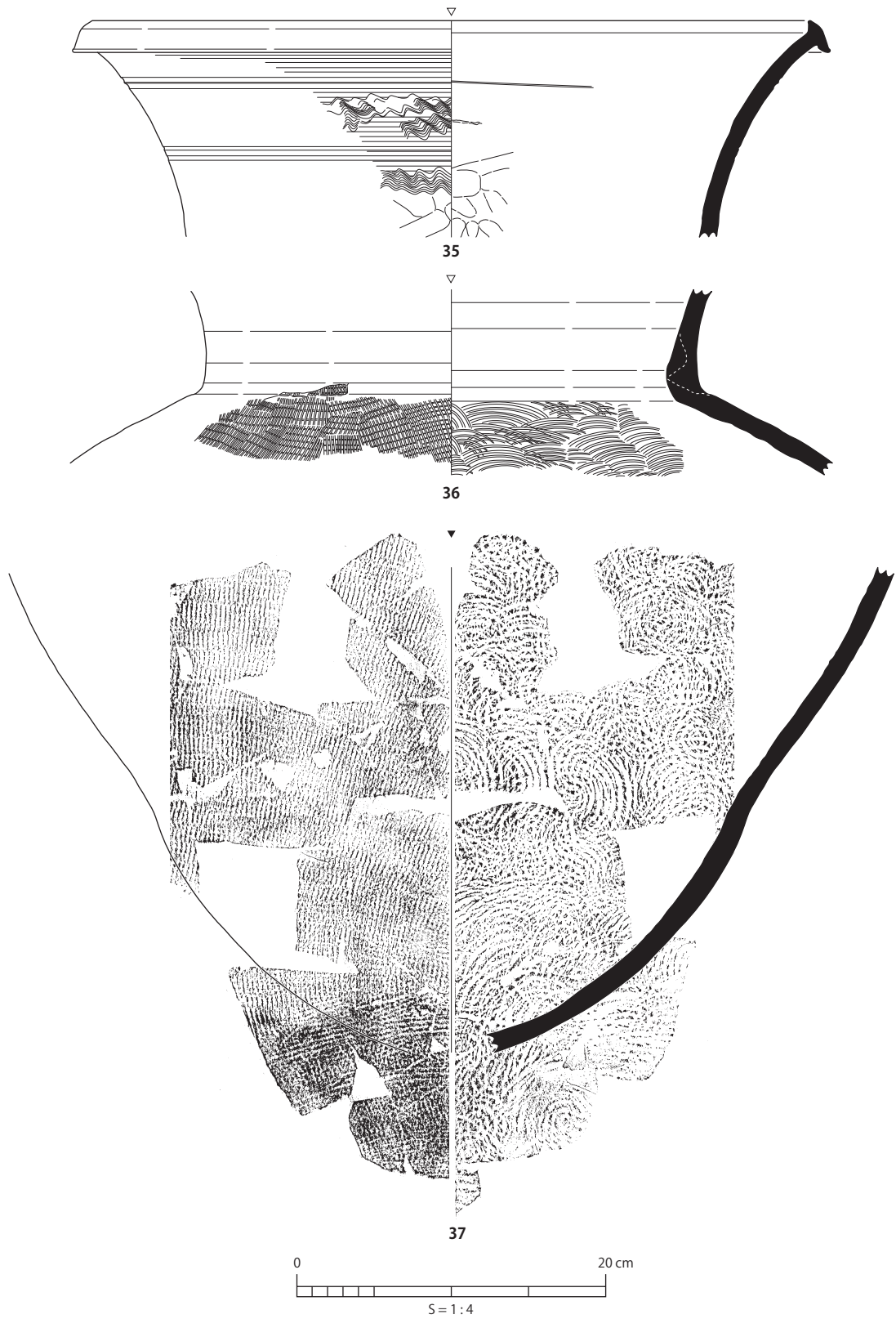


図20 借屋10号墳 出土遺物実測図2

(5) 築造年代

既報告（市教委 2000）で 10 号墳は、周溝出土の坏 H 身の型式を手掛かりに陶邑 MT15～TK10 型式期に比定された。これを在地の南加賀古窯跡群の編年に照らすと、調査報告済みの資料に限れば二ツ梨東山 4 号窯の資料が最も類似するといえる。

周溝の南半部が二重になることについては、内側の溝が当初の周溝で、墳丘の改築に伴って埋め立てられたと考えられる。外側の溝については、既報告（市教委 2006）で遺物はわずかと報告されており、今調査の結果も踏まえれば、周溝出土遺物は墳丘の北半分に分布することが分かる。周溝のプランと遺物の分布状況に何らかの因果関係を認めるかは今後の検討課題としたい。

3 借屋 11 号墳の調査（図 21～25）

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、墳丘は削平されており、高さは不明。主体部は粘土室（市教委 2000）、規模は、周溝下端で測ると、直径 13.0～14.2m とやや楕円形を呈する。

(2) 周溝（図 21～23）

墳丘は谷に差し掛かる地点に位置し、周溝は斜面上に掘削され、谷側は周溝というよりは切岸状を呈する掘方である。谷底は地山の埴壤土層の下位の砂層が露出しており、周溝の覆土も砂質である。

(3) 遺物分布状況（図 24）

今調査では周溝出土遺物は、西側にわずかに出土したのみで、北の谷側に遺物は皆無に等しい状況（土器細片が数点出土）である。

既報告（市教委 2000）では主体部が調査区外に延びる可能性が指摘されていたため、確認のために該当箇所にてトレンチを入れてみたが、主体部の存在をうかがわせる礫も粘土も皆無だった。したがって、主体部の範囲は既報告の長さ約 2.7m、幅 1.6m を超えないと考えられる。

(4) 周溝出土遺物（図 25）

須恵器（38～41）

38 は坏 H 身である。

39 は無蓋高坏である。

40 は長頸瓶である。

41 は大甕である。既報告資料（市教委 2000 第 24 図 12～14）と同一個体と思われる。図化していないが胴部破片もある。

(5) 築造年代

出土遺物は概ね既報告と同一個体または同型の資料をわずかに追加したのみであり、既報告のとおり、7 世紀初頭の古代 I₁ 期（飛鳥 I 期併行）としてよいだろう。

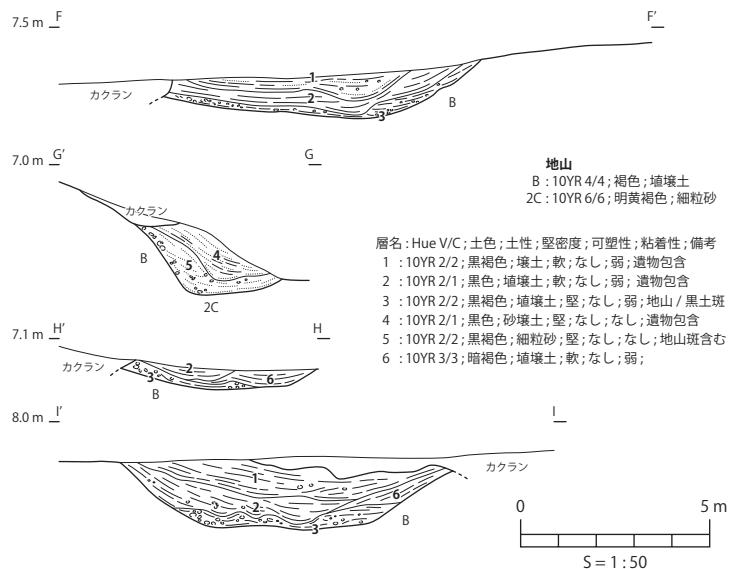


図 21 借屋 11 号墳 周溝断面図

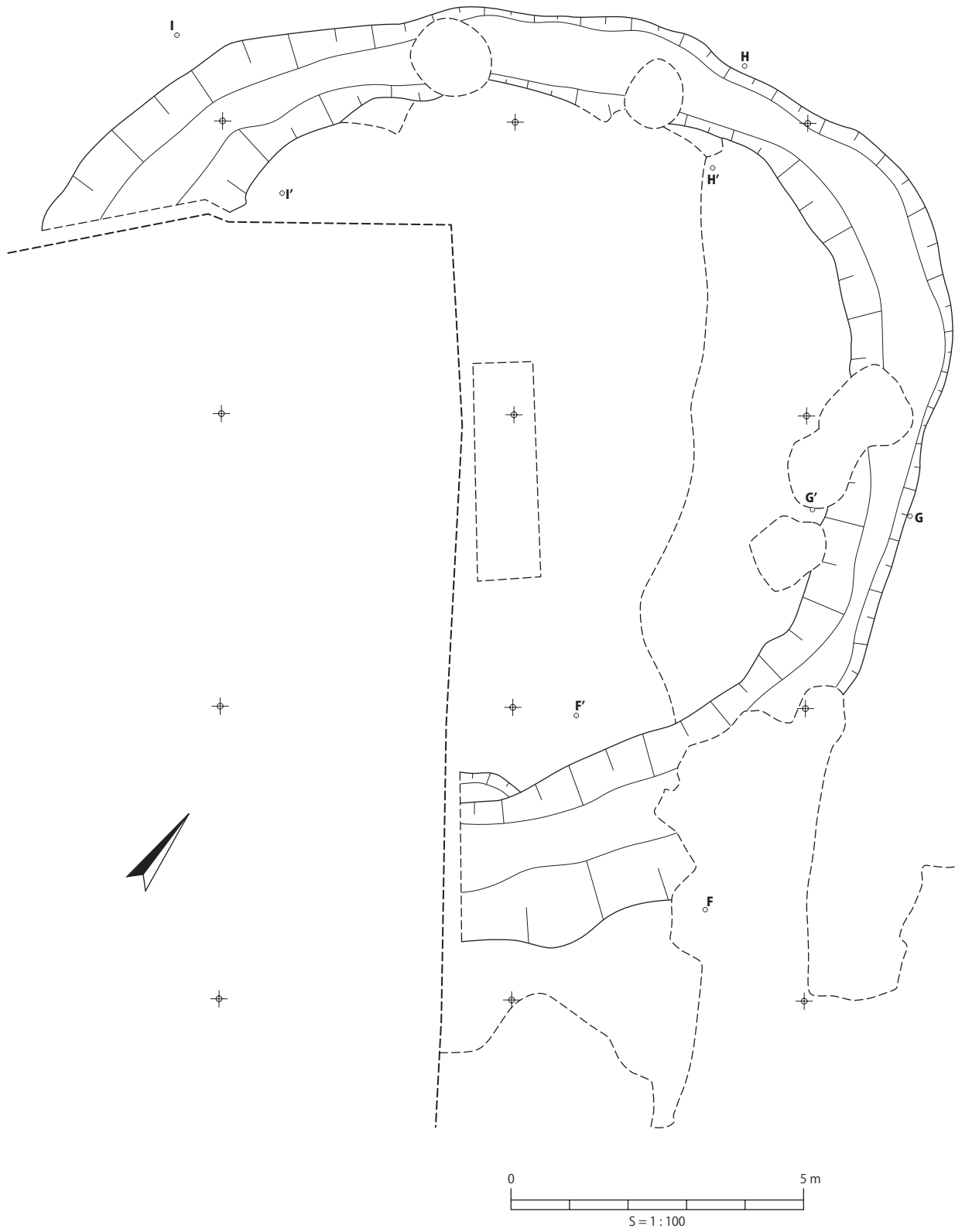


图22 借屋11号墳 平面图

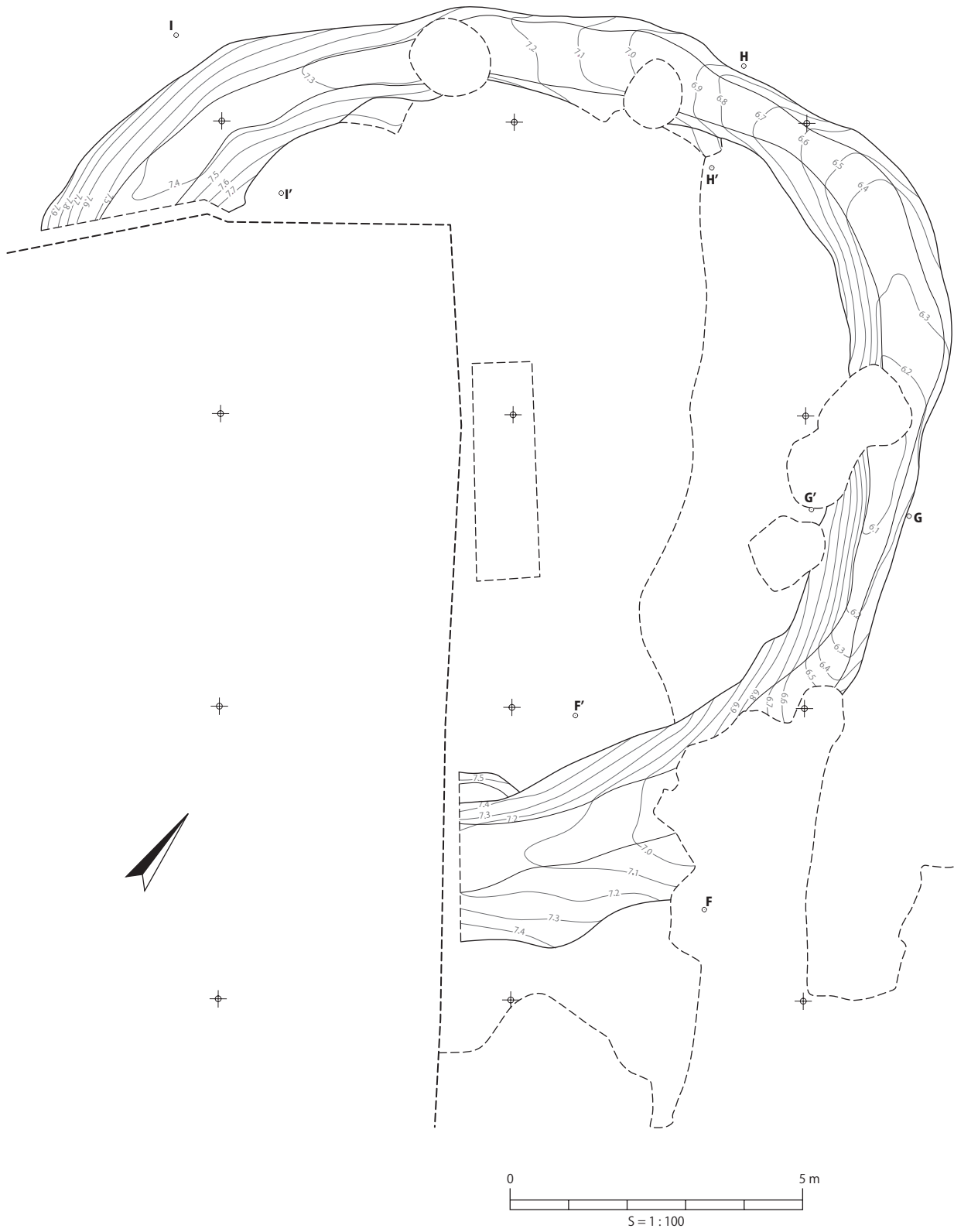


図 23 借屋 11 号墳 周溝コンター

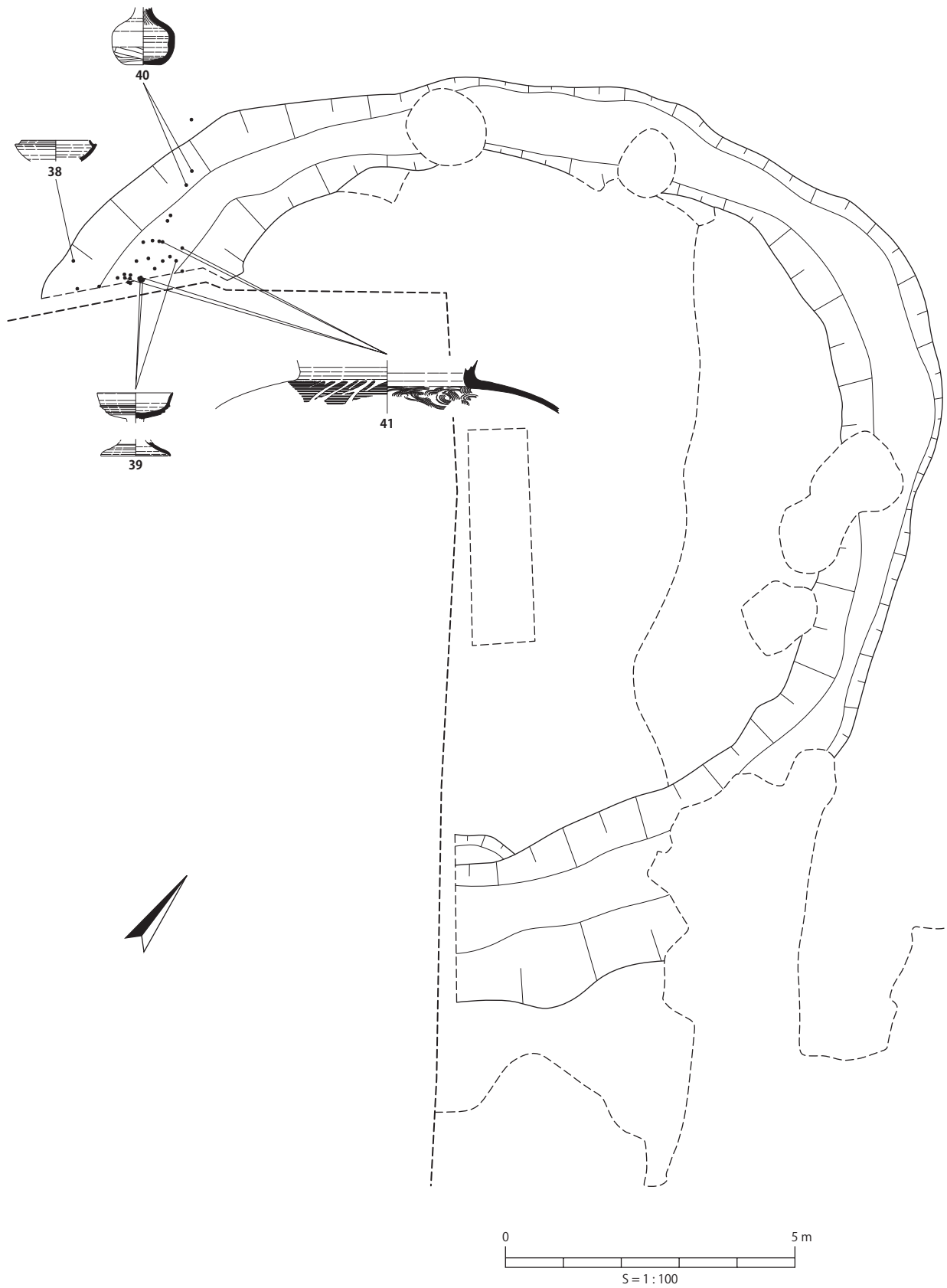


図24 借屋11号墳 周溝遺物分布

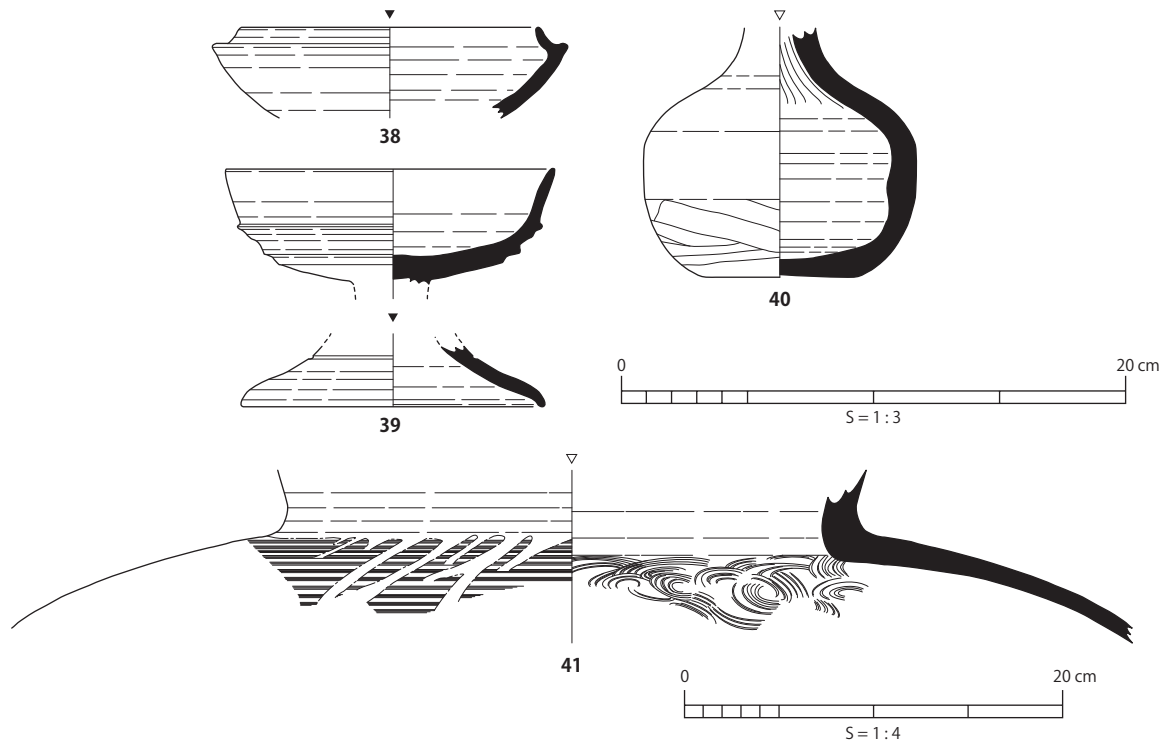


図 25 借屋 11 号墳 出土遺物実測図

第 3 節 小結

今調査は、借屋 9～11 号墳の未調査部分の発掘調査となる。既報告（市教委 2000）では推定の域を出なかった墳丘の規模が確定し、9 号墳は直径約 13.5m の円墳、10 号墳は直径約 12m の円墳、11 号墳は直径約 13m～14m のやや楕円を呈する円墳とする。また、未確認だった 10 号墳の主体部は削平の影響で残存していなかったことも確認した。

今調査で新たな所見が加えられることはなかったが、既往の資料を補足するものとして活用に寄与できれば幸いである。

表2 矢田借屋古墳群 出土遺物属性表

図	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
12	1	1	9号墳周溝	埴輪 (須恵質)	普通円筒	口: 27cm/0.222	2.5Y 6/1	2.5Y 6/2	
	2	2	9号墳周溝	埴輪 (須恵質)	普通円筒	口: 27cm/0.111	10YR 4/1 - 10YR 4/2	5YR 6/4	
	3	3	9号墳周溝	埴輪 (須恵質)	普通円筒	口: 29cm/0.139	7.5YR 4/2 - 5YR 5/3	5YR 6/4	
	4	4	A地区 (9号墳)	埴輪 (須恵質)	普通円筒	底: 22cm/0.222	7.5YR 4/2 - 7.5YR 5/2	7.5YR 5/4	
	5	5	A地区 (9号墳)	埴輪 (須恵質)	普通円筒		7.5YR 4/2	7.5YR 5/4 - 5YR 6/4	
	6	6	9号墳周溝	埴輪 (土師質)	普通円筒	口: 22cm/0.278	7.5YR 7/6 - 5YR 6/6	7.5YR 7/6	
13	7	14	9号墳周溝	須恵器	坏蓋	口: 13cm/1.000, 高: 4.3cm	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	2.5Y 4/1	6c 後半
	8	15	9号墳周溝	須恵器	坏蓋	口: 12cm/0.639, 高: 3.9cm	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	
	9	16	9号墳周溝	須恵器	坏身	口: 15cm/0.889, 受: 17cm/0.500	10YR 5/2 - 10YR 6/1	10YR 6/1	
	10	17	9号墳周溝	須恵器	坏身	口: 12.5cm/0.208 受: 15cm/0.389, 高: 3.2cm	2.5Y 6/1 - 7.5Y 6/1	10Y 7/1	
	11	18	9号墳周溝	須恵器	高坏 (坏部)	口: 14cm/0.778, 受: 16.5cm/0.861, 坏高: 4.2cm	10YR 4/1 - 10YR 6/1	7.5YR 5/4	
		11	9号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	裾: 15cm/0.667, 脚: 4.5cm/1.000, 脚高: 13.9cm	10YR 6/1 - 10YR 6/3	10YR 6/1 - 10YR 6/3	
	12	12	9号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	脚: 3.5cm/1.000	5YR 5/4 - 7.5YR 3/3	5YR 5/4	
	13	13	9号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	裾: 11cm/0.194, 脚: 4cm/1.000	2.5Y 8/2	2.5Y 8/1	
	14	43	9号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	脚: 6.5cm/0.528	2.5Y 7/2 - 10YR 7/2	2.5Y 7/2	
	15	44	9号墳周溝	須恵器	鉢	口: 11cm/0.361	2.5Y 7/1 - 5Y 7/1	5Y 7/1	
	16	7	9号墳周溝	須恵器	提瓶	口: 6.5cm/0.500, 頸: 4.5cm/1.000, 胴幅: 15.4cm, 胴高: 14.3cm, 胴厚: 8.1cm, 全高: 16.8cm	2.5Y 6/2 - 2.5Y 4/1	2.5Y 6/2	
	17	8	9号墳周溝	須恵器	提瓶	口: 7cm/1.000, 頸: 5.5cm/0.500	N 3/0 - N 4/0	10YR 4/1	
	18	9	9号墳周溝	須恵器	甗	口: 14cm/0.472, 頸: 8.5cm/1.000, 胴: 14.5cm/1.000, 全高: 16.4cm	10YR 5/3 - 10YR 5/1	10YR 5/2 - 10YR 5/3	
19	10	9号墳 (カクラン)	須恵器	甗	頸: 2.5cm/1.000, 胴: 9cm/1.000	10YR 6/1 - 10YR 6/4	10YR 7/2	6c 後半	
14	20	25	9号墳周溝	須恵器	大甕		10YR 7/1 - 10YR 6/4	10YR 7/3	
19	21	32	10号墳周溝	須恵器	坏身	口: 11cm/0.069, 受: 14cm/0.139, 高: 5.0cm	2.5Y 5/2 - 2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	6c 中
	22	33	10号墳周溝	須恵器	坏身	口: 12cm/0.389, 受: 14.5cm/0.528, 高: 5.2cm	2.5Y 6/1 - 2.5Y 5/1	2.5Y 6/1	
	23	34	10号墳周溝	須恵器	坏身	受: 15cm/0.083	2.5GY 5/1 - 2.5GY 7/1	2/5GY 6/1	
	24	30	10号墳周溝	須恵器	甗	頸: 6cm/1.000, 胴: 10.5cm/1.000	10R 4/2	10R 5/4	
	25	35	10号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	裾: 6.5cm/1.000	2.5Y 5/1 - N 4/0	2.5Y 6/1	
	26	38	10号墳周溝	須恵器	特殊		N 3/0 - N 4/0	N 4/0	
	27	36	10号墳周溝	須恵器	壺	口: 18cm/0.181, 頸: 12cm/0.667	2.5Y 5/2 - 10YR 6/1	10YR 5/1	6c 中
	28	20	10号墳周溝	須恵器	壺	頸: 11cm/0.972, 胴: 24cm/0.056	10YR4/1 - 7.5YR 4/1	2.5Y 5/6	
	29	28	10号墳周溝	須恵器	壺	口: 15cm/0.694, 頸: 11cm/0.778, 胴: 18cm/0.833, 全高: 17.2cm	N 4/0 - 5Y 5/1	N 6/0	
	30	29	10号墳周溝	須恵器	長頸瓶	口: 12.5cm/0.278, 頸: 7cm/1.000, 胴: 14cm/1.000, 全高: 21.5cm	10YR 7/1	10YR 8/4	
	31	31	10号墳周溝	須恵器	横瓶	口: 9cm/0.278, 頸: 6cm/0.278, 胴: 14.5cm/0.167	N 4/0 - 5YR 5/1	5YR 6/4	
	32	26	10号墳周溝	須恵器	横瓶	胴: 22cm/0.083	N 3/0 - 7.5YR 6/1	7.5YR 4/1	
	33	21	10号墳周溝	須恵器	器台 (受部)	口: 37cm/0.361, 受高: 12.5cm	N 3/0 - 10YR 4/1	10YR 5/1	
	34	22	10号墳周溝	須恵器	器台 (受部)	口: 37cm/0.278, 受高: 11.0cm	N 4/0 - 10YR 5/1	10YR 5/1	
27		10号墳周溝	須恵器	器台 (脚部)	裾: 31cm/0.361	N 5/0	N 4/0		
20	35	19	10号墳周溝	須恵器	大甕	口: 46cm/0.222	2.5Y 5/1 - 2.5Y 3/1	5YR 4/2	6c 中
	36	37	10号墳周溝	須恵器	大甕	頸: 32cm/0.222	2.5YR 4/1 - 10YR 4/1	10YR 4/1	
	37	23	10号墳周溝	須恵器	大甕		2.5Y 5/1 - 2.5Y 4/1	2.5Y 4/1	
		24	10号墳周溝	須恵器	大甕		2.5Y 5/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 4/1	
25	38	41	11号墳周溝	須恵器	坏身	口: 12cm/0.111, 受: 14cm/0.194	10YR 6/1 - 10YR 7/2	10YR 6/4	7c 前半
	39	40	11号墳周溝	須恵器	高坏 (坏部)	口: 13cm/0.583	10YR 5/1 - 10YR 6/1	10YR 7/3	
		11号墳周溝	須恵器	高坏 (脚部)	裾: 12cm/0.222	10YR 5/1 - 10YR 6/1	10YR 7/3		
	40	39	11号墳周溝	須恵器	長頸瓶	胴: 11cm/0.500	10YR 5/1 - 10YR 6/2	10YR 6/1	
41	42	11号墳周溝	須恵器	大甕	頸: 30cm/0.250	10YR 7/1	10YR 7/2		

遺構	No	摘要	実測	X	Y	H	遺構	No	摘要	実測	X	Y	H	遺構	No	摘要	実測	X	Y	H
10号墳	298	須恵 器台		38,795.417	-67,540.914	7.818	10号墳	314	須恵 甕		38,792.447	-67,543.538	7.812	10号墳	330	須恵 坏	32	38,799.007	-67,553.317	7.756
10号墳	299	須恵 甕		38,794.308	-67,541.638	7.708	10号墳	315	須恵 蓋		38,801.889	-67,551.139	8.106	10号墳	331	須恵 坏		38,802.742	-67,552.546	8.040
10号墳	300	須恵 瓶	29	38,794.889	-67,541.321	7.820	10号墳	316	須恵 蓋		38,802.922	-67,552.700	8.117	10号墳	332	須恵 坏		38,802.536	-67,552.470	8.009
10号墳	301	須恵 瓶	29	38,794.874	-67,541.294	7.816	10号墳	317	須恵 蓋		38,802.835	-67,552.685	8.116	10号墳	333	須恵 蓋		38,802.587	-67,552.316	8.132
10号墳	302	須恵 瓶	29	38,794.890	-67,541.375	7.790	10号墳	318	須恵 横瓶	31	38,802.702	-67,552.701	8.165	10号墳	334	須恵 坏		38,802.628	-67,552.220	8.124
10号墳	303	須恵 器台		38,796.136	-67,539.710	8.022	10号墳	319	須恵 坏	34	38,799.096	-67,553.430	7.863	10号墳	335	須恵 横瓶	31	38,802.129	-67,551.832	8.028
10号墳	304	須恵 甕		38,795.788	-67,540.244	7.846	10号墳	320	須恵 坏	32	38,799.110	-67,553.201	7.892	10号墳	336	須恵 横瓶	31	38,802.159	-67,551.923	8.129
10号墳	305	須恵 器台		38,795.678	-67,540.537	8.088	10号墳	321	須恵 坏	32	38,798.839	-67,553.283	7.884	10号墳	337	須恵 坏		38,802.314	-67,551.832	8.123
10号墳	306	須恵 甕		38,795.558	-67,540.723	7.978	10号墳	322	須恵 坏		38,798.890	-67,553.118	7.900	10号墳	338	須恵		38,802.483	-67,552.365	8.041
10号墳	307	土師		38,795.454	-67,540.888	7.925	10号墳	323	須恵 坏	32	38,799.066	-67,552.977	7.931	10号墳	339	須恵 坏		38,802.428	-67,552.264	8.049
10号墳	308	須恵 器台		38,795.325	-67,541.096	7.830	10号墳	324	須恵 坏	32	38,799.038	-67,552.783	7.941	10号墳	340	須恵 坏		38,802.385	-67,552.248	8.042
10号墳	309	須恵 甕	20	38,793.382	-67,542.469	7.556	10号墳	325	須恵 甕	24	38,802.145	-67,551.465	8.037	10号墳	341	須恵 横瓶	31	38,802.373	-67,552.000	8.039
10号墳	310	須恵 横瓶	26	38,793.375	-67,542.483	7.500	10号墳	326	須恵 坏	32	38,799.051	-67,553.369	7.865	10号墳	342	須恵 横瓶	31	38,802.320	-67,551.920	8.052
10号墳	311	須恵 器台	21	38,793.351	-67,542.449	7.515	10号墳	327	須恵 坏	32	38,798.953	-67,553.308	7.876	10号墳	343	須恵 器台		38,802.611	-67,552.685	7.925
10号墳	312	須恵 甕		38,793.585	-67,542.218	7.542	10号墳	328	須恵 坏	32	38,798.962	-67,553.015	7.862	10号墳	344	土師		38,802.373	-67,552.200	7.958
10号墳	313	須恵 横瓶	26	38,793.924	-67,541.214	7.893	10号墳	329	須恵 坏		38,802.855	-67,552.613	8.078							

表5 借屋11号墳 出土遺物プロットデータ

遺構	No	摘要	実測	X	Y	H	遺構	No	摘要	実測	X	Y	H	遺構	No	摘要	実測	X	Y	H
11号墳	1	須恵 甕		38,814.785	-67,543.364	7.697	11号墳	12	須恵 甕		38,815.544	-67,543.380	7.617	11号墳	23	須恵 甕		38,816.197	-67,543.281	7.633
11号墳	2	須恵 甕		38,814.904	-67,543.306	7.719	11号墳	13	須恵 高坏	40	38,814.975	-67,543.017	7.605	11号墳	24	須恵 甕	42	38,815.749	-67,543.116	7.666
11号墳	3	須恵 甕		38,814.843	-67,543.132	7.683	11号墳	14	須恵 高坏	40	38,815.011	-67,542.990	7.586	11号墳	25	須恵 甕		38,815.662	-67,543.268	7.576
11号墳	4	須恵 甕		38,814.836	-67,543.171	7.655	11号墳	15	須恵 甕		38,815.298	-67,542.947	7.634	11号墳	26	須恵 長頸瓶	39	38,816.779	-67,543.379	7.705
11号墳	5	須恵 甕		38,814.958	-67,543.215	7.609	11号墳	16	須恵 甕		38,815.487	-67,542.916	7.712	11号墳	27	須恵 長頸瓶	39	38,817.030	-67,543.447	7.734
11号墳	6	須恵 器台	42	38,815.034	-67,543.046	7.734	11号墳	17	須恵 甕		38,815.549	-67,542.541	7.730	11号墳	28	須恵 甕		38,817.736	-67,543.987	7.660
11号墳	7	須恵 甕		38,814.904	-67,543.187	7.600	11号墳	18	須恵 高坏	40	38,815.629	-67,542.733	7.645	11号墳	29	須恵 甕		38,815.722	-67,543.169	7.564
11号墳	8	須恵 甕		38,815.028	-67,542.992	7.714	11号墳	19	須恵 甕		38,815.622	-67,542.861	7.635	11号墳	30	須恵 甕	42	38,814.860	-67,543.263	7.502
11号墳	9	須恵 甕		38,815.004	-67,543.062	7.707	11号墳	20	須恵 甕	42	38,815.868	-67,542.781	7.705	11号墳	31	須恵 坏	41	38,814.560	-67,544.151	7.797
11号墳	10	須恵 甕		38,815.213	-67,543.278	7.729	11号墳	21	須恵 甕		38,814.475	-67,543.529	7.703	11号墳	32	須恵 甕		38,814.217	-67,543.807	7.776
11号墳	11	須恵 甕		38,815.373	-67,543.141	7.631	11号墳	22	須恵 甕		38,816.090	-67,543.267	7.612							

参考文献

- イ (財) 石川県埋蔵文化財センター (2001) 小松市ブッシュウジヤマ古墳群
- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群
- ウ 上野 與一 (1965) 考古篇, 小松市史 4. 風土・民俗篇, 小松市教育委員会, 石川県
- カ 川西 宏幸 (1978) 円筒埴輪総論, 考古学雑誌 64-2, 日本考古学会
- キ 北野 博司 (1983) 箱形粘土槨の再検討と横穴式木室との関連性について, 北陸の考古学. 石川考古学研究会々誌 第 26 号, 石川考古学研究会, 石川県
- コ 小松高校地歴クラブ (1951) 江沼郡月津村矢田借屋古墳調査報告, 研究報告 第三輯, 石川県
- 小松高校地歴クラブ (1956) 石川県小松市矢田町所在借屋七号古墳調査報告
- 小松高校地歴クラブ (1962) 借屋八号墳発掘調査, 石川県高等学校文化連盟郷土部会報 2 号
- 小松市教育委員会 (1989) 後山無常堂古墳・後山明神 3 号墳, 石川県
- 小松市教育委員会 (1990) ニツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳, 石川県
- 小松市教育委員会 (1993) 戸津古窯跡群 III, 石川県
- 小松市教育委員会 (1999) 林タカヤマ窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II. 矢田借屋古墳群, 石川県
- タ 田嶋 明人 (1988) 古代編年軸の設定, シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編), 北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県
- 田辺 昭三 (1981) 須恵器大成, 角川書店
- ニ 西 弘海 (1986) 土器様式の成立とその背景, 真陽社
- ヘ 日置 謙 (1925) 石川県江沼郡誌, 江沼郡役所, p679., 石川県

第三章 島遺跡発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 既往の調査

島遺跡は、従前より台地上の畑地に須恵器・土師器の散布が知られ、土取跡の崖面に竪穴住居跡の断面が露出するなど、埋蔵文化財包蔵地であることは周知されていた。

最初の発掘調査は、昭和58年度に小松市建設部土木課（当時）の市道改良工事に係り小松市教育委員会（以下、市教委）が実施した（第1次調査）。その後、平成5年には木場潟污水幹線計画によって市道および町道に下水道が敷設されることとなり、小松市建設部下水道課（当時）と市教委の協議の結果、平成7年度に町道の施工範囲について発掘調査を実施した（第2次調査）。

これらの調査の結果、島遺跡は弥生時代～中世にわたる複合遺跡であり、遺物の出土量からは8世紀後半～9世紀前半が主体であり、時期は特定できないが製陶・製鉄と関わりを持つ性格の集落遺跡と考えられることが報告されている。

(2) 調査に至る経緯

小松市島町地内に所在する当該地において試掘調査によって埋蔵文化財を確認したのは平成17年度に遡る。国有地売却に係り北陸財務局から依頼を受けて11月22日に実施した。この後数年は買い手がつかない状態が続き、平成21年4月には国有財産調査業務として埋設物試掘調査をしたい旨、受託業者より問い合わせがあった。これについては、埋蔵文化財の包含状況を確認するため市教委の職員立ち会いを条件に実施を了承した。

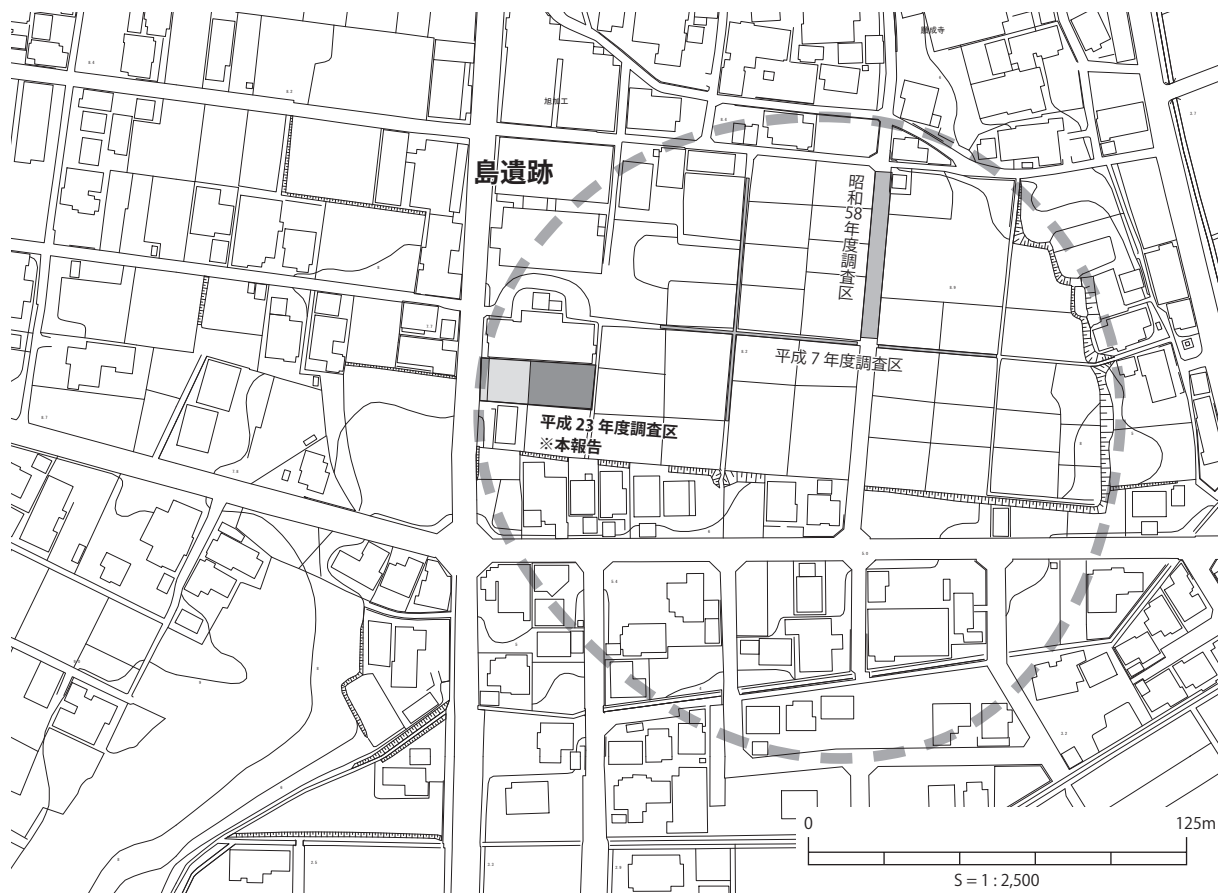


図26 島遺跡 調査地の位置

当該地が売却されたのはこの翌年の平成 22 年であり、落札者である北喜久雄氏より住宅建築に係る埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けた。当該地は全面道路より 1m 以上高いことや遺物包含層が表土直下に確認されていたこともあり、次年度に予算を確保して対応するものとして北氏の同意を得ることができた。

文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きは市教委と北氏の間で直接行い、平成 23 年 8 月 16 日付けで協定書を交換し、別件調査の傍ら発掘調査の準備に取りかかった。

(3) 調査の方法

隣地境界杭を原点 (A-1) として 5m 間隔のグリッドを設定した。

遺構の実測は、着手前に 4 級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1、断面図は 20 分の 1 である。

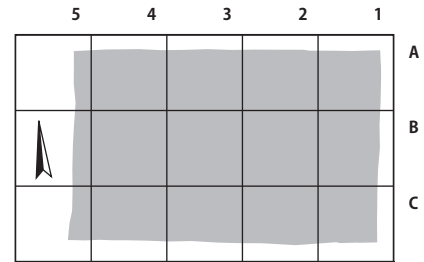


図 27 島遺跡 グリッド配点図

(4) 調査の経過

発掘調査は 9 月 1 日より着手した。重機を手配しての作業は、表土除去のほかに車両の進入路の整地等も含まれたため、完了までに数日を要し、本格的な作業の開始は 9 月 6 日である。

作業はまず、前年の埋設物試掘調査で掘削されたトレンチ跡を掘り返すことから始め、続いて平成 17 年度の試掘坑跡を掘り返してから、包含層の掘削に入った。包含層は東側から掘削を開始したが、開始当初こそ遺物の出土があったが、西に進むにつれて遺物の出土量は減少し、遺構らしいプランも見いだせない状況となった。もともと当該調査地は島遺跡の縁辺に位置することもあり、ある意味では周縁部の状況が非常に分かりやすい形であられたともいえる。

作業は順調に進んだが、10 月 3 日より急遽別件調査に着手することになり、平面図作成等はこれと併行して行い、10 月 8 日に埋め戻しまで完了した。

第 2 節 遺構と遺物

以下、遺構番号は既報告（市教委 1998）を踏襲した。

1 遺構 (図 28・29)

(1) 11 号溝 [SD01]

12 号溝と交差して南北に延びる溝である。幅は、上端で約 1m、底面で約 50cm、下段の底面で約 30cm を測る。掘方から 2 度掘削されたと思われるが、セクションに切り合う層は確認されない。今調査で出土した遺物の主なものは、この溝に係ると考えられる。

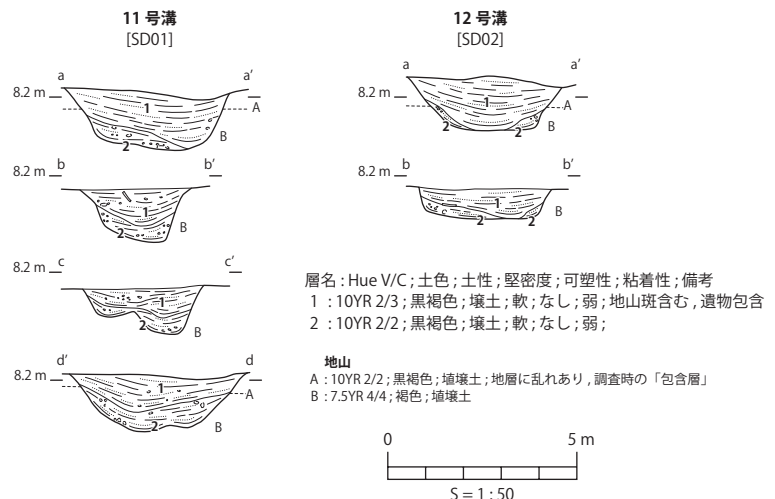


図 28 島遺跡 遺構断面図

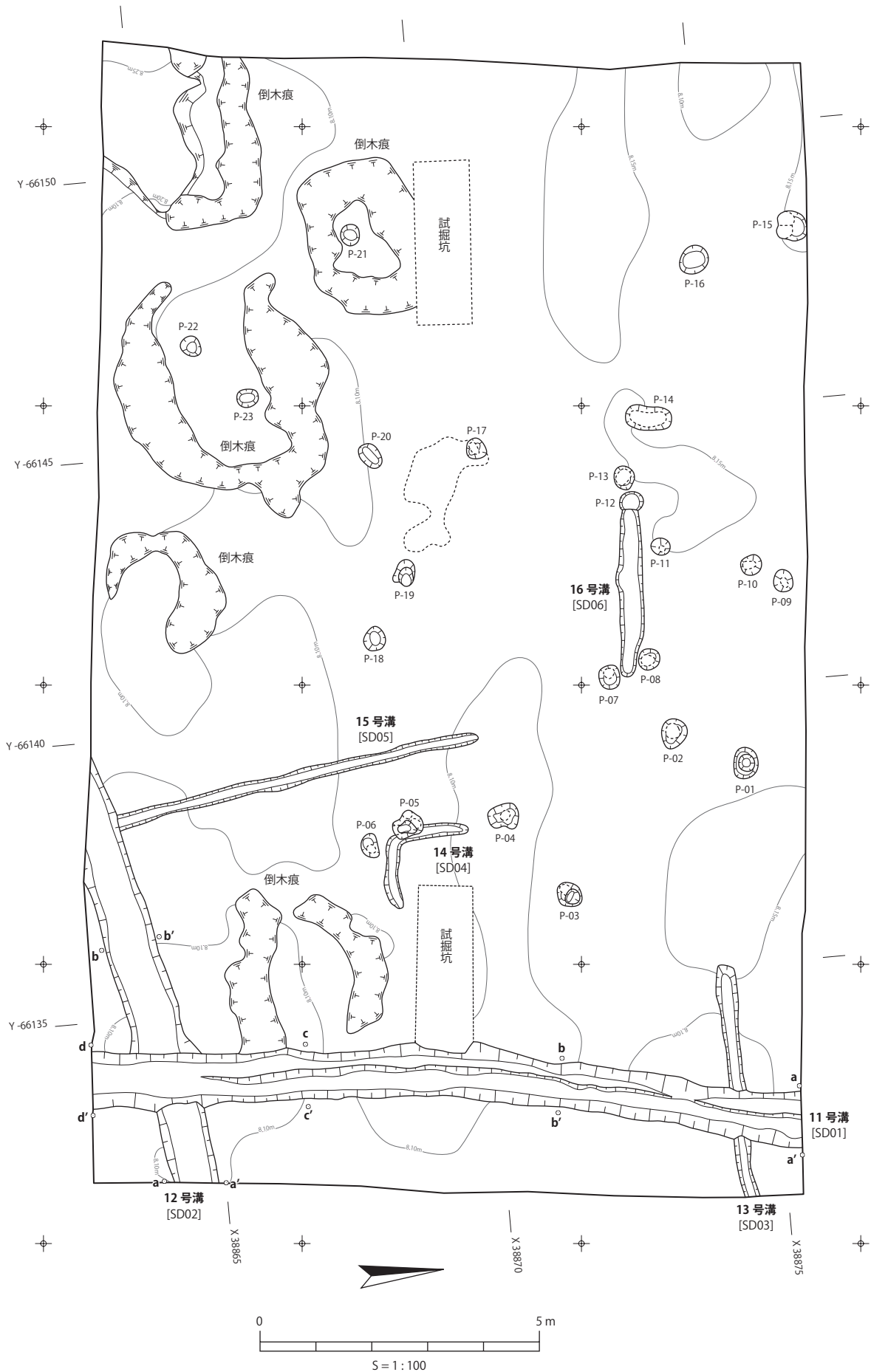


図 29 島遺跡 平面図

(2) 12号溝 [SD02]

11号溝と交差して東西に延びる溝である。幅は、上端で約1m、底面で約70cmを測る。11号溝との切り合い関係が覆土でも確認でき、11号溝が掘削された時点で完全に埋まっていたか、埋め戻されたかと推定される。

(3) 13号溝 [SD03]・14号溝 [SD04]・15号溝 [SD05]・16号溝 [SD06]

幅が上端で約30～40cmを測る浅い溝。直線または矩形に部分的に検出された溝で、小規模な土地を区画する溝の一部と思われる。現在の区画と一致しないことから、少なくとも近代より以前の時代の遺構の可能性はある。有意な出土遺物はない。

2 遺物 (図 30)

(1) 土師器 (1～4)

1・2は甗こしきの把手である。概ね古墳時代～飛鳥時代の資料に比定される。
3・4は高坏の脚部と思われる。3はハの字に開く特徴的な形態で、古墳時代前期の資料に比定される。

(2) 須恵器 (5～16)

5は坏G蓋である。内面に小さな返りがつく最後の型式で、古代Ⅱ₂期の資料に比定される。
6～8は坏B蓋である。口縁端部が折れる型式で、古代Ⅱ₃期の資料に比定される。
9は坏A身と思われる。
10～12は坏B身である。10・11は高台が外反し、12はやや内傾気味になる。概ね古代Ⅲ～Ⅳ期の資料に比定される。
13・14は壺である。短い直口縁で、肩が張りカキメで調整される。既報告資料(市教委1998第32図370)に類似しており、古代Ⅳ₁期に比定されている。

15は壺の底部か。

(3) 炆器 (17)

17は大甕である。瓷器系で、口縁部を欠くために特定はできないが加賀か越前と思われる。

(4) 鍛冶関連遺物 (18)

18は椀形鍛冶滓である。磁着せず、メタルも含まない。

第3節 小結

今調査では、集落の周縁部に関する所見を得ることができた。すなわち11号溝と12号溝であり、集落領域を画する遺構の可能性はある。ここでは集落領域の南限を画する12号溝、西限を画する11号溝という性格付けを想定してみる。

溝の切り合い関係でいえば、12号溝が古く、これが埋没または埋め戻された後に11号溝が掘られている。両者はある程度の排水機能も意図されていたと思われるので、集落の機能に係る溝と考えよう。本報告で図30-14を古代Ⅳ₁期(8世紀後半)と位置づけたが、これは11号溝が埋没した時期の覆土(埋土?)から出土した。これがすなわち廃絶時期を表すものではないが、現段階で推定されている集落の「主要な」時期の前半に一旦途絶したか、何かしらの集落の改変があった可能性がある。同様に12号溝はこれより以前の集落に関わる溝と考えられる。

わずかな情報ではあるが、断片的な所見しか得られていない現段階においては、集落の変遷を考察する上での貴重な情報といえるだろう。

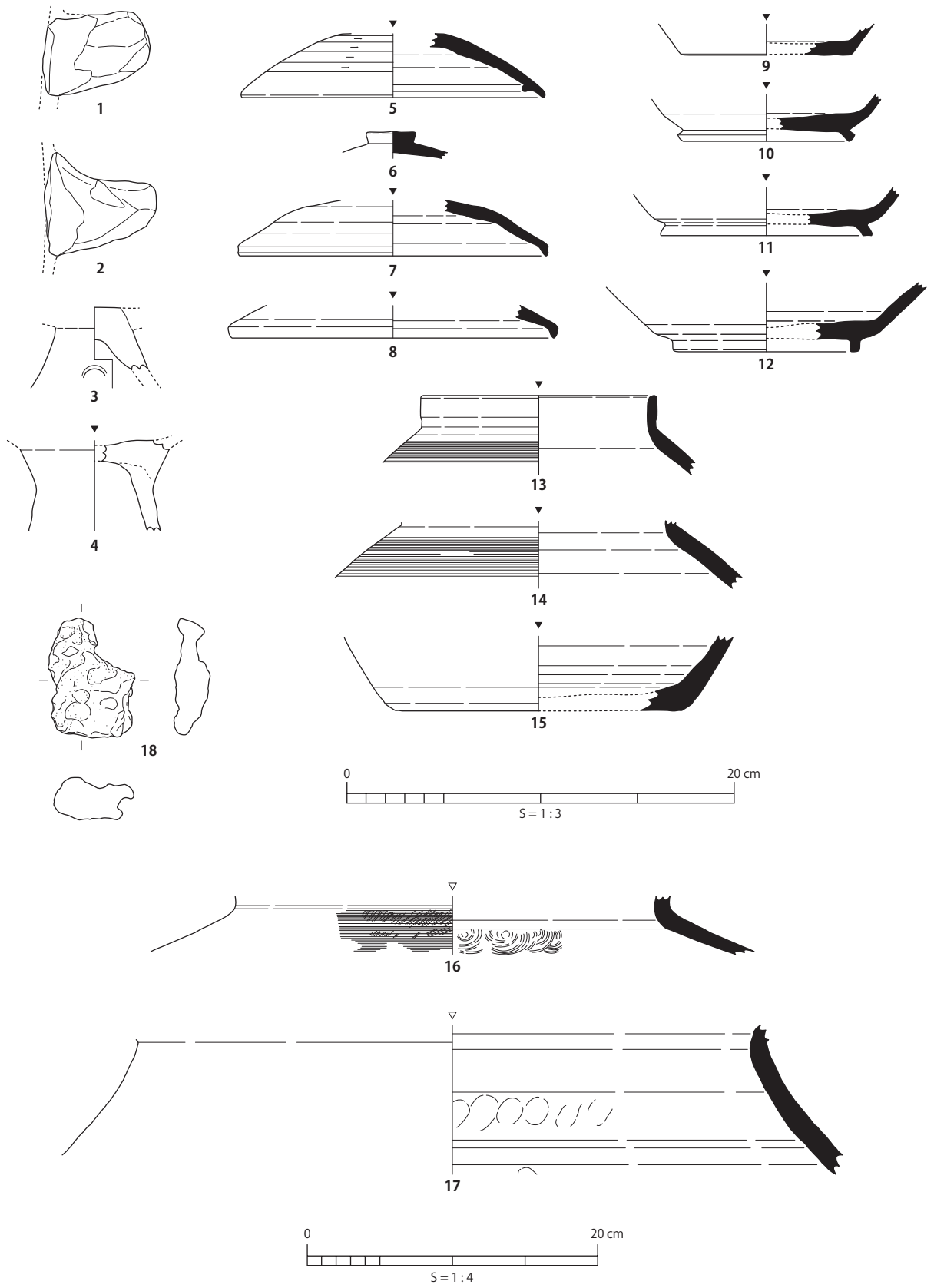


図 30 島遺跡 出土遺物実測図

表6 島遺跡 出土遺物属性表

図	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
30	1	1	A-1 包含層	土師器	甕 (把手)		5YR 6/6	7.5YR 5/1 - 7.5YR 6/3	
	2	2	C-3 包含層	土師器	甕 (把手)		5YR 7/6 - 7.5YR 8/6	7.5YR 7/6	
	3	3	B-4 包含層	土師器	高坏 (脚部)	脚: 4cm/1.000	7.5YR 6/6 - 7.5YR 8/4	5YR 5/1	古墳前期
	4	4	B-3 包含層	土師器	高坏 (脚部)	脚: 7cm/0.250	7.5YR 7/6 - 2.5YR 6/6	7.5YR 6/3 - 2.5YR 7/4	
	5	6	B-3 包含層	須恵器	坏蓋	口: 15.5cm/0.139	2.5Y 6/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 7/1	7c 後半
	6	8	A-3 包含層	須恵器	坏蓋	鈕高: 0.6cm	5YR 3/3 - 5YR 4/3	10YR 6/1	8c 前半
	7	7	B-4 包含層	須恵器	坏蓋	口: 16cm/0.139	2.5Y 4/1 - 5Y 4/1	7.5YR 5/4	8c 後半
	8	5	B-3 包含層	須恵器	坏蓋	口: 16.5cm/0.111	2.5Y 5/1 - 2.5Y 6/2	2.5Y 8/3	8c 前半
	9	12	12 号溝	須恵器	坏身	底: 9cm/0.250	2.5Y 7/1 - 2.5Y 8/1	2.5Y 7/1	
	10	10	(表土除去)	須恵器	坏身	底: 8.5cm/0.250, 台高: 0.5cm	10YR 7/3 - 10YR 7/4	10YR 6/4	8c 前半
	11	11	B-3 トレンチ	須恵器	坏身	底: 11cm/0.278, 台高: 0.6cm	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	2.5Y 7/1	8c 前半
	12	9	A-3 包含層	須恵器	坏身	底: 9.5cm/0.222, 台高: 0.6cm	2.5Y 6/1 - 10YR 7/2	2.5Y 7/1	9c 前半
	13	13	B-3 包含層	須恵器	壺	口: 12cm/0.111, 頸: 12cm/0.028	2.5Y 6/1 - 10YR 4/1	2.5Y 7/1	8c 後半
	14	14	11 号溝	須恵器	壺	頸: 14cm/0.083	2.5Y 7/3 - 10YR 7/2	2.5Y 7/4	8c 後半
	15	15	11 号溝	須恵器	壺	頸: 15cm/0.083	10YR 5/1 - 2.5Y 7/1	10YR 6/2	
	16	20	C-2 包含層	須恵器	大甕	頸: 30cm/0.111	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	10YR 7/3 - 10YR 5/1	
	17	22	A-1 包含層	柘器	大甕		2.5Y 6/1 - 10YR 4/4	2.5Y 8/2	加賀か越前
	18	23	A-2 包含層	椀形鍛冶滓		長: 4.1cm, 幅: 6.1cm, 厚: 2.1cm, 重: 77.6g	2.5Y 3/1		メタル: なし, 磁着: なし

参考文献

- コ 小松市教育委員会 (1991) 戸津古窯跡群 I, 石川県
 小松市教育委員会 (1993) 戸津古窯跡群 III, 石川県
 小松市教育委員会 (1993) ニツ梨豆岡向山古窯跡, 石川県
 小松市教育委員会 (1998) 島遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
 小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I. ニツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
 タ 田嶋 明人 (1988) 古代編年軸の設定, シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編), 北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県

第IV章 吉竹 C 遺跡発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

小松市吉竹町地内に所在する株式会社岩本鉄工所は、かねてより既存の工場の隣に工場新設する計画を構想していた。今調査に係る計画より以前の平成 19 年にも計画があり、埋蔵文化財の取り扱いについて協議がもたれ、小松市教育委員会（以下、市教委）が試掘調査した経緯があり、この時は敷地の一部を試掘した段階で埋蔵文化財が確認されたために、敷地全体を現状のまま保存し、工場新設の計画は一旦保留された状態だった。

今回は平成 23 年 6 月 22 日付けで改めて協議があったものであり、市教委は前回未調査だった敷地の全域を対象に 7 月 28 日に試掘調査を実施した結果、既存工場周囲の削平された区域以外のほぼ全域で埋蔵文化財が確認された。

当該地は段丘上の傾斜地であり、造成工事で水平に整地する必要がある上に埋蔵文化財が表土直下に確認されたなど、現状保存の困難な地形的条件もあった。最終的には敷地のほぼ全域を対象に発掘調査を実施することとなり、文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きを経て平成 23 年 9 月 26 日付けで協定書を交換し、別件調査の傍ら発掘調査の準備に取りかかった。

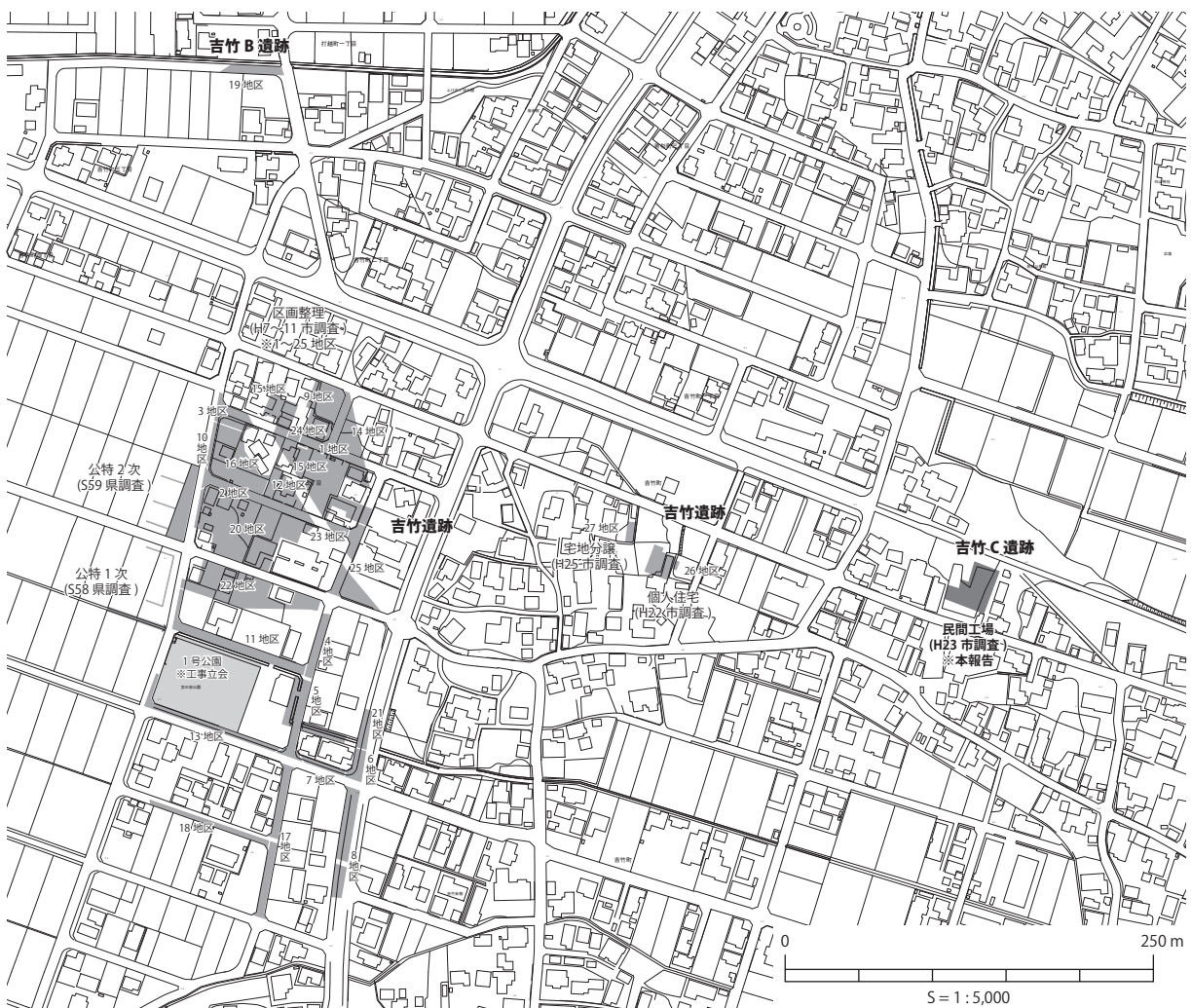


図 31 吉竹 C 遺跡 調査地の位置

(2) 調査の方法

都市計画道路予定地の官民境界杭の一つを原点 (A-5) として 5m 間隔のグリッドを設定した。

遺構の実測は、前年に別件調査で設置した 4 級基準点を利用し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1、断面図は 20 分の 1 である。

(3) 調査の経過

発掘調査は 10 月 3 日より着手した。この時点では別件調査の撤収と埋め戻し、平面図作成等の作業がまだ残っていたが、依頼主側の手配した重機の日程を優先して表土除去にあたった。

本格的に作業を開始したのは 10 月 10 日である。試掘調査の時点で分かっていたことではあるが、表土直下に地山が露出する状況で、包含層を掘削するというよりは、表土の鋤き残しを削るような作業であった。全体的に削平を受けており、遺構のプランは明瞭に確認できた。今調査では十分な調査期間を確保できたとはいいがたい事情があったため、プランの確認は掘削作業と併行して行うこととし、風を潰すように端から順番に掘れるところをすべて掘るような状況だった。

10 月 20 日から翌日にかけて、井戸の調査を残して全景撮影。以降は、井戸の調査とピットの配列の検討を併行して続けた。ピットとして調査したのは 394 基あるが、このうち図 33 で着色したピットを検討の起点としたが、掘方はまちまちで、矩形に配列を見いだすこともできず、成果に結びつけることができなかった。

井戸の調査は 10 月 24 日までに完了し、一部未着手だった範囲の補足調査と平面図作成を行い、埋め戻しが不要であることを確認、11 月 2 日に現場を引き渡した。

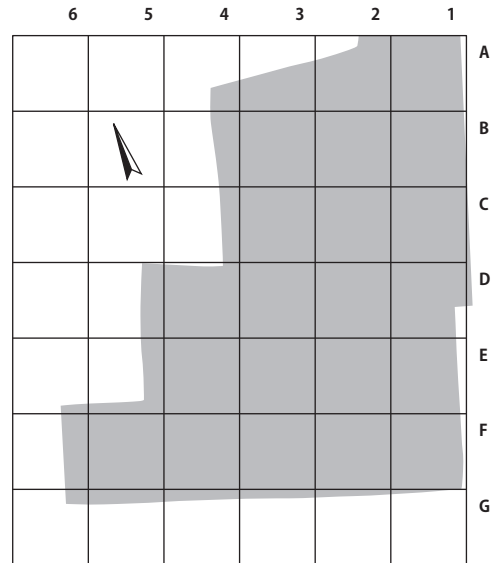


図 32 吉竹 C 遺跡 グリッド配点図

第 2 節 遺構と遺物

1 遺構 (図 33・34)

(1) 漏斗状の土坑

地山下層まで掘削された土坑であり、地下水が染み出し水がたまることから、概ね井戸と考えられる。遺物は主に上層部から出土する。

SK02 直径約 1.3～1.4m の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 1.7m を測る。井戸側等の埋設は痕跡も確認されない。

SK03 一辺約 1.8m の略方形のプランであり、上端から約 2m 掘削したが、底面に到達しなかった。掘方の上部約 40～90cm までの深さではプランが明瞭な方形を呈しており、井戸側が組まれていた可能性がある。

(2) 筒状の土坑

底面がある程度平らに均され、掘方が筒状を呈する土坑である。削平の程度にもよるが、遺物は主



図 33 吉竹 C 遺跡 平面図

に下層部または底面付近から出土する傾向があるようだ。

SK07 一辺約 1m の略方形プランで、上端から底面までの深さは約 80 ~ 90cm を測る。下層部から土師器碗の一括資料が出土した。また、北東に約 5m 離れた P212 から同様に土師器碗皿の一括資料が出土した。

SK04 直径約 1m のいびつな略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 15cm を測る。

SK09 直径約 75cm の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 20cm を測る。底面には下層地山が露出しており、調査地は整地によって傾斜が緩くなった可能性を示唆している。

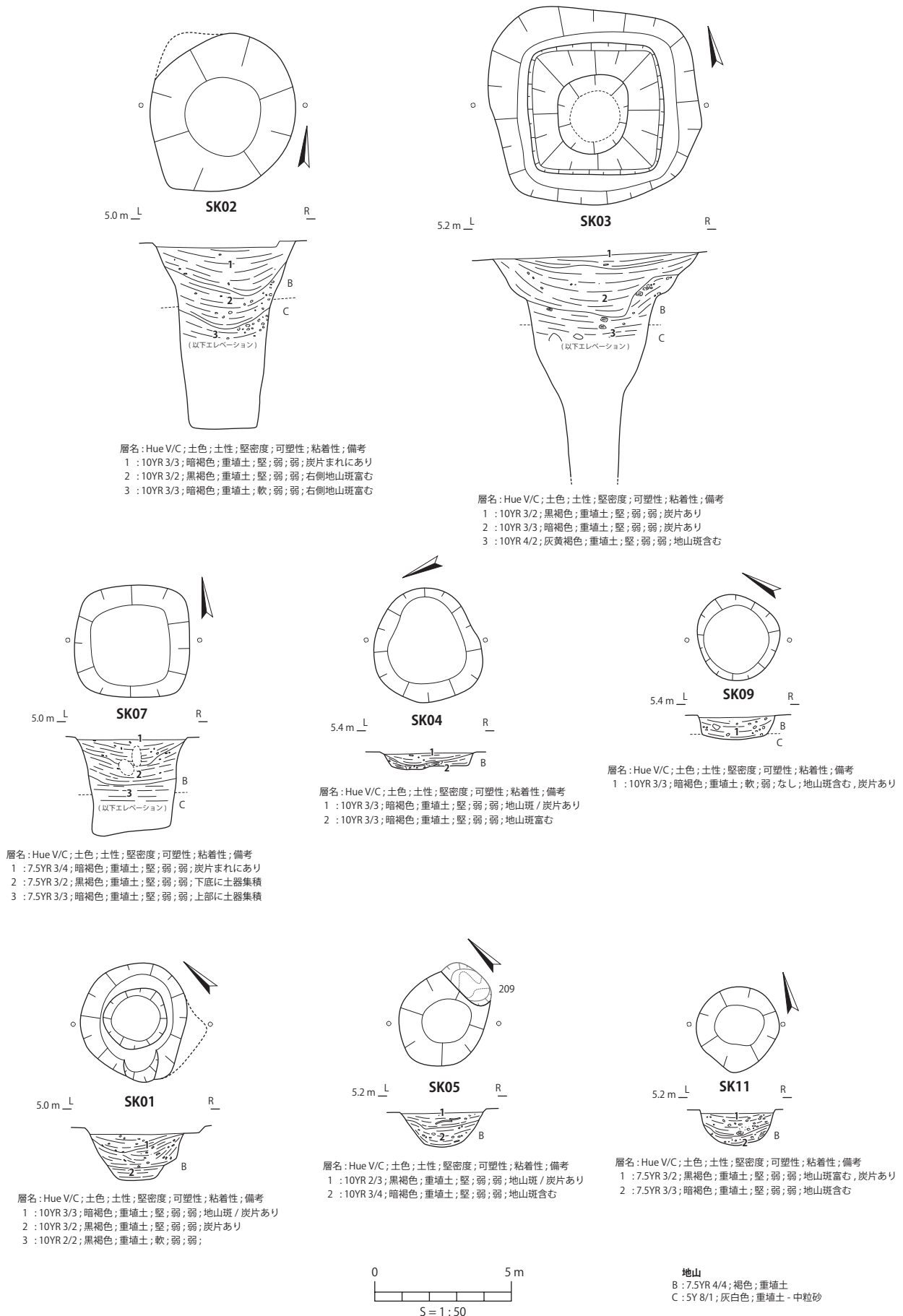


図 34 吉竹 C 遺跡 遺構実測図

(3) 鉢状の土坑

底面はほとんど平らに均されずに凹み、掘方が鉢状を呈する土坑である。削平の程度にもよるが、遺物は主に下層部または底面付近から出土する傾向があるようだ。

SK01 直径約 1m の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 50cm を測る。

SK05 直径約 75cm の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 35cm を測る。

SK11 直径約 70cm の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 35cm を測る。

2 遺物 (図 35 ~ 37)**(1) 古墳時代の遺物 (1 ~ 10)**

1 ~ 4 は土師器であり、1・2 は甕形、3 は埴形、4 はミニチュアである。概ね漆町編年 14・15 群かそれ以降に比定される。5 ~ 9 は須恵器蓋坏であり、5 ~ 7 は陶器 TK47 型式、8・9 は MT15 ~ TK10 型式併行に比定される。10 は勾玉である。古墳時代前期の所産か。

(2) 古代の遺物 (11 ~ 18)

11 は土師器鍋と思われる。12 ~ 18 は須恵器であり、12・13 は坏 A、14 は高坏脚部、15 は瓶、16 は横瓶、17・18 は甕である。口縁部の特徴から概ね古代 V 期の範疇で 9 世紀前半と思われる。

(3) 平安時代後期の遺物 (19 ~ 41)

19 ~ 27 は P212 出土の土師器皿及び埴である。前年調査の吉竹遺跡 26 地区出土資料 (市教委 2013) が類似しており、中世 I-I (南加賀 8A) 期の範疇で 11 世紀後半と考えたい。

28 ~ 40 は SK07 出土の土師器埴である。千代オオキダ遺跡 196 号土坑出土資料 (市教委 2006) 等に比定して古代 VII (南加賀 7) 期の範疇で 10 世紀後半と考えたい。41 は、共伴した土錘である。

(4) 中世の遺物 (42 ~ 47)

すべて炆器である。42 ~ 44 は珠洲であり、42 は大甕、ほかは小壺である。45 はハケメ調整が特徴的な甕であり、初期の加賀とされる類例がある (石川県立埋文 1988)。46 は鉢であり、口縁部の形態は加賀の特徴に似るか。47 は加賀播鉢である。

以上のうち、42 ~ 44・47 は、概ね 13 世紀代の所産と思われる。

第 3 節 小結

本報告は主な遺物が出土した遺構の分類のみにとどまったが、いくらか示唆的な成果があった。

一つは集落遺跡の分布についてであり、近隣の吉竹遺跡と関連を持つもう一つの集落の存在が垣間見えたことである。今調査では集落遺跡の傍証を得ただけだったにせよ、わずかかもしれないが新しい所見が得られたことを重視したい。

旧来の吉竹集落は、沖積層に囲まれた低平な段丘に立地し、独立丘が南北に 2 つと東側に丘陵地から北西に舌状に伸びる台地があり、いずれも地質的には高位段丘に分類される。この 2 つの独立丘と舌状台地の先端部に、都合 3 つの集落を形成していた。吉竹 C 遺跡はこれらのうち舌状台地先端部に位置する遺跡であり、今調査区はこの先端部にあたる。

もう一つは出土遺物についてであり、吉竹遺跡との比較において、土器だけ見れば内容はよく似ている。しかしながら、今調査では鍛冶関連遺物が確認されていない。勿論、今後出土しないとも限らないが、現段階では、吉竹 C 遺跡と吉竹遺跡では集落としての性格が異なる、という可能性も考慮しておきたい。

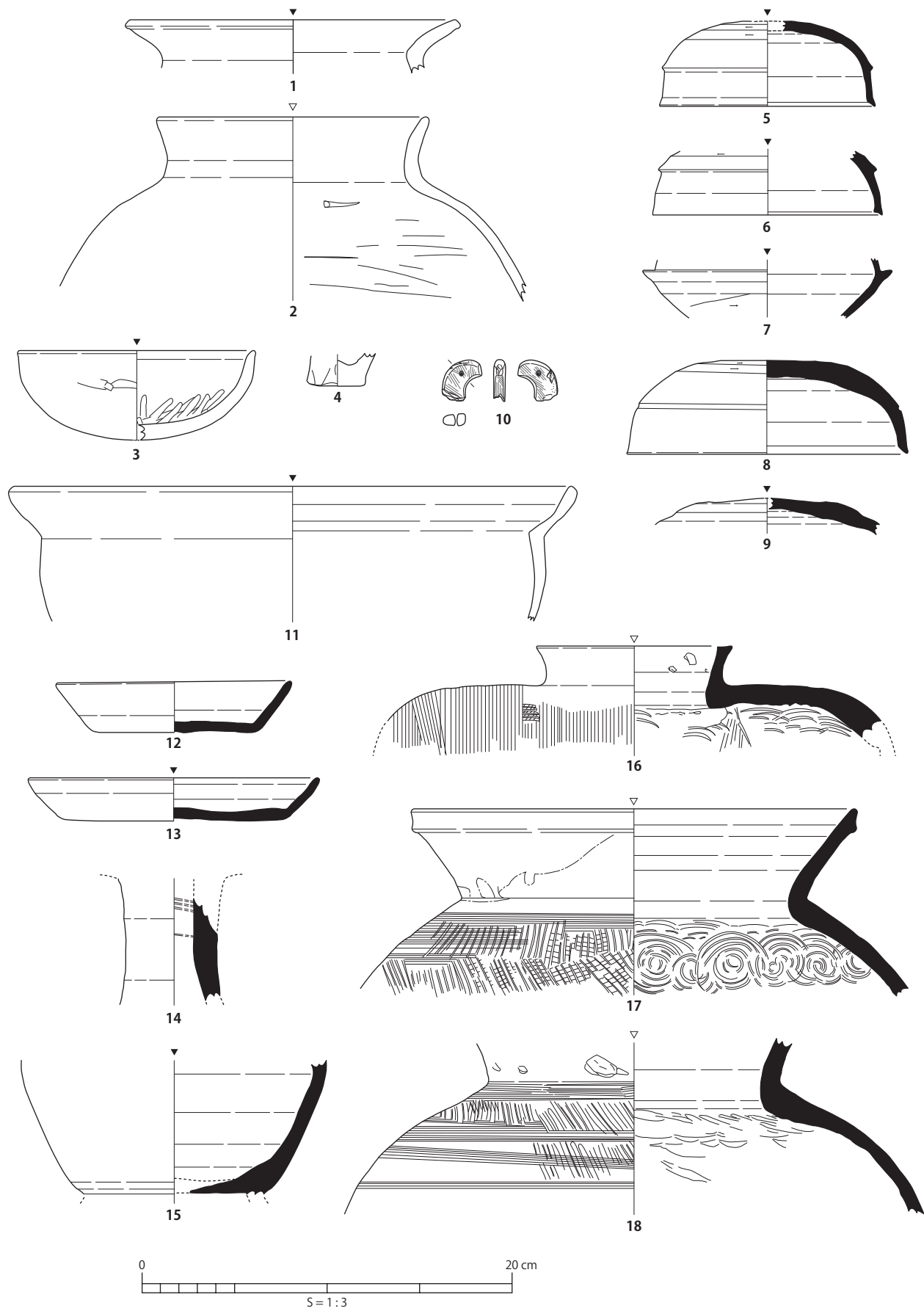


图 35 吉竹 C 遺跡 出土遺物実測図 1

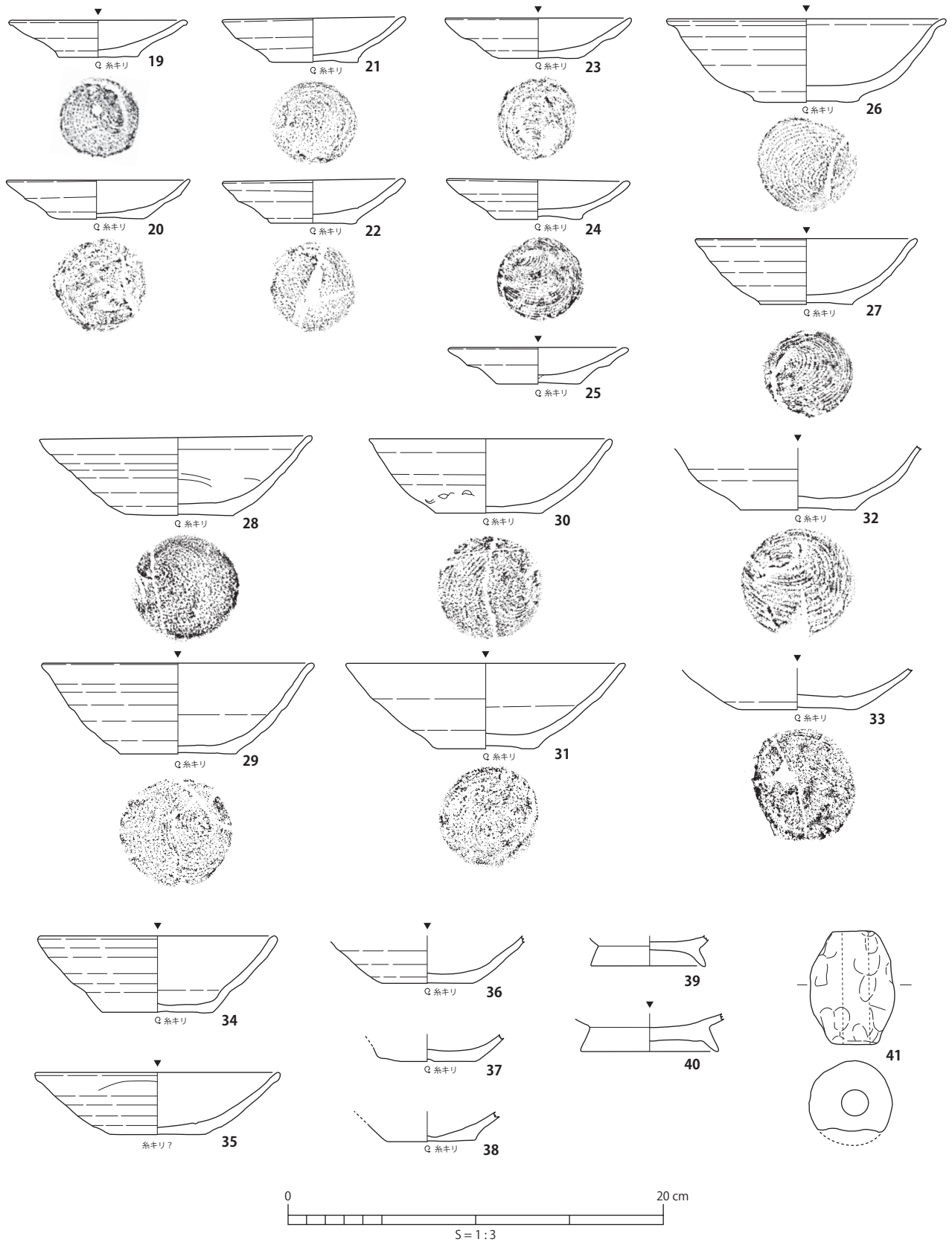


図 36 吉竹 C 遺跡 出土遺物実測図 2

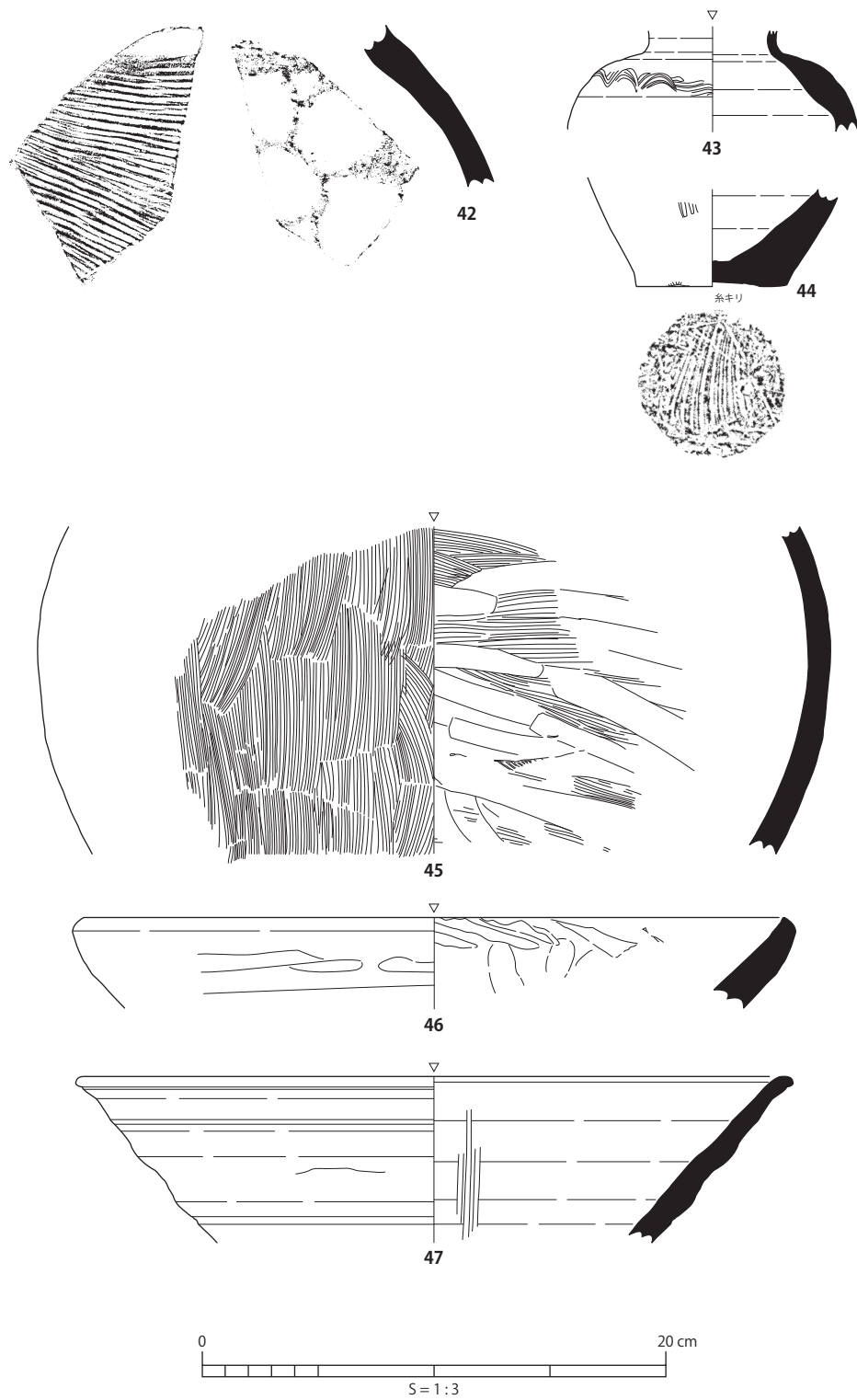


图 37 吉竹 C 遺跡 出土遺物実測図 3

表 7 吉竹 C 遺跡 出土遺物属性表

図	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
35	1	27	P282	土師器	甗	口: 18cm/0.097, 頸: 14cm/0.111	7.5YR 5/2 - 10YR 7/2	7.5YR 5/1	古墳後期
	2	26	SK05	土師器	甗	口: 14.5cm/0.111, 頸: 13.5cm/0.333	10YR 8/4 - 10YR 7/1	10YR 8/4 - 10YR 5/1	古墳後期
	3	25	SK05	土師器	碗	口: 13cm/0.194, 高: 4.8cm	5YR 4/3 - 5YR 5/6	5YR 6/6	古墳後期
	4	28	F-3 包含層	土師器	ミニチュア	底: 3cm/0.667	5YR 7/6 - 7.5YR 8/3	5YR 7/6	古墳後期
	5	37	P44	須恵器	坏蓋	口: 11.5cm/0.194, 高: 4.6cm	2.5Y 7/1 - 10YR 5/1	10YR 4/1	TK47
	6	38	P282	須恵器	坏蓋	口: (12cm)	N 4/0 - N 3/0	10YR 4/1 - 10YR 3/2	TK47
	7	41	P258	須恵器	坏身	受: 13.5cm/0.194	N 5/0 - N 4/0	N 5/0	TK47
	8	40	SK04	須恵器	坏蓋	口: 15cm/0.528, 高: 5.0cm	2.5Y 5/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 7/2	MT15-TK10
	9	39	P357	須恵器	坏蓋		2.5Y 7/1 - 2.5Y 6/2	2.5Y 7/2	MT15-TK10
	10	47	P357		勾玉	幅: 2.1cm, 厚: 0.6cm, 重: 3.55g			蛇紋岩
	11	24	SK03	土師器	鍋	口: 30cm/0.139, 頸: 27cm/0.250	10YR 8/3	10YR 5/1	
	12	30	SK02	須恵器	坏身	口: 12.5cm/0.611, 底: 8.5cm/0.806, 高: 2.7cm	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	9c 前半
	13	29	SK02	須恵器	盤身	口: 15.5cm/0.111, 底: 12cm/0.528, 高: 2.3cm	10YR 7/1	10YR 7/1	9c 前半
	14	33	F-5 包含層	須恵器	高坏 (脚部)	脚: 5.5cm/1.000	10YR 7/1 - 10YR 3/1	10YR 6/1	
	15	31	SK02	須恵器	瓶	底: 10cm/0.306	10YR 6/1	10YR 7/1	
	16	36	SK03	須恵器	横瓶	口: 10.5cm/0.361, 頸: 9.5cm/0.555	7.5YR 6/1 - 10YR 6/2	10YR 6/1	9c 前半
	17	35	SK02	須恵器	甗	口: 24cm/0.194, 頸: 18.5cm/0.306	2.5Y 7/1	2.5Y 7/2	9c 前半
	18	34	F-4 包含層	須恵器	甗	頸: 15.5cm/0.194	2.5Y 7/1 - 2.5Y 5/1	2.5Y 7/3	
36	19	3	P212	土師器	皿	口: 9.5cm/0.389, 底: 4cm/1.000, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	11c 後半
	20	4	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.861, 底: 5cm/1.000, 高: 2.1cm	7.5YR 8/4 - 5YR 7/6	10YR 8/4	11c 後半
	21	5	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.639, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.4cm	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/3	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/3	11c 後半
	22	6	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.750, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.4cm	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	11c 後半
	23	7	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.167, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.1cm	5YR 7/6	5YR 7/6	11c 後半
	24	8	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.611, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.1cm	7.5YR 8/5 - 7.5YR 8/4	7.5YR 8/2	11c 後半
	25	9	P212	土師器	皿	口: 10cm/0.361, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4 - 7.5YR 8/6	7.5YR 8/4	11c 後半
	26	1	P212	土師器	碗	口: 15cm/0.194, 底: 5.5cm/1.000, 高: 4.4cm	7.5YR 8/6	10YR 8/4	11c 後半
	27	2	P212	土師器	碗	口: 12cm/0.722, 底: 5cm/1.000, 高: 3.5cm	10YR 8/3	10YR 8/2	11c 後半
	28	10	SK07	土師器	碗	口: 14.5cm/0.361, 底: 6cm/1.000, 高: 4.2cm	7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	10c 後半
	29	11	SK07	土師器	碗	口: 14.5cm/0.472, 底: 6cm/1.000, 高: 4.9cm	10YR 8/4 - 5YR 7/6	5YR 7/6	10c 後半
	30	13	SK07	土師器	碗	口: 13.5cm/0.306, 底: 5.5cm/1.000, 高: 3.9cm	10YR 8/3 - 5YR 7/6	10YR 8/4	10c 後半
	31	14	SK07	土師器	碗	口: 15cm/0.139, 底: 5.5cm/1.000, 高: 4.6cm	10YR 8/3 - 5YR 7/6	10YR 8/3	10c 後半
	32	21	SK07	土師器	碗	底: 6cm/1.000	7.5YR 8/6 - 7.5YR 7/6	7.5YR 8/2	10c 後半
	33	22	SK07	土師器	碗	底: 6cm/0.694	10YR 8/3 - 10YR 5/1	10YR 8/4 - 10YR 6/2	10c 後半
	34	12	SK07	土師器	碗	口: 12.5cm/0.333, 底: 6cm/0.583, 高: 5.1cm	7.5YR 8/6 - 5YR 7/6	7.5YR8/6 - 5YR 7/6	10c 後半
	35	15	SK07	土師器	碗	口: 13cm/0.306, 底: 5cm/0.333, 高: 3.3cm	10YR 8/4 - 5YR 7/6	10YR 8/4	10c 後半
	36	16	SK07	土師器	碗	底: 5cm/1.000	7.5YR 8/6 - 5YR 7/6	7.5YR 8/6	10c 後半
	37	17	SK07	土師器	碗	底: 5cm/1.000	10YR 8/4	10YR 8/4	10c 後半
	38	18	SK07	土師器	碗	底: 5cm/1.000	10YR 8/4	10YR 8/4	10c 後半
	39	19	SK07	土師器	碗	底: 6cm/0.444, 台高: 0.9cm	5YR 7/6	5YR 7/6	10c 後半
	40	20	SK07	土師器	碗	底: 7cm/0.389, 台高: 1.3cm	7.5YR 8/6 - 7.5YR 8/3	7.5YR 8/4	10c 後半
	41	23	SK07		土錘	長: 6cm, 径: 4.5cm, 孔径: 1.4cm	10YR 8/4		
	37	42	43	SK03	炆器	大甗		N 5/0	N 6/0
43		45	SK03	炆器	小壺	頸: 5.5cm/0.389	7.5Y 4/1 - N 3/0	N 6/0 - N 4/0	珠洲, 13c
44		44	SK03	炆器	小壺	底: 6.5cm/1.000	N 4/0 - N 7/0	N 6/0	珠洲, 13c
45		42	SK03	炆器	甗	胴: 34cm/0.278	2.5Y 7/1 - N 4/0	N 7/0	加賀?
46		32	F-3 包含層	炆器	鉢	口: 31cm/0.111	10YR4/1 - 2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	加賀?
47		46	F-5 包含層	炆器	搦鉢	口: 30.5cm/0.042	7.5YR 4/2 - 7.5YR 4/3	7.5YR 6/1	加賀, 13c

表 8 吉竹遺跡群 略年表

時 期	吉 竹 遺 跡	吉 竹 C 遺 跡	備 考
法仏期	2・7・8号竪穴建物、2・7・9・15・19・22・28号掘立柱建物、6号土坑、1・2号溝		盛期 1
月影期	1・6・9号竪穴建物、8・13・18・25号掘立柱建物、17号土坑 12・(14)・23号掘立柱建物、16号土坑		
白江期	(14号掘立柱建物)、11・19号土坑	(P357)	吉竹 B 遺跡の堰
4 世紀	4・13・15号土坑		
5 世紀	4・5号竪穴建物、1・10・11・17・20号掘立柱建物、3・5・7・8・9・10・12・14号土坑、3号溝		盛期 2
6 世紀	1・2号土坑 18号土坑	SK04、SK05	
7 世紀	(10号竪穴建物?)		
8 世紀			
9 世紀	(10号竪穴建物)	SK02[井戸]	
10 世紀		SK07	
11 世紀		P212	
12 世紀	33号掘立柱建物		
13 世紀	(30・32号掘立柱建物)	SK03[井戸]	鍛冶関連遺物
14 世紀	(30)・31号掘立柱建物、4・6号溝、21号土坑		
15 世紀以降			文献上に「吉武村」

参考文献

- イ 石川県立埋蔵文化財センター (1986) 漆町遺跡 I, 石川県小松市
石川県立埋蔵文化財センター (1987) 吉竹遺跡, 石川県小松市
石川県立埋蔵文化財センター (1988) 辰口西部遺跡群 I, 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 辰口町上徳山谷山西谷窯跡, 石川県能美市
- コ 小松市教育委員会 (1991) 戸津古窯跡群 I, 石川県
小松市教育委員会 (2001) 吉竹遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群, 石川県
小松市教育委員会 (2006) 千代オオキダ遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2013) 小松市内遺跡発掘調査報告書 IX . 吉竹遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2013) 吉竹遺跡 II, 石川県
- ス 珠洲市立珠洲焼資料館 (1989) 珠洲の名陶, 石川県
- タ 田嶋 明人 (1988) 古代編年軸の設定, シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編), 北陸古代土器研究会・石川県考古学研究会, 石川県
辰口町教育委員会 (2005) 和気後山谷窯跡群, 石川県能美市
田辺 昭三 (1981) 須恵器大成, 角川書店
- テ 出越 茂和 (1997) 北陸古代後半における椀皿食器 (後), 北陸古代土器研究 第 7 号, 北陸古代土器研究会 編
- ミ 宮下 幸夫 (1997) 在地窯「加賀窯」, 中・近世の北陸, 北陸中世土器研究会 編, 桂書房
- モ 望月 精司 (2008) 南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察, 額見町遺跡 III, 小松市教育委員会, 石川県



借屋 9 号墳 作業状況



借屋 9 号墳 遺物出土状況



借屋 9 号墳 完掘状況



借屋 9 号墳 完掘状況



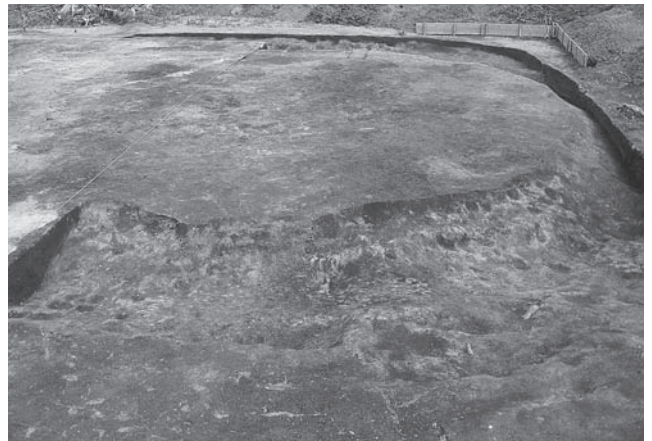
借屋 10 号墳 作業状況



借屋 10 号墳 遺物出土状況



借屋 10 号墳 完掘状況



借屋 10 号墳 完掘状況



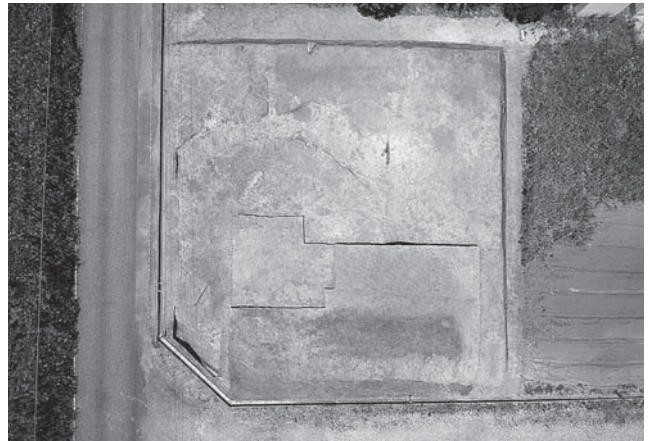
借屋 11 号墳 作業状況



借屋 11 号墳 完掘状況



借屋 11 号墳 完掘状況



借屋 9 号墳 垂直写真



借屋 10 号墳 垂直写真



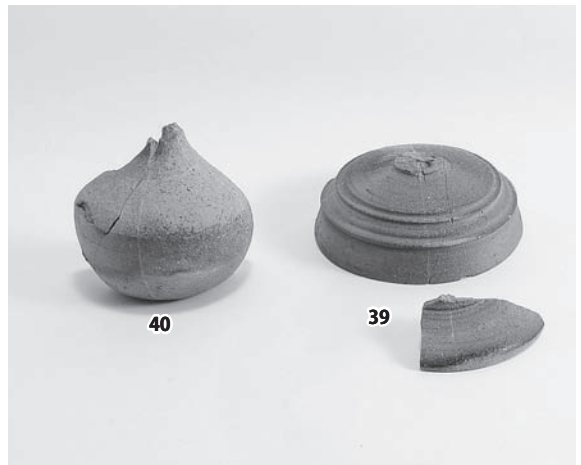
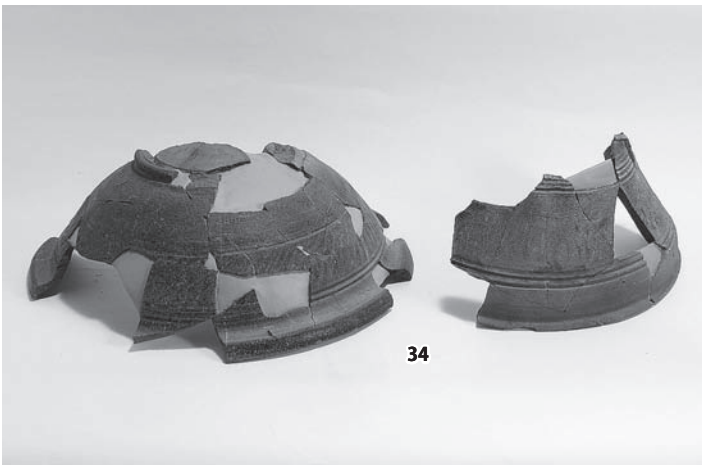
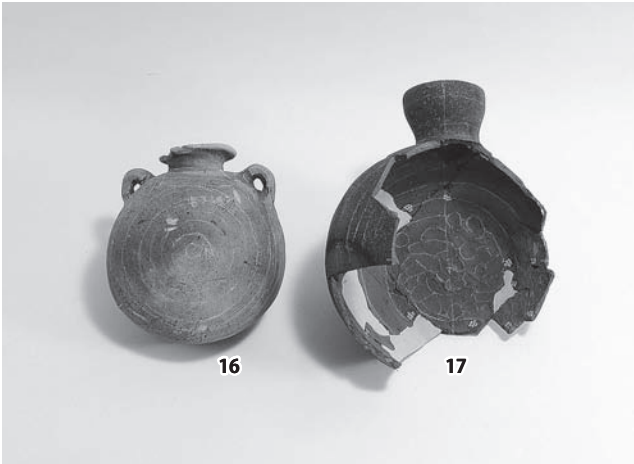
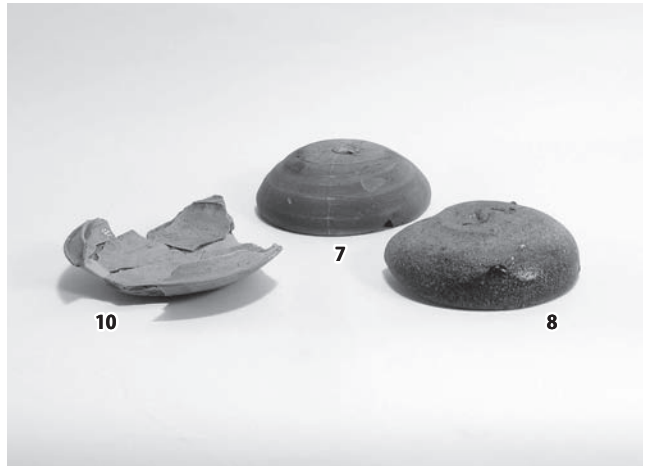
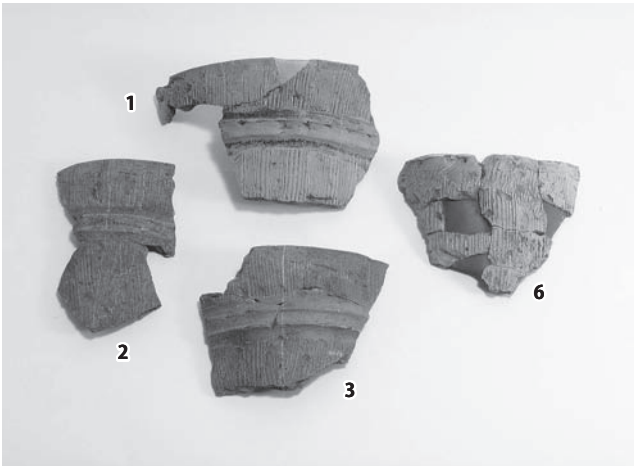
借屋 11 号墳 垂直写真

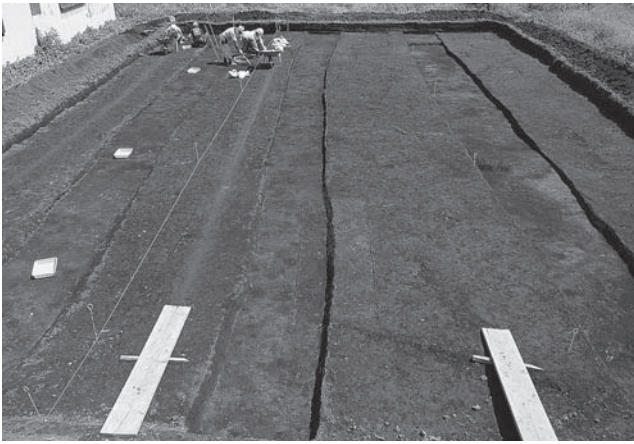


矢田借屋古墳群 調査区全景



矢田借屋古墳群 調査区全景





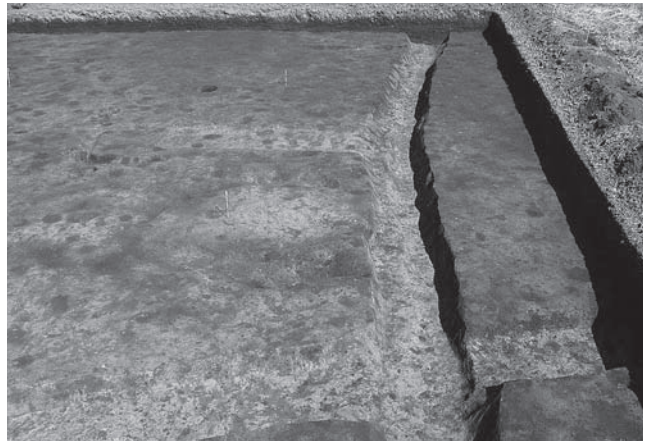
作業状況



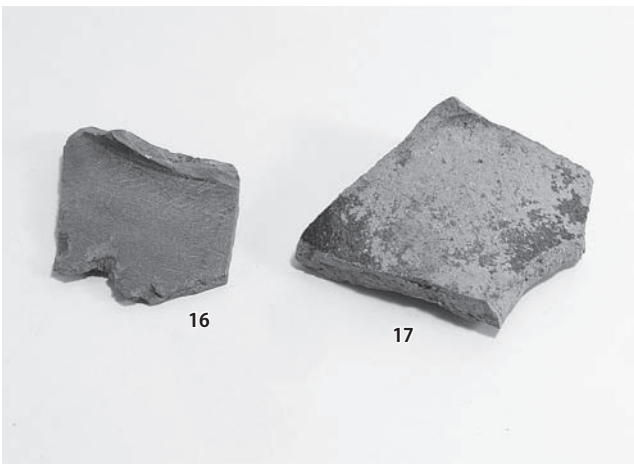
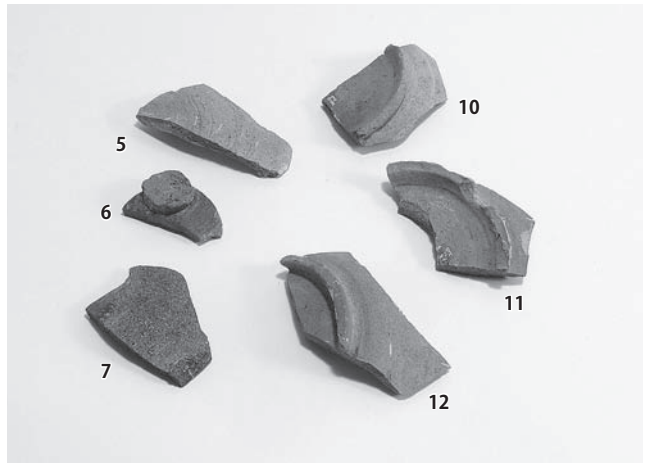
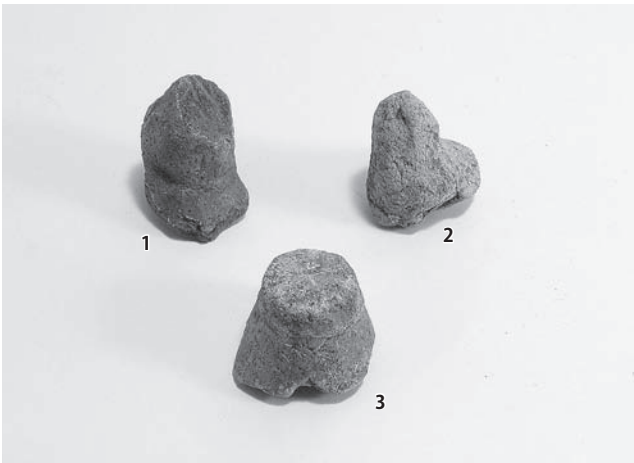
作業状況



12号溝



11号溝





作業状況



完掘状況



SK02 セクション



SK02



SK03 セクション



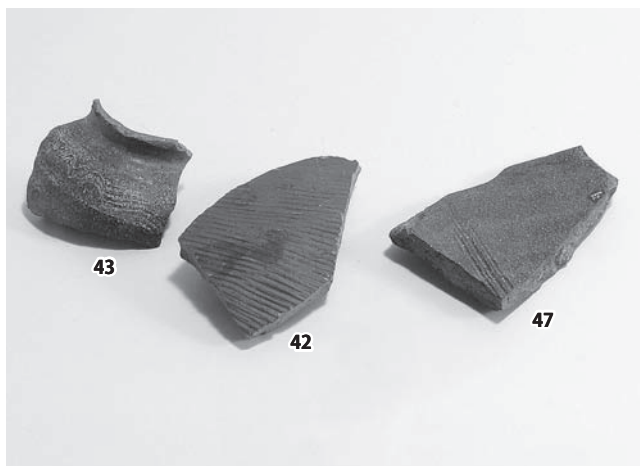
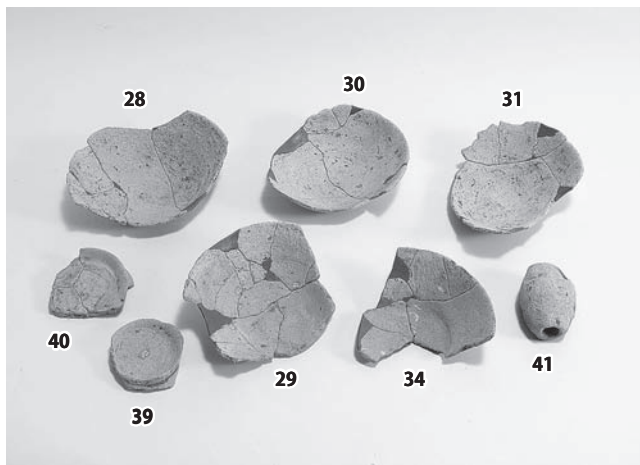
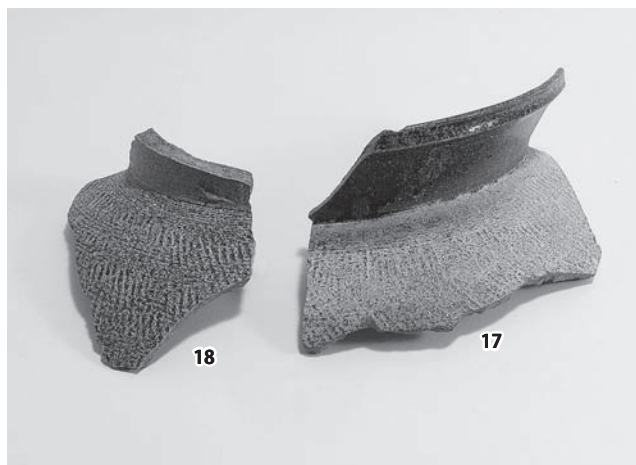
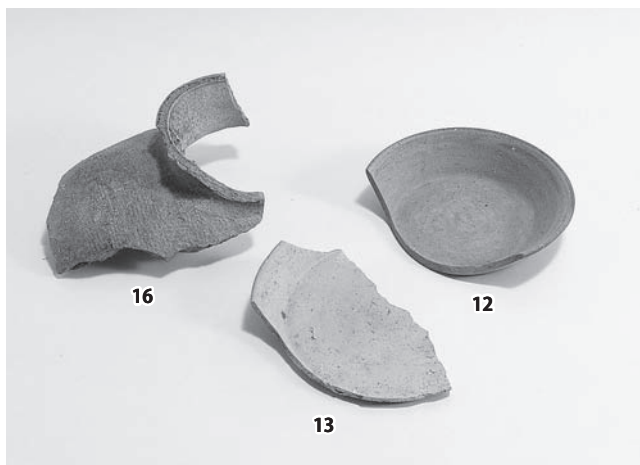
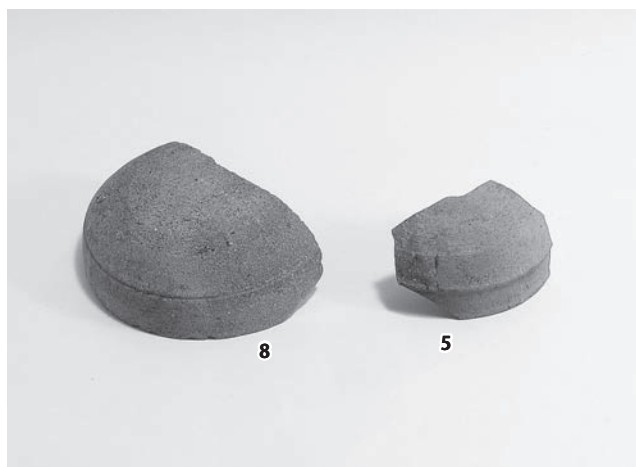
SK03



SK07 遺物出土状況



SK07 セクション



報告書抄録

ふりがな	こまつしないいせきはくつちようさほうこくしょ 10
書名	小松市内遺跡発掘調査報告書 X
副書名	矢田借屋古墳群・島遺跡・吉竹 C 遺跡
巻次	
編・著者名	宮田 明
編集機関	石川県小松市教育委員会
所在地	〒 923-8650 石川県小松市小馬出町 91 番地 TEL (0761) 22-4111 (代)
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やたかりや 矢田借屋 こふんぐん 古墳群	いしかわけん こまつし 石川県小松市 つきづまち 月津町	17203	03103	36° 20' 51"	136° 24' 51"	2010. 4.26 ~ 2010. 8. 4	1,140	個人農地造成
しま 島	いしかわけん こまつし 石川県小松市 しままち 島町	17203	03118	36° 20' 53"	136° 25' 47"	2011. 9. 1 ~ 2011.10. 8	310	個人住宅建設
よしたけ シー 吉竹 C	いしかわけん こまつし 石川県小松市 よしたけまち 吉竹町	17203		36° 23' 34"	136° 28' 51"	2011.10. 3 ~ 2011.11. 2	617	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢田借屋 古墳群	古墳	古墳	円墳 3	埴輪、須恵器、土師器	
要約	借屋 9 ~ 11 号墳の未調査部分の調査。未確認だった 10 号墳の主体部は削平によって消滅していたことが確認された。				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島	集落	古墳 古代	溝 2	須恵器、土師器	
要約	調査された溝は、集落領域を画する溝と思われる。				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉竹 C	集落	古墳 古代 中世	土坑 7、井戸 2	須恵器、土師器、中世陶器（加賀、珠洲）	
要約	近隣の吉竹遺跡と関連を持つもう一つの集落遺跡と考えられる。				

小松市内遺跡発掘調査報告書 X

矢田借屋古墳群・島遺跡・吉竹 C 遺跡

平成 26 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 石川県小松市教育委員会
石川県小松市小馬出町 91 TEL (0761) 22-4111

印刷 株式会社ゲンダ美術印刷
石川県小松市丸の内町 2-32 TEL (0761) 22-7031
